

平成 29 年度海外農業・貿易投資環境調査
分析委託事業（サウジアラビア）

最終報告書

平成 30 年 3 月

株式会社 野村総合研究所

注意事項

本事業は、農林水産省大臣官房国際部の委託により、株式会社野村総合研究所が実施したものであり、本報告書の内容は農林水産省の見解を示すものではありません。

免責事項

農林水産省及びその委託事業者である株式会社野村総合研究所は、本報告書の記載内容に関して生じた直接的、間接的、派生的、特別の、付随的、あるいは懲罰的損害及び利益の喪失については、それが契約、不法行為、無過失責任、あるいはその他の原因に基づき生じたか否かにかかわらず、一切の責任を負うものではありません。

目次

第1章 本事業の目的および事業内容.....	1
1-1 本事業の目的.....	1
1-2 事業内容.....	1
第2章 サウジアラビアの農業・水産業および食品産業.....	3
2-1 農業、水産業.....	3
2-1-1 サウジアラビア概要.....	3
2-1-1 農産品の消費と輸出入.....	5
2-1-2 農産品の生産.....	6
2-1-3 漁業、水産養殖.....	18
2-1-4 農薬、肥料.....	20
2-1-5 農業機械.....	22
2-2 特定農水産品別ケーススタディ.....	23
2-2-1 デーツ（ナツメヤシ）.....	23
2-2-2 小麦.....	25
2-2-3 トマト.....	27
2-2-4 スイカ.....	28
2-2-5 レタス.....	29
2-2-6 ジャガイモ.....	30
2-2-7 キュウリ.....	31
2-2-8 鶏卵.....	32
2-2-9 ブロイラー.....	33
2-2-10 エビ.....	34
2-2-11 牛乳.....	35
2-3 食品産業とサプライチェーン.....	36
2-3-1 食品産業と市場、貿易.....	36
2-3-2 サプライチェーン.....	38
第3章 サウジアラビアの食生活.....	42
3-1 サウジアラビアの食に関する習慣.....	42
3-2 サウジアラビアの家庭料理.....	43
3-3 サウジアラビアの外食産業.....	45
第4章 サウジアラビアの健康食品市場.....	48
4-1 サウジアラビアの健康食品市場と流通状況.....	48
4-2 健康食品に係る制度・規制.....	49
4-3 サウジアラビア人の健康食品に関する意識調査.....	51
4-3-1 調査概要.....	51
4-3-2 回答結果の概要と示唆.....	51
第5章 農業・食品に関する政策、規制、手続き.....	55
5-1 農業・食品関連政府組織.....	55
5-2 サウジアラビアにおける農業・食品政策の位置づけ.....	56

5-2-1	サウジ・ビジョン 2030 概要.....	56
5-2-2	食品の輸入に関わる規制.....	61
5-2-3	食品の輸出に関わる規制と政府支援.....	65
5-2-4	投資規制と政府支援.....	67
5-2-5	ハラル規制に関するまとめ.....	69
第6章	サウジアラビアにおける日本企業の展開状況.....	71
6-1	サウジアラビアへの日本企業の展開状況.....	71
6-2	サウジアラビアへの事業展開における課題.....	72
第7章	日本企業にとっての商機.....	73
7-1	サウジアラビア政府の日本への期待.....	73
7-2	日本企業の商機.....	73
7-2-1	植物工場（トマト、レタス等）.....	73
7-2-2	水産養殖.....	75
7-2-3	健康食品（肥満対策）.....	77
第8章	「サウジアラビア農業・食品ビジネスセミナー」の実施.....	81
8-1	実施概要.....	81
8-2	外部講師による講演内容.....	82
8-3	パネルディスカッションの議事内容.....	83
8-4	出口アンケートの結果.....	85
参考1	サウジアラビア人の健康食品に関する意識調査.....	89
1-1	調査概要.....	89
1-2	回答者の属性.....	89
1-3	回答結果の集計と分析.....	92
参考2	周辺国の農業政策.....	116
2-1	農業・水産関連データの周辺国との比較.....	116
2-2	周辺国の農業政策.....	118
2-2-1	アラブ首長国連邦.....	118
2-2-2	カタール.....	118
2-2-3	クウェート.....	119
2-2-4	オマーン.....	120
2-2-5	バーレーン.....	121
2-2-6	イラン.....	121
2-2-7	イラク.....	123

第1章 本事業の目的および事業内容

1-1 本事業の目的

世界の食市場の規模は 340 兆円（平成 21 年）から 680 兆円（平成 32 年）に倍増すると予測されており、急速に拡大する世界の食市場を取り込み、我が国農林水産業・食関連産業の海外展開を図っていくことが必要とされている。このため、我が国の農林水産業・食関連企業（以下「日本企業」という。）の「強み」を活かし、農産物の生産から加工・製造、流通、消費に至るフードバリューチェーン（以下「FVC」という。）の構築を各国と協力して進めていくための指針として取りまとめたグローバル・フードバリューチェーン戦略に基づき、食のインフラシステムの輸出による中小企業も含めた食産業の海外展開を促進するための具体的取組を進めていく必要がある。

こうした中、本年 3 月にサウジアラビア王国（以下「サウジ」という。）のサルマン国王が来日し、日・サウジの二国間協力の基本的な方向性と具体的なプロジェクトをまとめた「日サウジ・ビジョン 2030」（以下「ビジョン」という。）が両国間で合意されたところである。ビジョンには、農業・食料分野での協力も含まれており、関連分野の日本企業の進出への期待が高まっている。

サウジアラビアは、中東地域において中核的な地位を占めるとともに、中東では比較的多くの人口を抱える国であることから、市場としての潜在力は大きい。一方、サウジで日本企業が企業活動を行う上での情報が不足しており、企業進出に向けての大きな障害となっている。

このため、本委託事業により、農業・食品関係の情報収集及び分析を行い、サウジ企業との連携などによる日本企業のサウジ市場への参入機会を特定するとともに、セミナーを開催し日本企業に調査結果を提供することで、日本企業の進出に向けた取組を支援し、サウジをはじめとした中東地域への我が国からの投資を促進することを目的とする。

1-2 事業内容

本事業の内容は、下記のとおりである。

(1) サウジの農業・食料分野の現況調査

国内文献等調査、現地調査、ヒアリング等に基づき、以下の項目について情報収集・分析した上で、日本企業による参入の可能性、それに向けた課題等について整理した。

① 農業事情調査

サウジアラビアの農業の基礎的情報（農産物の生産・輸出入・消費、農地、生産方法等農業）、農業に関する制度・規制（農地、農作物、肥料、農薬、農機等、農業を行う上で必要な物資・活動に関する制度や規制）、農業の位置付け（サウジ国内産業における農業の位置付け、重要性、予算・補助金等）について調査した。地下水に依存す

る農業の実態と政府の地下水枯渇への問題意識、水産養殖の実態と課題、農業向け政策金融等の存在が明らかとなった。また、主要な農水産品別調査を行った。

② 食品製造・流通事情調査

食品製造・加工業の現状、食品の流通構造について調査を行った。乳業を中心に、食品製造大手企業がサウジ国内に存在することが確認された。

③ 食品関係法令・規制関係

食品に係る制度・規制（食品の輸出入、安全・品質基準、添加物、表示等）、ハラールに係る制度・規制について調査した。輸入の際の手続きや規制、また、ハラール規制については、食品輸入の際、第三者機関による認証取得は食肉を除き義務ではない点等が明らかとなった。

④ 食事情調査

サウジアラビアの食生活の状況、日本食の普及状況（日本食レストラン、日本産品（加工食品を含む）の普及状況等について明らかにした。イスラム国家たるサウジアラビアの規制や食文化（豚・アルコールの禁止、断食、ケータリングの発達等）、嗜好、日本食の存在感がまだまだ小さいこと等が明らかとなった。

⑤ 健康食品調査

サウジ国内で流通している健康食品の状況や流通経路、製造業者、健康食品に係る制度・規制等を明らかにすると共に、健康食品に対する嗜好・意識をウェブアンケート調査等により実施し、健康食品に対するサウジ国民の嗜好・意識調査を実施した。結果として、サウジアラビア国民の健康ならびに健康食品への関心は高いが、栄養素等についての知識はあまり多くないことが明らかになった。

⑥ 日本企業の現況調査

サウジ市場に参入済み又は参入が見込まれる日本企業（10社）からヒアリングを実施し、これらの日本企業のサウジに関する取組状況、今後の取組方向、課題、ニーズ等を調査した。特に機能性食品については当局（SFDA）での製品登録に時間がかかること、物品税、パートナーと関係等が課題となることが明らかとなった。

また、上記調査内容を踏まえ、日本企業が現地で展開しうる分野として、3分野（植物工場関連、水産養殖関連、健康食品関連）を特定した。

(2) 中東湾岸諸国の基礎的情報調査

既存の統計資料による文献調査等を通じて、サウジを含む中東湾岸諸国の基礎的情報（GDP、農業や食品の生産・流通、農林水産物・食品の貿易等）を整理した。

(3) 日本企業へのセミナー開催

日本国内（東京）においてセミナーを開催し、上記①及び②で得られた調査結果を広く日本企業に提供した。

第2章 サウジアラビアの農業・水産業および食品産業

2-1 農業、水産業

2-1-1 サウジアラビア概要

サウジアラビアは、世界で最も厳格なイスラム教国の1つであり、世界第2位の産油国である。統治形態は君主制であり、サウード家が統治する。日本の5.7倍を誇る国土は、13の州に分割されている。

図表 1 サウジアラビアの位置と州の配置



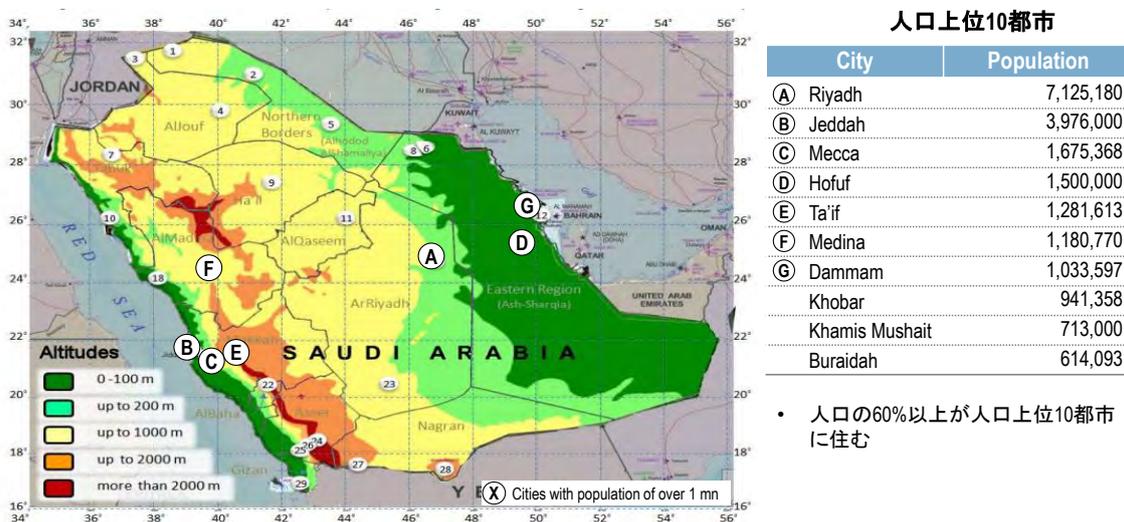
出所) MODON

図表 2 サウジアラビアの基本情報

項目	内容	出所
国教	イスラム教	-
民族	アラブ人	外務省
言語	アラビア語（公用語）	
統治形態	君主制 国王：サルマン・ビン・アブドルアジズ・アル・サウード（第7代） 皇太子：ムハンマド・ビン・サルマン・ビン・アブドルアジズ・アル・サウード	
国土	215 万平方 km（日本の 5.7 倍）	
首都	リヤド	
人口	3,179 万人（内、外国人 1,171 万人）	SAMA (2016)
GDP	6,464 億米ドル（2016）	IMF "World Economic Outlook Database" (Oct 2017)
国民 1 人あたり GDP	20,365 米ドル（2016）	
石油生産量	1,235 万バレル/日（2016） ・ 世界シェア 13.0%、世界 2 位	BP 統計（2017）

人口は 3,160 万人（2015 年）と、湾岸産油国協力会議（GCC）諸国¹の中で最大の消費者市場の一つである。人口の 60%は人口上位 10 都市に集中している。

図表 3 人口分布



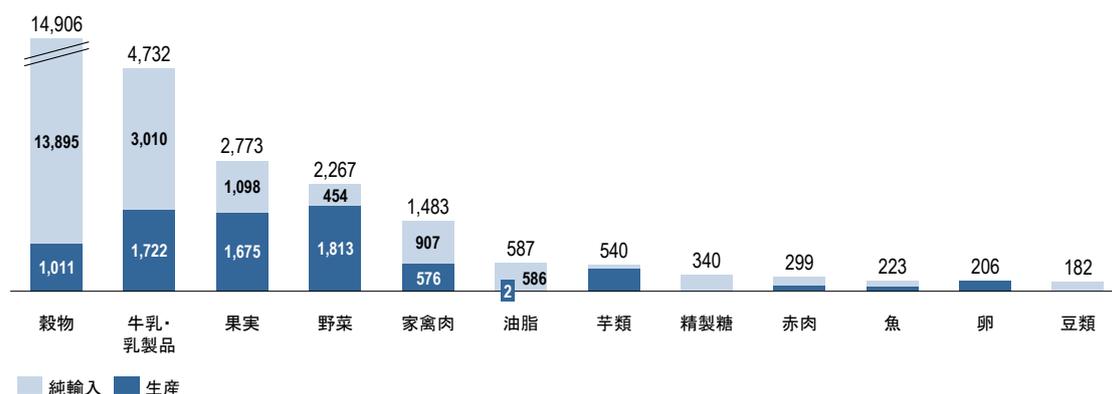
出所) worldatlas.com

1 サウジアラビア、アラブ首長国連邦、オマーン、カタール、クウェート、バーレーンの6カ国で構成される。

2-1-1 農産品の消費と輸出入

サウジアラビアにおいて最も消費されている食品群は、穀物・乳製品・果実・野菜である。特に穀物の消費が多く、内訳には小麦・小麦粉（380万トン）、大麦（650万トン）、トウモロコシ（280万トン）、米（160万トン）を含む。

図表 4 2015年の農産品消費量（千トン）



注) 食物消費量は生産と純輸入の合計から算出

出所) Arab Agricultural Statistics, 2016 より NRI 作成

食料の輸入品目の中では、小麦・大麦・トウモロコシ・米・モロコシといった穀物類の輸入額が最大となっている。2番目に輸入額の多い家禽肉は、将来的に国内需要の増加によりさらに輸入量が増加する見込みである。

図表 5 主な輸入品目（2015年）（100万ドル）



注) 家畜は牛・水牛・羊・ヤギを含む。成長率について、緑は増加、赤は減少を意味する。

出所) Arab Agricultural Statistics, 2016 より NRI 作成

サウジアラビアは食品の輸出も行っており、総輸出額は約 34 億米ドルである。主な輸出先は他の中東湾岸諸国となっている。輸出品目としては、牛乳・乳製品がサウジアラビアから最も輸出されている食品群であるが、成長率では魚介類が最も高い。

図表 6 主な輸出品目 (2015 年)
(100 万ドル)



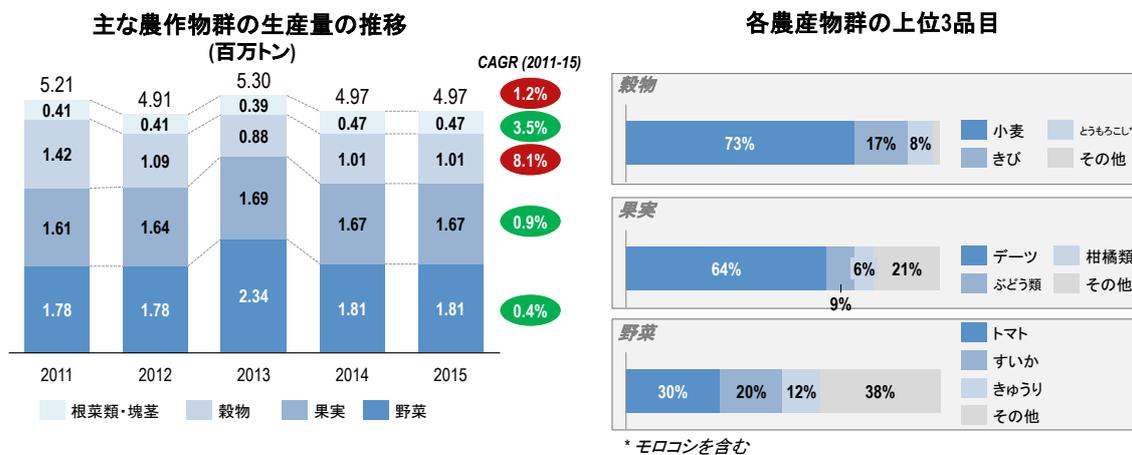
注) 家畜は牛・水牛・羊・ヤギを含む

出所) FAOStat より NRI 作成

2-1-2 農産品の生産

サウジアラビアの農作物の生産量においては、青果物（野菜、果物）が全体の約 50%を占め、穀物類（主に小麦）がそれに次ぐ。青果物では、デーツが果実の 64%を占め最大であり、その次に多いのはトマト（野菜の 30%）である。政府が大量の地下水を消費する穀物の生産を一部中止したため、穀物の生産量は 2011 年以降横ばいないし減少傾向にある。

図表 7 サウジアラビアの農作物

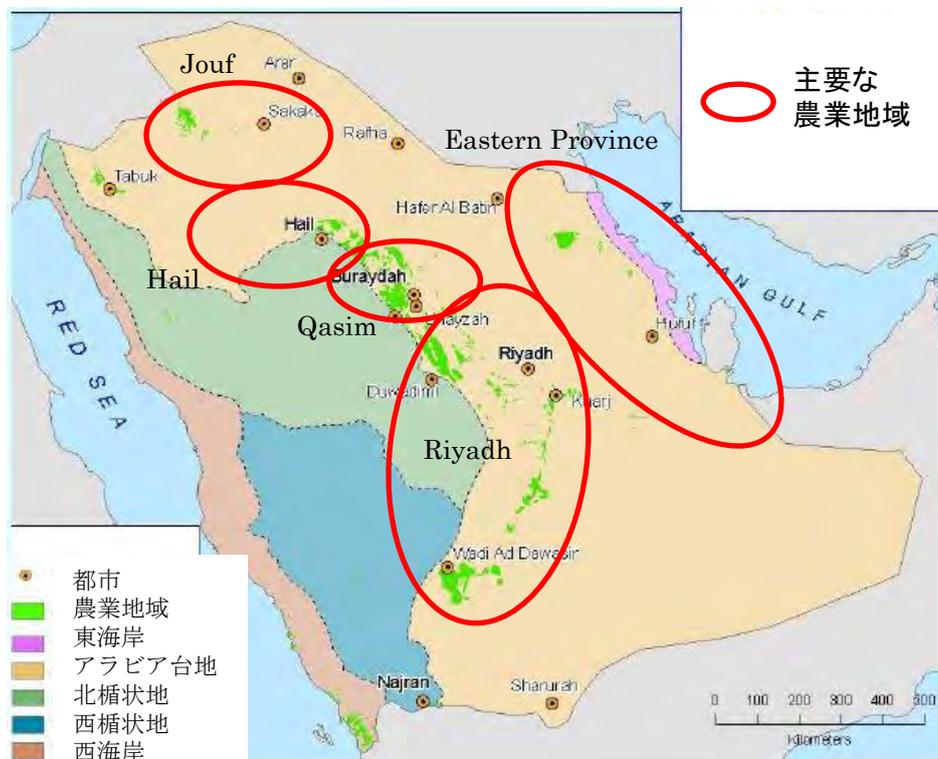


注) 年平均成長率 (CAGR) について、緑は増加、赤は減少を意味する。
出所) Arab Agricultural Statistics, 2016 より NRI 作成

サウジアラビアの農地面積は 34,219km² で、国土の約 1.5% に相当する。主要な農業地域は Riyadh、Qasim、Jouf、Eastern Province、Hail に位置する。

サウジアラビアでは農業の事業者が約 26 万件登録されている。州毎の耕作面積と事業者数は比例しないが、これは、作物により必要な面積が異なることもあり、1 事業者あたりの耕作面積が地域により異なることが主因である。穀物・飼料の生産の多い地域では、1 事業者あたりの耕作面積が大きくなる傾向にある。

図表 8 サウジアラビアの農業地域



出所) Dr. Ali Saad Al-Tokhais, "Non-Renewable Groundwater Management in Saudi Arabia"
掲載地図に NRI 加筆

図表 9 農地面積と農林水産業事業体数

州	耕作面積(百万 m ²)	事業体数	事業体あたり 平均耕作面積(m ²)
Riyadh	10,637	32,518	327.1
Makkah	1,160	77,300	15.0
Madinah	840	19,388	43.3
Qasim	7,586	18,234	416.0
Eastern Province	3,980	35,616	111.7
Asir	539	76,403	7.1
Tabuk	1,317	9,255	142.3
Hail	3,369	17,460	193.0
Northern Border	28	1,762	15.9
Jizan	751	27,720	27.1
Najran	136	11,268	12.1
Baha	74	12,072	6.1
Jouf	3,802	7,833	485.4
合計	34,219	346,829	118,379.1

出所) General Authority For Statistics Saudi Arabia, "Statistical Yearbook of 2016" より NRI 作成

主要農業地域の主要作物は、Riyadh はデーツ、野菜（施設並びに露地栽培）、穀物・飼料、Qasim、Eastern Province はデーツ、野菜（施設栽培）と穀物・飼料、Jouf はデーツ以外の果樹（オリーブ）と穀物・飼料、Hail はデーツ、野菜（露地栽培）、穀物・飼料である。

デーツ、露地栽培の野菜並びにデーツを含む果樹は点滴灌漑等で栽培される。また、穀物・飼料は、中心にスプリンクラーを配した大型円形農場で栽培される。

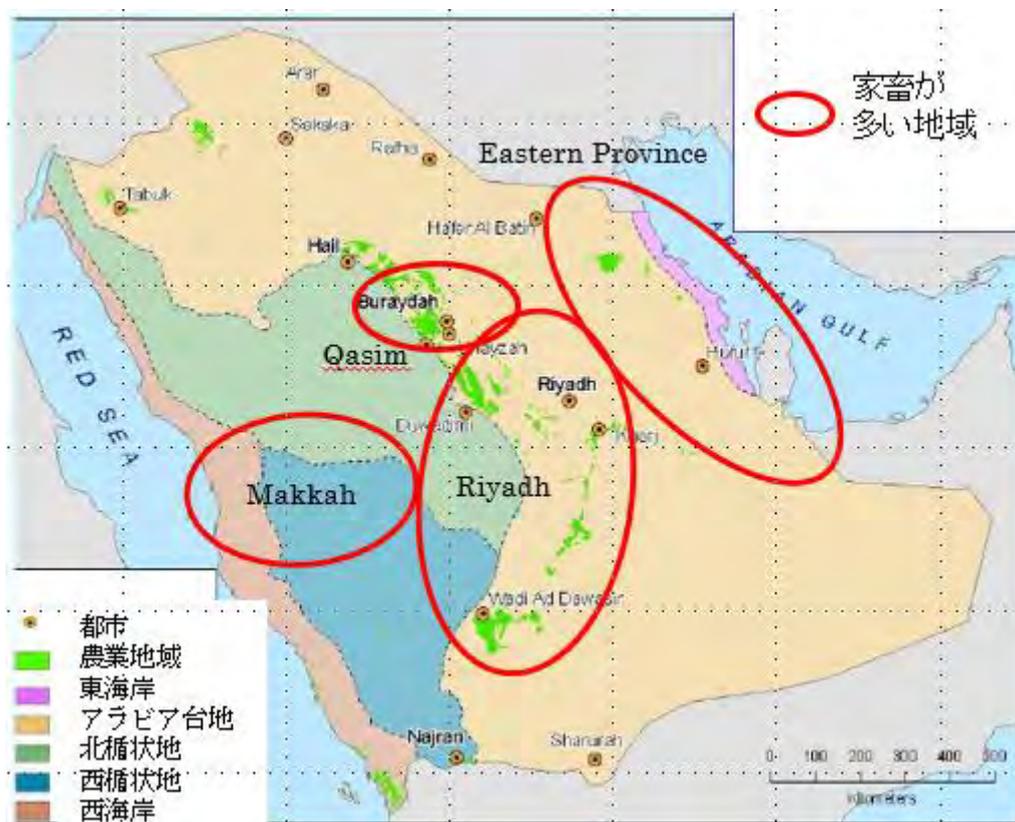
図表 10 作物別耕作面積（千 m²）（2015）

	デーツ以外の 果樹	デーツ	野菜 (施設栽培)	野菜 (露地栽培)	穀物・飼料
Riyadh	18,394	282,920	11,769	199,889	1,596,841
Makkah	12,841	43,048	628	219,246	264,521
Madinah	17,031	183,033	1,254	16,559	23,011
Qasim	23,018	298,477	4,515	28,631	1,071,870
Eastern Province	9,895	91,923	3,832	10,808	408,756
Aseer	6,120	42,983	2,738	7,240	165,608
Tabuk	54,551	33,187	1,921	32,410	324,920
Hail	28,059	56,988	672	76,688	985,074
Northern Borders	1,500	529	81	344	224
Jizan	30,110	484	6	35,005	514,356
Najran	5,338	14,128	2,042	16,481	13,495
Bahah	3,416	3,110	493	6,964	29,249
Jouf	168,790	21,801	237	52,965	1,670,857
合計	379,063	1,072,611	30,188	703,230	7,068,782

出所) Statistical Yearbook of 2016 “Agriculture Census 2015” より NRI 作成

家畜は、Riyadh、Makkah、Qasim、Eastern Province で多い。Riyadh は家畜全般、Makkah は羊・山羊、Qasim は羊・山羊に加えラクダが、Eastern Province はラクダ、牛、家禽類が多い。

図表 11 家畜が多い地域 (2015)



出所) Dr. Ali Saad Al-Tokhais, "Non-Renewable Groundwater Management in Saudi Arabia"
掲載地図に NRI 加筆

図表 12 家畜頭数 (2015)

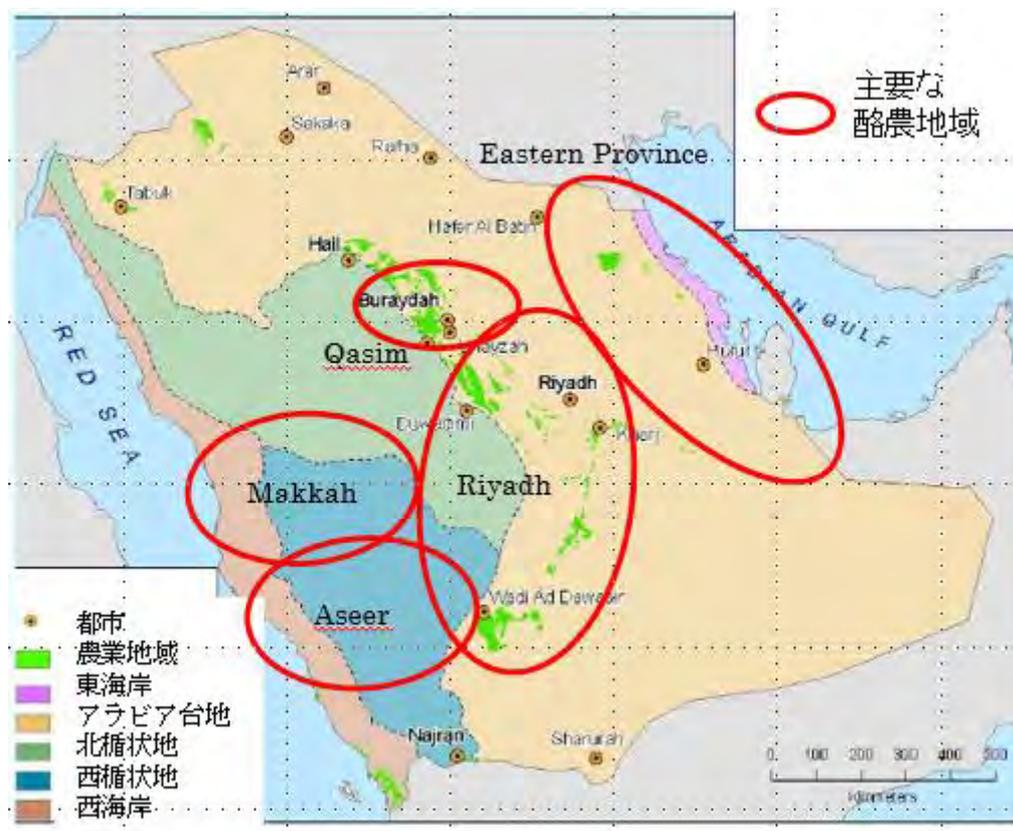
	羊	山羊	ラクダ	牛	家禽類
Riyadh	2,102,547	665,467	130,684	124,181	1,690,768
Makkah	1,192,738	477,188	30,741	10,222	183,251
Madinah	291,802	261,618	19,882	1,651	411,513
Qasim	1,670,107	388,340	95,866	11,574	1,864,445
Eastern Province	710,249	242,754	65,036	157,658	688,723
Aseer	692,290	305,063	27,525	8,880	28,587
Tabuk	236,692	162,310	11,838	3,072	38,786
Hail	796,154	262,376	37,968	15,725	301,110
Northern Borders	15,503	5,129	1,121	450	21,795
Jizan	438,843	372,129	9,347	13,879	45,123
Najran	361,459	191,046	21,886	3,233	59,559
Bahah	227,982	114,409	7,415	2,649	17,726
Jouf	319,072	115,188	12,395	1,102	266,774
合計	9,055,438	3,563,017	471,704	354,276	5,618,160

出所) Statistical Yearbook of 2016 "Agriculture Census 2015" より NRI 作成

酪農は、Riyadh、Makkah、Qasim、Eastern Province、Aseer で盛んである。

Riyadh は牛・ラクダ・羊・山羊の全てで頭数が多い。Makkah、Qasim は、ラクダ、羊、山羊が、Eastern Province は牛とラクダが、Aseer はラクダと山羊が多い。

図表 13 主要な酪農地域



出所) Dr. Ali Saad Al-Tokhais, "Non-Renewable Groundwater Management in Saudi Arabia"
掲載地図に NRI 加筆

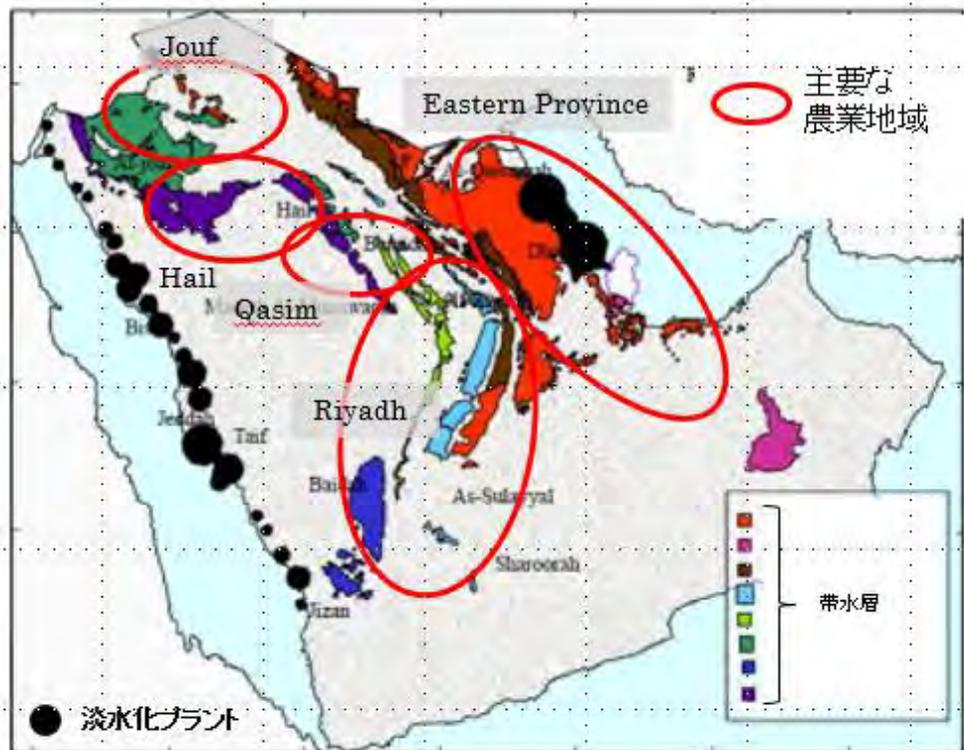
図表 14 酪農向け家畜頭数 (2015)

	牛	ラクダ	羊	山羊
Riyadh	40,332	63,148	707,790	217,773
Makkah	3,618	72,870	1,314,211	405,747
Madinah	426	21,174	133,494	136,143
Qasim	3,240	66,186	959,410	207,980
Eastern Province	69,831	56,125	598,612	123,156
Aseer	3,135	48,475	419,231	245,705
Tabuk	1,235	12,984	110,723	88,524
Hail	1,876	18,233	229,366	90,475
Northern Borders	124	300	6,428	1,745
Jizan	2,993	5,267	156,256	181,438
Najran	1,137	14,958	128,150	74,287
Bahah	822	2,011	71,138	31,030
Jouf	536	30,876	401,028	57,587
合計	129,305	412,607	5,235,837	1,861,590

出所) Statistical Yearbook of 2016 “Agriculture Census 2015” より NRI 作成

農業活動に使用される灌漑施設は、主に地下水（化石水）を汲み上げている。そのため、上記の農業地域は、主に対水層の上に位置する。

図表 15 帯水層と農業地域

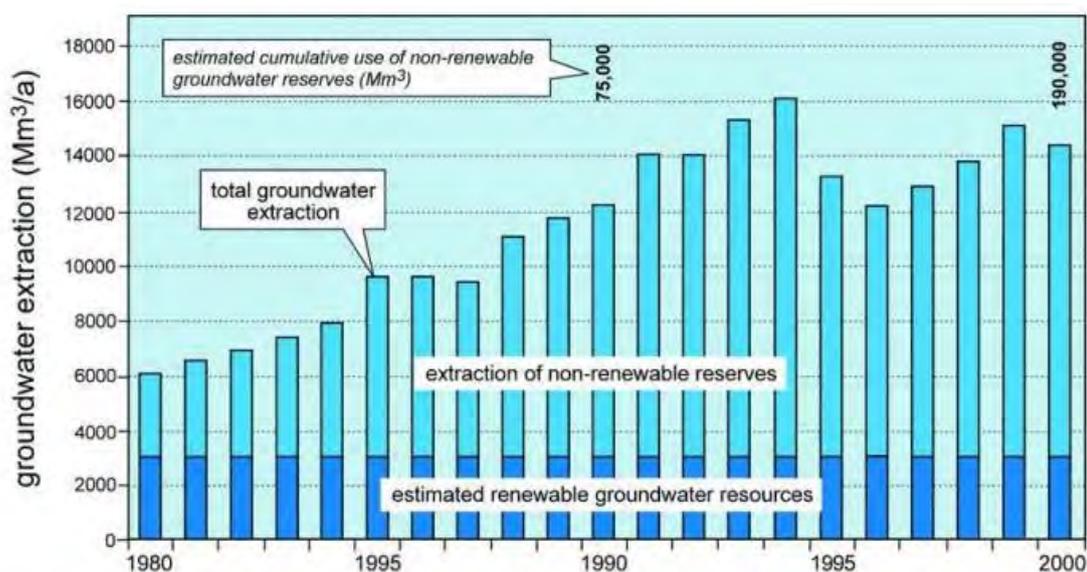


出所) Farrelly & Mitchell, “Opportunities for Supply Chain Consolidation in GCC Food Sector, November 2014”

1980年～2000年代の国内における集中的な農業活動の拡大により、地下水の取水量は1,900億 m³に及んだ。経済企画省によれば、2009年時点で取水量が年間最大116億 m³であるのに対し、貯水量は約3,380億 m³であり、このペースで取水を続ければ、30年後には枯渇する計算になる。

なお、貯水量の自然増は年間約12.8億 m³である一方、自然減は約3.9億 m³である。

図表 16 1980～2000年の地下水取水量



出所) “Characterizing water resources and trends of sector wise water consumptions in Saudi Arabia”
Journal of King Saud University - Engineering Sciences

地下水の枯渇が問題化しているサウジアラビアでは、地下水を大量に消費する穀物・飼料の生産が中止された、または将来中止される。サウジアラビアは、かつては小麦の生産を政策的に支援しており、1980年代後半には純輸入国となっていた。しかし、1990年代に地下水枯渇が懸念され始めると、小麦生産への補助は段階的に廃止され、現在は生産そのものを中止する方向に舵を切られている。

図表 17 小麦を巡る政策の変遷

1972年	サイロ・製粉公団を設立、奨励価格で小麦・大麦を買い上げ
1985年	小麦の自給自足実現
1986年	小麦の輸出開始
1992年	小麦生産高が420万トンを記録
1993年	地下水保全の観点による段階的生産削減開始
1995年	輸出中止
1996年	小麦生産高が46.4万トンまで減少
2016年	小麦生産を中止（予定）

出所) サウジアラビア大使館資料、環境・水・農業省インタビュー等より NRI 作成

また、節水型の水耕栽培の開発に力を入れる民間企業が現れ始めている。サウジアラビアにおいて水耕栽培を実施している大手企業は Pegasus Agri-tech や Aerofarms などの外資系企業である。米国に本拠を置く Aerofarms は、2011 年に Jeddah で水耕栽培技術を用いた垂直農場を設立した。また、UAE に本拠を置く Pegasus-Agritech は、2014 年に垂直農業を用いたサウジ初の水耕栽培農場の商業化を実現した。同社の水耕栽培施設の面積は約 20,000 m²、目標生産量年間 1,400 トン/ha である。2017 年現在、多くの外資企業やサウジアラビア企業が独自の水耕栽培農場の建設を開始している。

図表 18 サウジアラビアで展開する水耕栽培企業の例 (Aerofarms, Pegasus-Agritech)



Aerofarmsは大手垂直農業企業の一つ



PegasusはUAE, Oman, Qatar, Tunisia, Iraq, Afghanistanで活動している

出所) News Articles

図表 19 サウジアラビアで展開する水耕栽培企業の例 (Saudi Arabian Hydroponic 社)

社名	Saudi Arabian Hydroponic Co.
所有者	Sheikh Walid Mohammed Abdullah
部門	水耕栽培と施設栽培
本社所在地	Khobar North
農場所在地	Riyadh – Dammam Highway
メイン市場	サウジアラビア
提携先	韓国企業と協議中
作物	<ul style="list-style-type: none"> • レタス(ポストン、オークリーフ、ロロロッサ、アイスバーグ、ロロビオンダ) • モロヘイヤ • トマト(ブチトマトと普通のもの) • パセリ • フロッコリー • パプリカ • ナス • キュウリ • イチゴ • マッシュルーム



Saudi Arabian Hydroponic Co.の水耕栽培農場



出所) 同社ウェブサイト

サウジアラビアにおける施設栽培、植物工場関連の設備の供給者のほとんどが外国企業である。

図表 20 図表 施設栽培並びに植物工場の設備等供給事業者

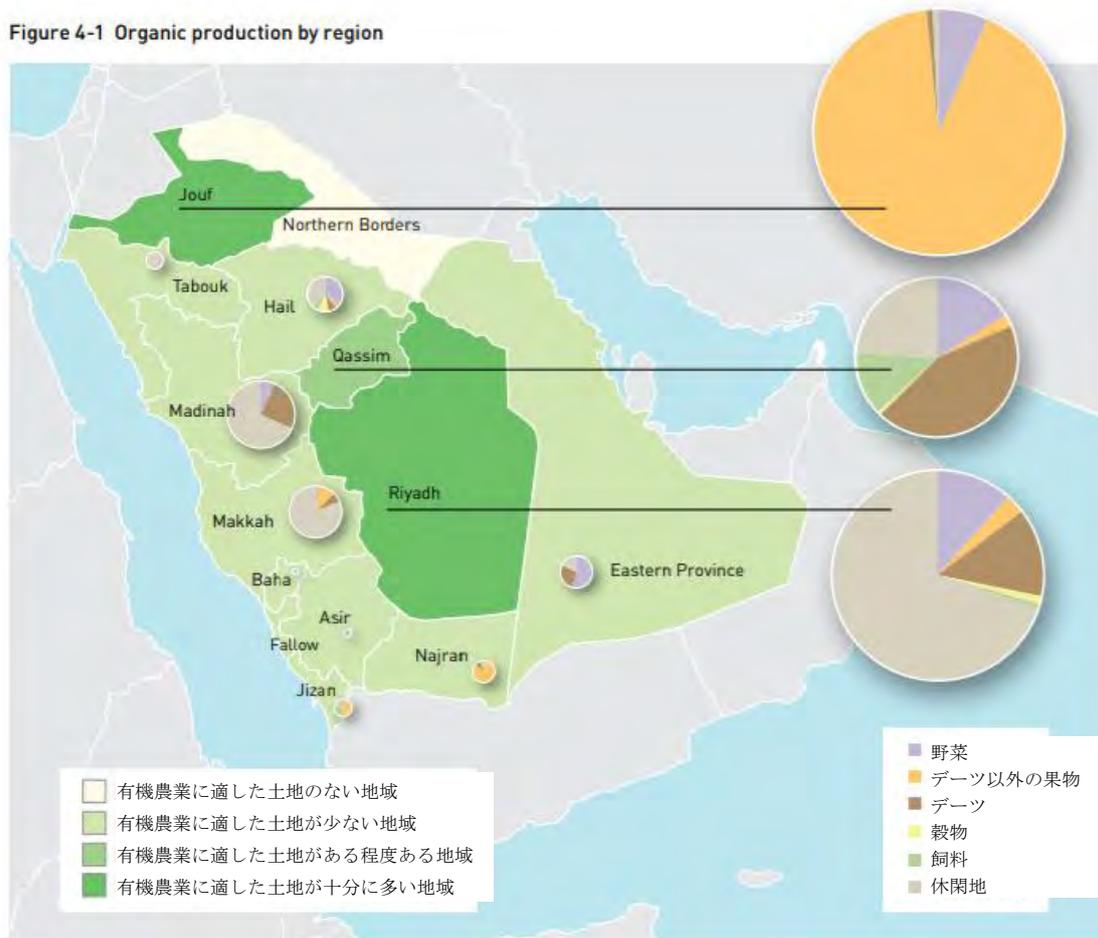
企業	事業形態	オーナーシップ	概要
Humintech GmbH	Direct (through distributorship)	Foreign (Germany)	肥料等の栄養バランス調整薬品の製造
Myron L Company	Direct (through distributorship)	Foreign (USA)	水質検査機器の製造
Hanna Instruments, Inc.	Direct (through distributorship)	Foreign (USA)	各種検査機器の製造
Alyaseen Agricultural Co. Ltd.	Direct	Local	種苗、肥料、農薬等のサプライヤ
General Hydroponics	Indirect	Foreign (USA)	水耕栽培関連製品のサプライヤ
JB Hydroponics	Indirect	Foreign (Netherlands)	水耕栽培関連製品のサプライヤ
China Noonty Greenhouse	Indirect	Foreign (China)	水耕栽培、温室関連製品のサプライヤ
Allance Sprouts Machine	Indirect	Foreign (China)	水耕栽培による育苗システムの製造
HydroGarden Wholesale Supplies Ltd	Indirect	Foreign (UK)	水耕栽培関連製品のサプライヤ
CropKing, Inc.	Indirect	Foreign (USA)	水耕栽培、温度管理システムのサプライヤ

出所) www.agriculture-xprt.com より NRI 作成

Riyadh、Jawf、Qassim には有機農業に適した土地 (地表に養分が十分に含まれている) があり、有機農法を取り入れる農家が存在する。

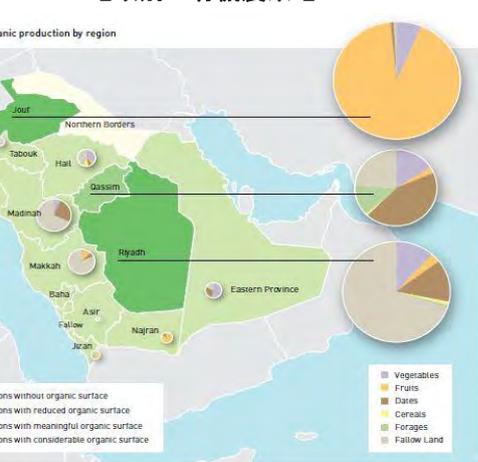
図表 21 有機農業地の分布

Figure 4-1 Organic production by region



出所) Saudi Organic Farmer's Association (SOFA), GIZ and FiBL, "Organic Agriculture in Saudi Arabia", 2012

図表 22 有機農業の耕作面積



地域	Converted Farms		Under Conversion					
	農場 (数)	面積 (ha)	面積 (ha)	休閑地 (ha)	家畜 (heads)	鶏 (heads)		
Asir	1	5	-	-	-	150	-	50
Baha	1	-	2	-	-	-	-	-
Eastern Province	5	105	-	20	-	9	-	-
Hail	4	101	-	58	-	-	-	-
Jizan	2	34	-	9	-	95	-	-
Jouf	6	6,982	1,408	63	-	-	-	-
Madinah	2	192	-	409	-	-	-	-
Makkah	1	-	71	315	-	-	-	-
Najran	2	28	-	1	-	-	-	-
Northern Borders	-	-	-	-	-	-	-	-
Qassim	22	2,395	103	785	6	2,541	90	300
Riyadh	31	1,027	616	3,797	10	-	645	-
Tabouk	1	-	-	20	-	-	-	-
Total	78	10,869	2,200	5,477	16	2,795	735	350

出所) Saudi Organic Farmer's Association (SOFA), giZ and FiBL, "Organic Agriculture in Saudi Arabia", 2012 より NRI 作成

サウジアラビアの有機農産物の生産・供給は季節変動が大きく、小売店等への安定供給は実現していない模様である。

有機農産物の主な市場は Riyadh、Dammam、Al Khobar、Jeddah といった主要都市が中心である。市場は未だ小規模かつ断片的だが、早いペースで成長している

流通業者・小売業者として専門店や大手ハイパーマーケット等が有機農産物を扱うが、季節変動等により供給が不安定であることが課題となっている。

図表 23 有機農産物を取り扱う小売業者例

	小売業者	主要取扱品目	概要
有機食品店 専門店	<ul style="list-style-type: none"> 流通業者 / 農家 	<ul style="list-style-type: none"> 青果物 サウジアラビア産の生鮮産品 	<ul style="list-style-type: none"> 宅配システム経由の直販チャンネルを有する 週ベースで有機食品バスケットを配達
	<ul style="list-style-type: none"> Al Watania 	<ul style="list-style-type: none"> 主に新鮮な青果物。加えて、オリーブオイル・パスタ・マトペースト・小麦粉といった食料品 有機食品の自社生産 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、リヤド(Riyadh)、ジェッダ(Jeddah)、ダンマン(Dammam)、アル・コバール(Al Khobar)、アハサー(Al Hassa)、カティーフ(Qatif)、シャクラ(Shagra)、メッカ(Makkah)、マディーナ(Madinah)、フライダ(Buraydah)、ユネイヤー(Unayzah)、ハイル(Hail)、アラス(Al Rass)、アブハー(Abah)、タブーク(Tabouk)といった都市に計20店舗が立地している
	<ul style="list-style-type: none"> Abazeer, Jeddah BioBest, Riyadh 	<ul style="list-style-type: none"> 幅広い品目: 新鮮な産物から加工品まで。サウジアラビアで最初で最大の有機食品小売店となった Abazeerの有機商品ポートフォリオは美容製品も含む 	
ハイパー マーケット	<ul style="list-style-type: none"> Carrefour Tamimi Market Danube Hyper Market Lulu Market 	<ul style="list-style-type: none"> 各社によるセレクト有機食品を提供 国内製品ではなく、グローバルブランドや輸入品に集中している 	<ul style="list-style-type: none"> 4つのハイパーマーケットチェーンに40以上の営業所 スーパーマーケットの課題は少規模で変動的な生産量への対応。一方、有機食品生産者にとっての課題は、スーパーマーケットから課される陳列や保管のための高い手数料である 高額な手数料は特に中小規模の生産者にとって重大である

出所) Organic Agriculture in Saudi Arabia Report by Giz/MoA より NRI 作成

一方の生産者側は、国内での有機食品への需要増加により、投入資源、生産能力、流通チャンネルの不足に直面している。

図表 24 有機農産物の生産者側の課題

課題	詳細	影響
有機農業に必要な投入資源(種子等)の確保	<ul style="list-style-type: none"> 調達可能な有機種子が限られていることが有機農業セクターの重大なボトルネックとなっている Saudi Organic Farmers Associationは増加する種子の需要に見合うよう、国内生産を増やしている 	種子などの投入資源の高い輸入依存
有機農業の周辺サービスと生産能力の拡張	<ul style="list-style-type: none"> 有機農業に関する周辺サービスは、サウジアラビアでまだ十分に確立されていない 現在、支援サービスは特定の地域限定で利用可能だが、農作物や実態に合わせたものにする必要がある 	国内有機生産の低い利用可能性
市場とのつながり	<ul style="list-style-type: none"> 有機食品に対する消費者意識の醸成 関連する諸課題への対応が求められる(地域、国別であったり、バリューチェーンのそれぞれの切り口で生じている課題等) 	確立した国内ブランドの欠如
品質保証	<ul style="list-style-type: none"> Saudi National Organic Labelは一般大衆の間で広く認識されていない 有機ブランドと有機商品間の関連が弱い 	国際的な認証の受入れ

出所) Farrelly & Mitchell Report より NRI 作成

2-1-3 漁業、水産養殖

サウジアラビアは、紅海とアラビア湾沿いに 2,500km を超える海岸線を持ち、伝統的な水産業と産業的な水産業の両方が行われている。

図表 25 主な漁場とその特徴

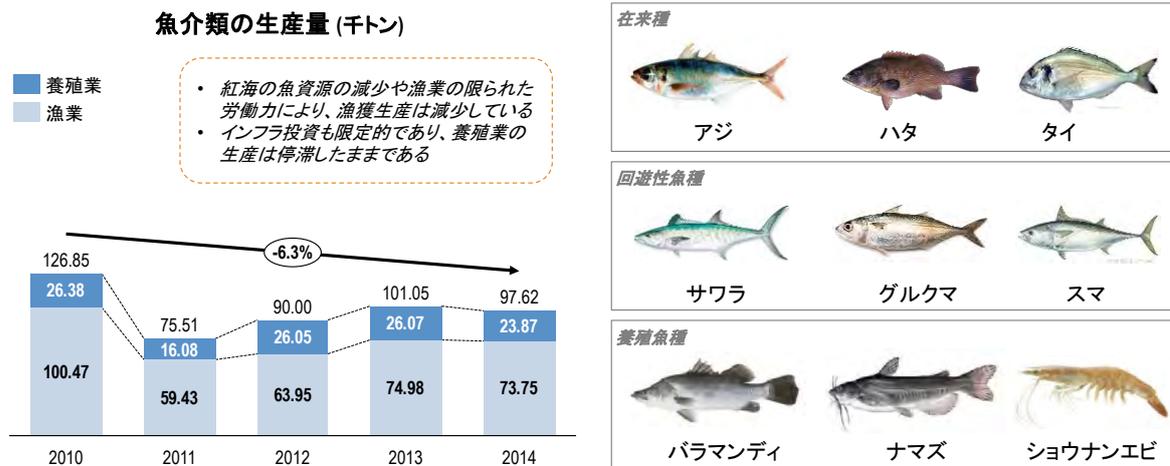


- A 紅海**
- 2,000kmを超える珊瑚礁に1,200種以上が生息している
 - 南では約3.6%、北では約4.1%の高塩度
 - 海岸沿いでは8,000から10,000の漁船が活動
 - 伝統漁業は手釣りや刺し網に依存する一方で、産業漁業は魚や小エビにトロール網を活用
 - 乱獲、下水による汚染、海岸浸食、地球温暖化などの理由により、紅海の魚資源の減少の兆候が見られる
- B アラビア湾**
- 海岸線は580kmを超え、約4.5%の高塩度
 - 海岸沿いでは600以上の漁船が活動している
 - バラスト水の排出、温暖な海水により域外海洋生物の繁殖が懸念されている
 - 養殖に対してはネガティブな意見が多いとされている

出所) NordOest Report

水産業はサウジアラビア経済にとって重要ではあるものの、直近 5 年間で漁業生産量は減少しており、養殖業の生産量も停滞している。その要因は、近海における水産資源の減少や技術進歩の遅れ、限られたインフラ等である。

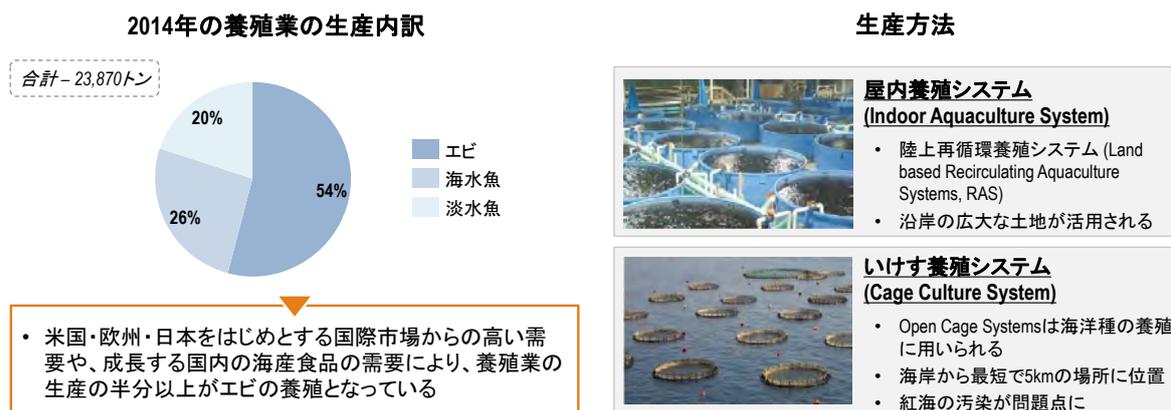
図表 26 漁獲量と獲れる魚介類の種類



出所) Arab Agricultural Statistics, NordOest Report より NRI 作成

サウジアラビア政府は、養殖業の開発に力を入れている。安定的な人口増加により、2025年には魚介類への需要が約 286,000 トンに達すると予想される²。このため、環境・水・農業省は、今後 15 年間で 60 万トンの魚介類を生産するために養殖プロジェクトに 106 億ドル規模の投資を行っている。

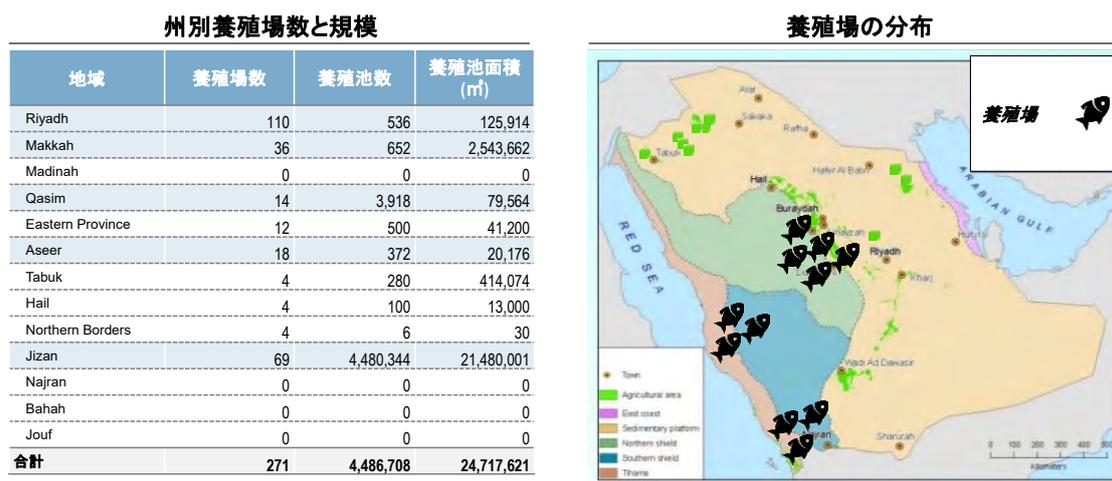
図表 27 サウジアラビアの養殖業の概要



出所) Innovasjon Norge, “Aquaculture in Saudi Arabia, February 2016” より NRI 作成

サウジアラビアの養殖業は、紅海岸の Jazan と Makkah、地下水が豊富な Riyadh の各州で大規模に実施されている。主な生産品目は、チョウザメ、ナイルティラピア、シーティラピア、カザジョエビ、インドエビ等である。

図表 28 養殖場の分布



出所) Agriculture Census 2015 より NRI 作成

² Innovasjon Norge, “Aquaculture in Saudi Arabia, February 2016”による予測。

複数の大手養殖業がサウジアラビア国内に存在するが、その1つである National Aquaculture Group は、日本企業が冷凍ラインの技術支援並びに一部商品の日本への輸出を行っている。

図表 29 養殖関連企業例

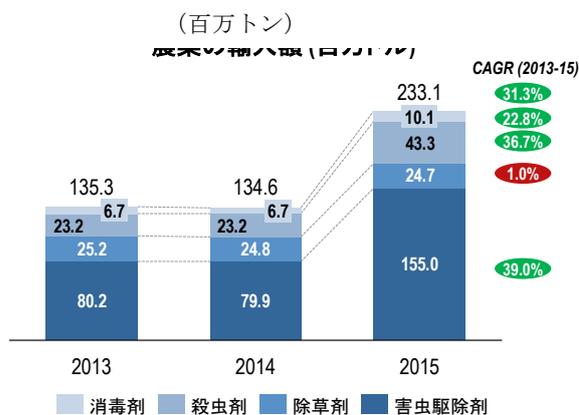
	<p>National Aquaculture Group</p> <ul style="list-style-type: none"> 完全統合型の海上養殖、エビ養殖場(16施設)を持つ最大の養殖企業の一つ(エビ用飼料生産設備も所有している)。 毎年約15,000トンの海産食品を輸出する。 養殖場はジェッダ(Jeddah)の南にあるアルリス(Al-lith)の紅海沿岸に位置する。 紅海魚・紅海パラマンディ・紅海エビから海藻類やナマコ類に至るまで、多様な海洋種を養殖している。 どの生産段階においても抗生物質を使用しないと主張し、乱獲防止のために低密度の畜養や部分的な収穫の方針を掲げる。
	<p>Saudi Fisheries Company</p> <ul style="list-style-type: none"> 2011年時点の生産は年間1,500トンだったが、年間4,500トンへとキャパシティを拡大した。 拡大に伴い追加した養殖場はOumgとカティーフ(Qatif)に位置する。 養殖事業に加え、エビの天ぷら、エビフライ、白身魚のフライやバーガーを含む付加価値製品の製造施設を有する。
	<p>Arabian Shrimp Company</p> <ul style="list-style-type: none"> 2004年5月にサウジアラビアの農業省とArabian Shrimp Companyはジーザン(Jizan)の北部海岸で7,500ヘクタールの敷地の20年のリース契約を結んだ。 設立時の養殖場の目的は年間25,000トンのエビを生産することであった。 オマーンにも養殖場を有する。
	<p>Asmak</p> <ul style="list-style-type: none"> Kebbe cityに養殖場を持つサウジアラビアの主要な企業。Umm Lajjに位置する沖の養殖いけす施設で多くのシェアを持つ。 タイ・ティラピア・パラマンディなどを含む産物はヨルダン、エジプト、UAEに輸出される。 サウジアラビアの魚飼料の生産者であるArascoから飼料を調達し、稚魚はギリシャやトルコから調達する。
	<p>Tabuk Fisheries Company</p> <ul style="list-style-type: none"> 水産業、農業、工業や不動産セクターに投資を行うJazan Development Companyが所有している。 タブーク州(Tabuk)のドゥバー(Duba)の沖に拠点を構える。 タイ、スズキ、イカなどを養殖している。 沿岸の孵化場や直径40mと60mの海上いけすも所有している。

出所) NordOest Report より NRI 作成

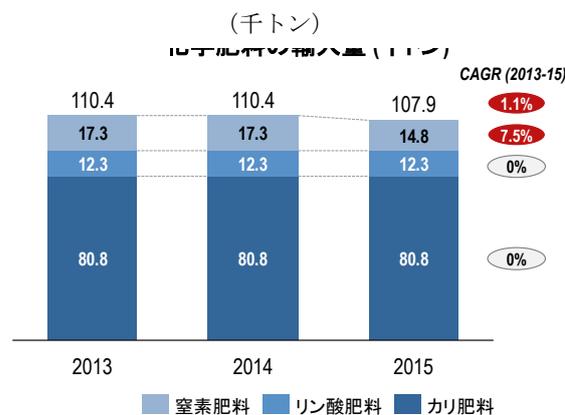
2-1-4 農薬、肥料

植物病害の蔓延により、農薬への需要が増加している。サウジアラビアの農薬の輸入総額は年平均で31%増加しており、現在2億3000万ドルを超えている。特に害虫駆除剤は全体の3分の2以上を占める。サウジアラビアの化学肥料の総輸入量はわずかに減少しており、現在10万トン超。そのうち、カリ由来の肥料が全体の75%を超えている。

図表 30 農薬の輸入額



図表 31 化学肥料の輸入量



注) 成長率について、緑は増加、赤は減少を意味する。
出所) Arab Agricultural Statistics 2016 より NRI 作成

政府は有機農業に注力しており、農家の有機農家としての認証取得費用を肩代わりしたり、技術的な助言や品質向上のためのサポートを行う等、有機農業の普及に取り組んでいる。このこともあり、バイオ肥料の需要が増加しており、今後も伸びる見通しである。このため、サウジアラビア国内の原料を使用したバイオ肥料の国内生産力強化に投資が集中している。過去、有機剤（主に殺生剤）の90%を米国、EU、中国、インド、韓国から輸入していたが、現在はピーク時の15~20%程度まで輸入量が減少している。これにより、コスト・販売価格が更に下落することでさらなる需要を喚起し、今後数年間で売上高は最大50%増加する可能性がある³。

図表 32 サウジアラビアにおけるバイオ肥料の主要サプライヤーと製品

輸入企業	製造企業	所在国	製品
Advanced Ossos Agr. Est.	Carlan Lab	Spain	Probion Set, Probion Beri V and Probion X Full
	Green Has Italia SpA	Italy	Vit-Org
Al Mahallah Co. Trading & Agriculture Co. Ltd.	Al Ahrum for Mining & Natural Fertilizers	Egypt	Raw Phosphate
	Nabat Al Aradh Factory	Saudi Arabia	Amino Fe, Amino Cu, Amino Zn, Amino Ca, Humic Power, etc.
International Environmental Services	Biowish Technologies Inc.	USA	Biowish Corp.
Al Emar International	BioVert	Spain	Manvert Biosteren and Manvert Complex
Saudi United Fertilizer Company	Aglukon	Germany	Multimicro Liquid
Al Manef Company	Arya Biotechnology	India	Shrungi Biobest
Ibn Al Sheikh Agric. Est.	Kawa Agricultural Co. Ltd.	China	Admiral Group
Assasia Nawa Est.	Alginit Distributor Center Co. Ltd.	Hungary	Alginit
Yassin Agric. Co.	Kelp Products Ltd.	South Africa	Kelpak
Proteina Factory for Organic Fertilizers	Proteina Factory for Organic Fertilizers	Saudi Arabia	Proteina Organic

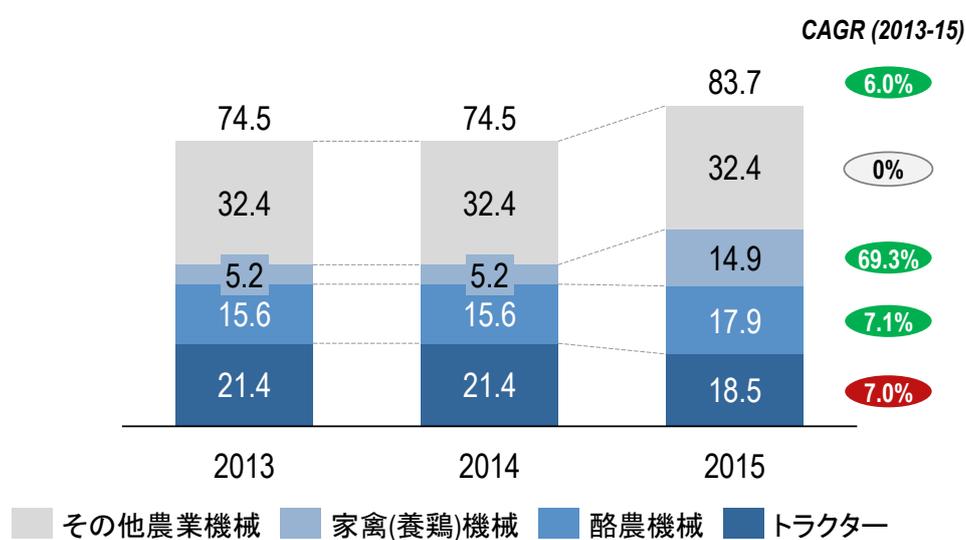
出所) Saudi Organic Farmer's Association (SOFA), GIZ and FiBL, "Organic Agriculture in Saudi Arabia", 2012 より NRI 作成

³ Saudi Organic Farmer's Association (SOFA), GIZ and FiBL, "Organic Agriculture in Saudi Arabia"における地場企業インタビュー結果より

2-1-5 農業機械

サウジアラビアにおける農業機械の利用は増えており、輸入も伸びている。サウジアラビアの農業機械の輸入総額は、年平均で6%増加しており、現在8,400万ドルを超えている。特にトラクターは全体の20%弱を占める。直近でもっとも伸びているのは、家禽類（養鶏）向け機械である。

図表 33 農業機械の輸入額
(百万ドル)



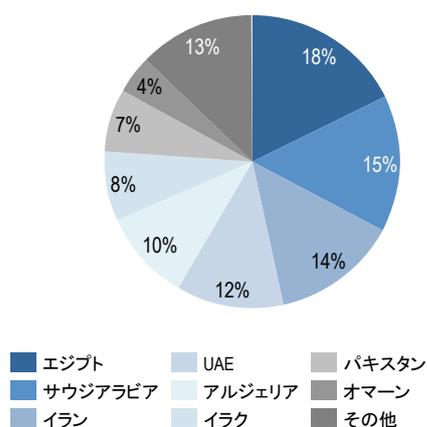
注) 成長率について、緑は増加、赤は減少を意味する。
出所) Arab Agricultural Statistics 2016 より NRI 作成

2-2 特定農水産品別ケーススタディ

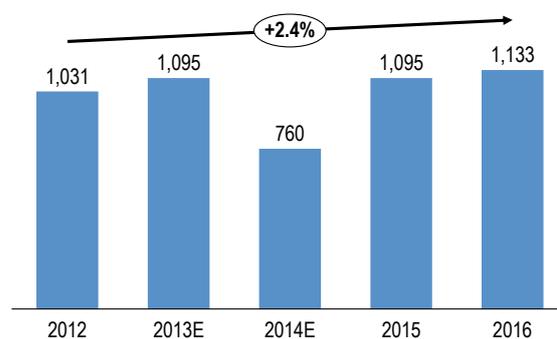
2-2-1 デーツ (ナツメヤシ)

サウジアラビアの 2016 年のデーツ生産量は 113 万 2,887 トンで世界最大の生産国の一つである。成長率は年平均約 2.4%と、着実に増加している。

図表 34 デーツの国別生産量シェア (2012)



図表 35 サウジアラビアのデーツ生産量 (千トン)



出所) Saudi Arabia Agricultural Sector Report 2015, Jeddah Chamber;
Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia より NRI 作成

デーツの生産量は、Riyadh、Qasim、Madinah、Eastern Province に集中している。

図表 36 地域別デーツ生産量

地域	ナツメヤシ木の数 (千)		生産面積 (百万m ²)	灌漑システム (面積別, 百万m ²)	
	総計	結実木		点滴灌漑	地表灌漑
Riyadh	7,031	5,669	283	152	131
Makkah	1,238	1,051	43	5	38
Madinah	4,620	3,687	183	32	151
Qasim	6,980	5,023	299	241	58
Eastern Province	3,732	3,134	92	44	48
Aseer	1,027	882	43	10	33
Tabuk	834	693	33	7	26
Hail	1,773	1,553	57	30	27
Northern Borders	23	21	0.5	0.3	0.2
Jizan	8	4	0.4	0.1	0.3
Najran	387	312	14	4	10
Bahah	71	61	3	0.6	2
Jouf	848	646	22	16	6
合計	27,738	22,736	1,073	542	531

出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia, Agriculture Census 2015 より NRI 作成

サウジアラビアはデーツの国内生産量 113 万 2,887 トンのうち、12%に相当する 136,000 トンを輸出しており、輸出額は 15,741 万ドルである（2016 年）。

サウジアラビアの輸出総額の 73%を GCC（湾岸協力会議）諸国とアラブ連盟諸国が占める。

図表 37 地域別デーツ輸出額（2016 年）

輸出先	輸出額(百万ドル)			合計額 (百万ドル)	輸出量(千トン)			合計量 (千トン)
	生鮮	乾燥	その他		生鮮	乾燥	その他	
アフリカ諸国(非アラブ・非イスラム)	1.62	0	0.81	2.43	1	0	1	2
アジア諸国(非アラブ・非イスラム)	2.43	0.27	2.97	5.67	2	0	4	6
豪州・オセアニア	0.27	0	0.27	0.54	0	0	0	0
EU諸国以外の欧州諸国	0.27	0	0.27	0.54	0	0	0	0
EU諸国	1.62	0.27	2.16	4.05	1	0	2	3
GCC(湾岸協力会議)諸国	7.29	26.73	27	61.02	7	17	16	40
非アラブのイスラム諸国	18.36	0.54	6.21	25.11	17	1	4	22
北米	1.35	0	1.35	2.7	0	0	1	1
その他のアラブ連盟諸国	32.4	2.43	19.71	54.54	32	2	27	61
その他のグループ	0	0	0	0	0	0	0	0
南米	0	0	0.81	0.81	0	0	1	1
合計	65.61	30.24	61.56	157.41	60	20	56	136

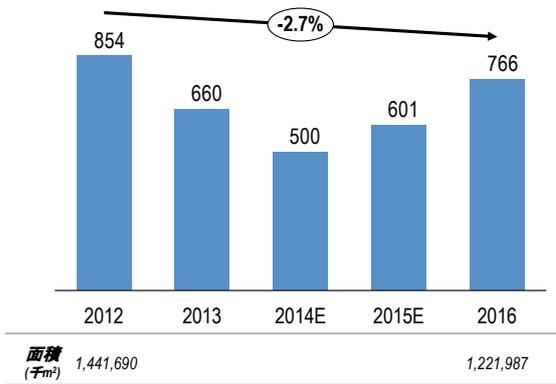
出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia より NRI 作成

2-2-2 小麦

政府方針により、地下水を多く消費する小麦の生産が中止されたこともあり、小麦の耕地面積は2012年から16%減少しており、収穫量は年平均で約2.7%減少している。

図表 38 小麦生産量(千トン)

Note) Estimations by FAO



図表 39 灌漑システム別耕地面積(2015年)

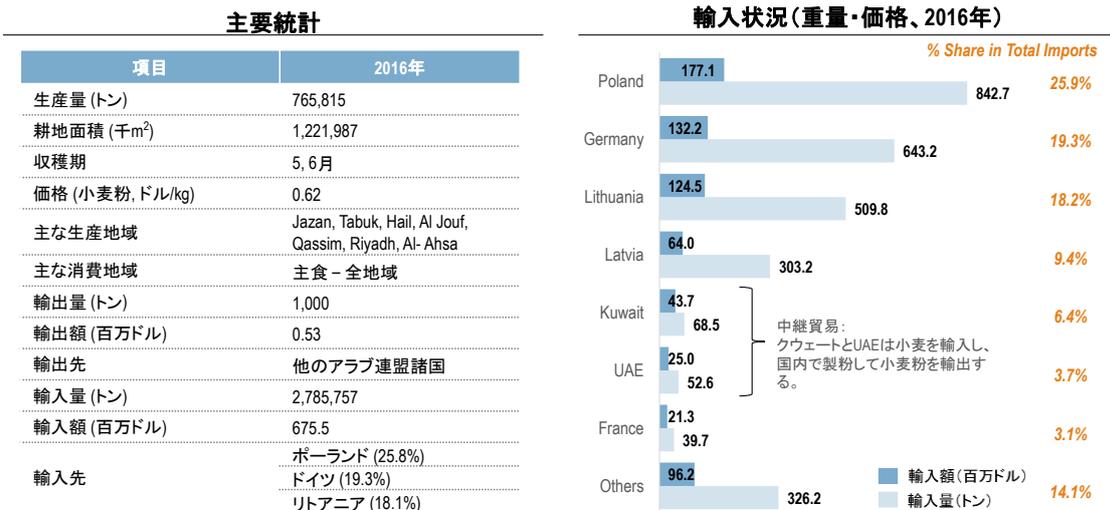
- ・スプリンクラー灌漑は、耕地面積の90%以上で用いられており、小麦生産の一般的な灌漑方法である。

灌漑システム	耕地面積(千m ²)	シェア
地表灌漑	50,292	4.11%
点滴灌漑	770	0.06%
スプリンクラー灌漑	1,101,611	90.15%
降雨	68,723	5.62%
その他	592	0.05%
合計面積	1,221,987	100%

出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia, Agriculture Census 2015 より NRI 作成

小麦の輸入量の70%は、ポーランド、ドイツ、リトアニア、ラトビアのEU4か国が占める。

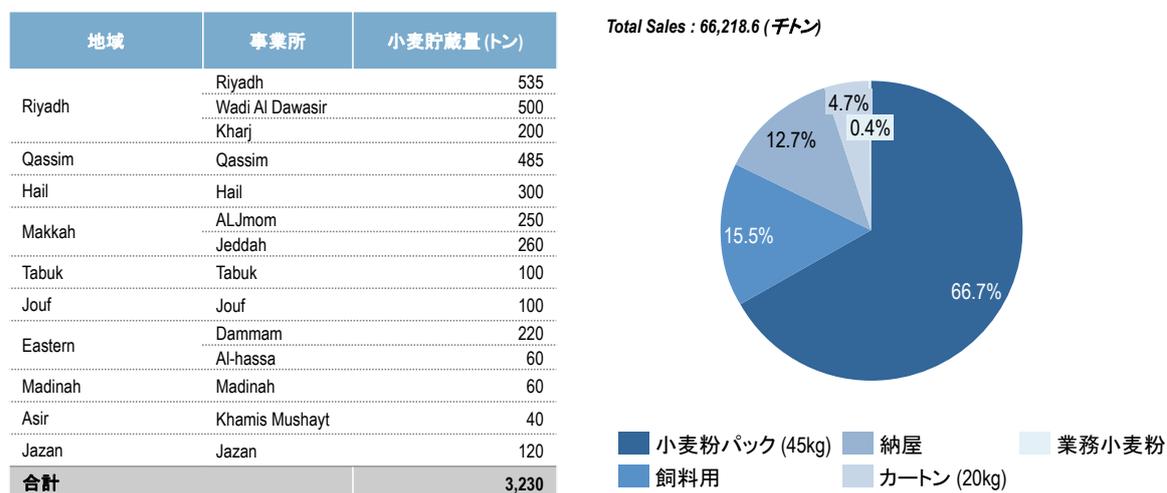
図表 40 小麦の生産・消費・貿易



出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia より NRI 作成

小麦の貯蔵量は、消費量の多い Riyadh、Qasim、Makkah で多い。販売される小麦製品の種類では、小麦粉が多い。

図表 41 地域別小麦貯蔵量（2015 年）と種類別小麦製品販売量シェア（2015 年）

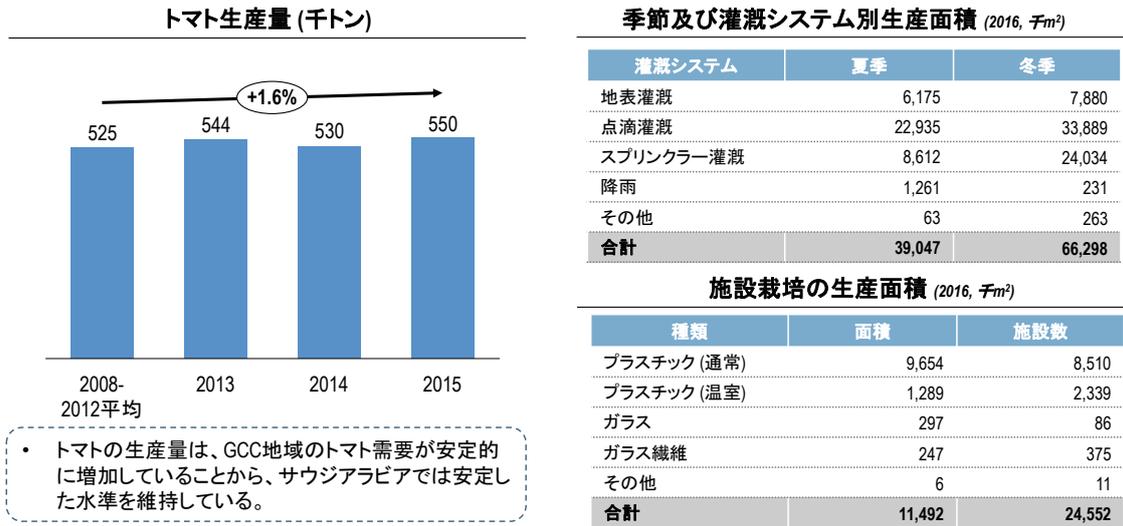


出所) Agriculture Census 2015 より NRI 作成

2-2-3 トマト

サウジアラビアでは年間約 50 万トンのトマトが生産されており、生産量は年 1.6%のペースで増加している。

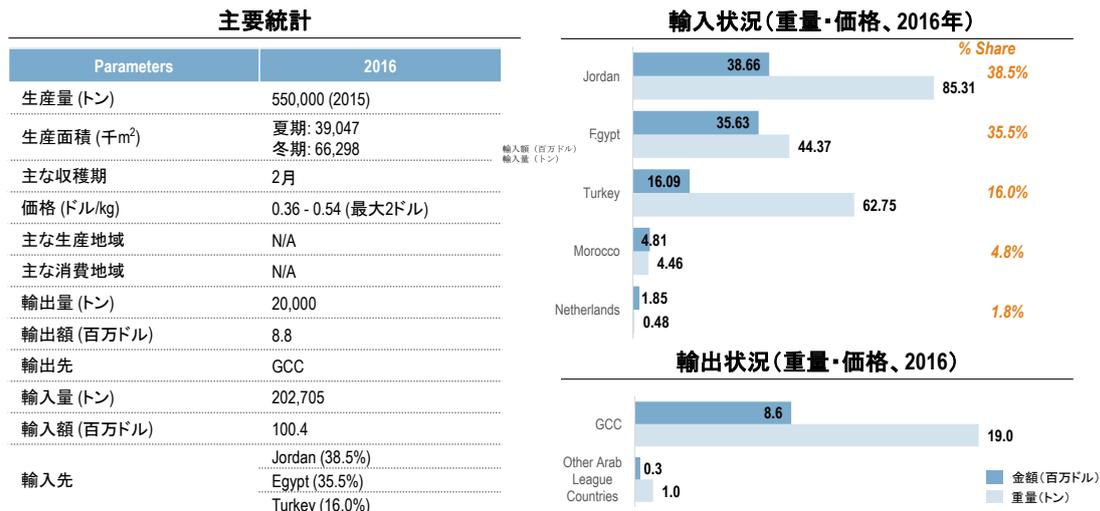
図表 42 トマトの生産量と生産面積



出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia より NRI 作成

トマトの輸入額は 100 万ドル超で、ヨルダンとエジプトからの輸入が 70%以上である。

図表 43 トマトの生産・消費・貿易

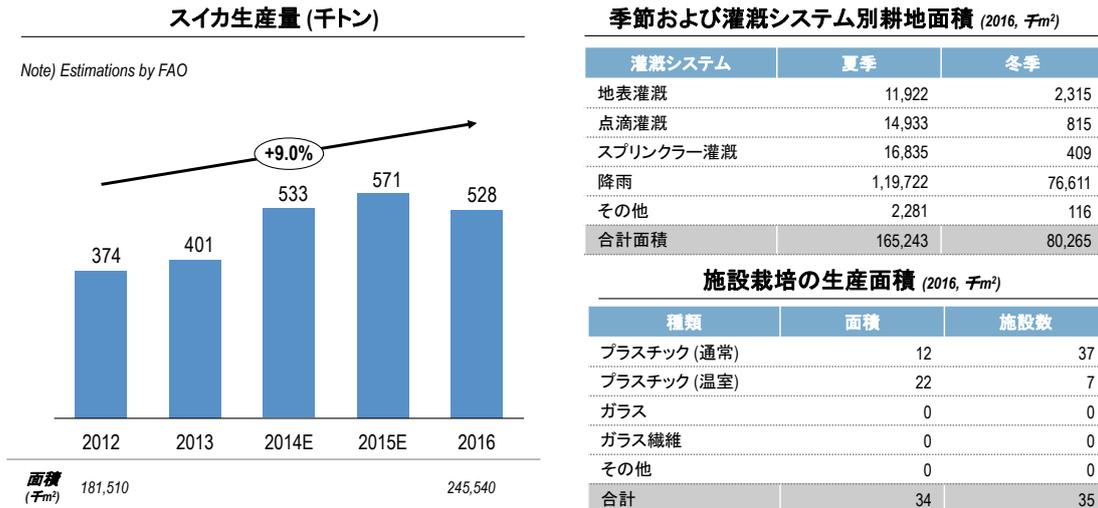


出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia, Agriculture Census 2015, Arab Agriculture Statistics 2016, Arab News より NRI 作成

2-2-4 スイカ

サウジアラビアにおいてスイカは主に伝統的（露地栽培）な方法で栽培されており、施設農業は全体の 0.014%（全体 245,540 千 m²のうち施設農業は 34 千 m²）程度である。

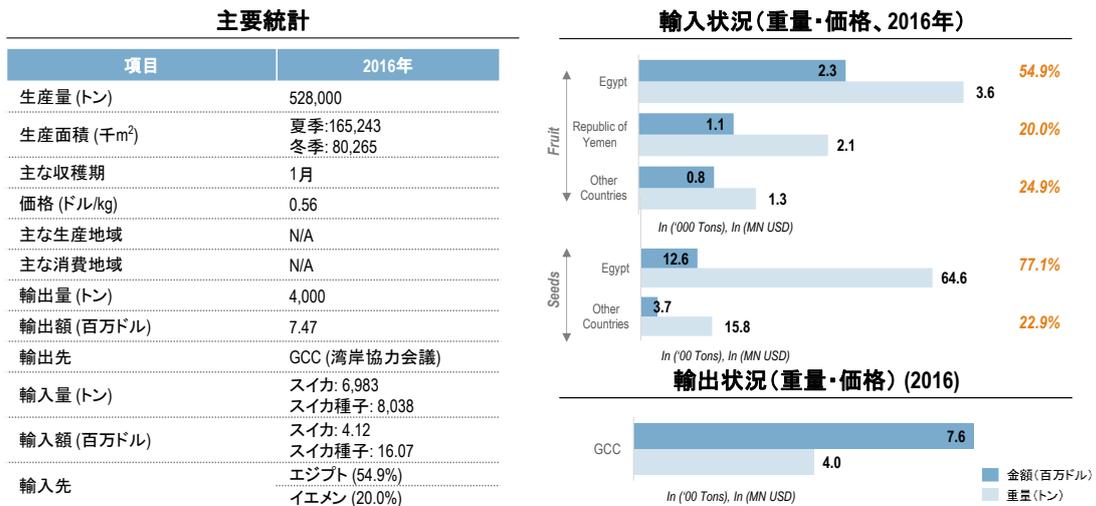
図表 44 スイカの生産量と耕地面積



出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia, Agriculture Census 2015 より NRI 作成

エジプトはサウジアラビアにとっての主要スイカ輸入先国であり、スイカは全体の 50%以上、スイカの種子は 70%以上をエジプトからの輸入に依存している。

図表 45 スイカの生産・消費・貿易



出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia, Agriculture Census 2015 より NRI 作成

2-2-5 レタス

灌漑システムを用いて屋外で栽培されるレタスの生産は夏季に限定される。一部は、施設栽培（グリーンハウス等）により生産されている。

図表 46 レタスの生産面積

季節および灌漑システム別生産面積, 2016			施設農業の生産面積, 2016		
灌漑システム等	夏季 (千m ²)	冬季	施設農業種類	面積 (千m ²)	施設数
地表灌漑	2,396	-	プラスチック (通常)	95	10,832
点滴灌漑	1,840	-	プラスチック (温室)	8	9
スプリンクラー灌漑	4,520	-	ガラス	14	4
降雨	3	-	ガラス繊維	1	2
その他	65	-	その他	2	4
合計	8,824	-	合計	120	251

出所) Agriculture Census 2015 より NRI 作成

レタスの輸入量の 3 分の 1 はスペインが占める。近年、水耕栽培の促進によりレタスの輸入依存度を減らすことが期待されている

図表 47 レタスの生産・消費・貿易

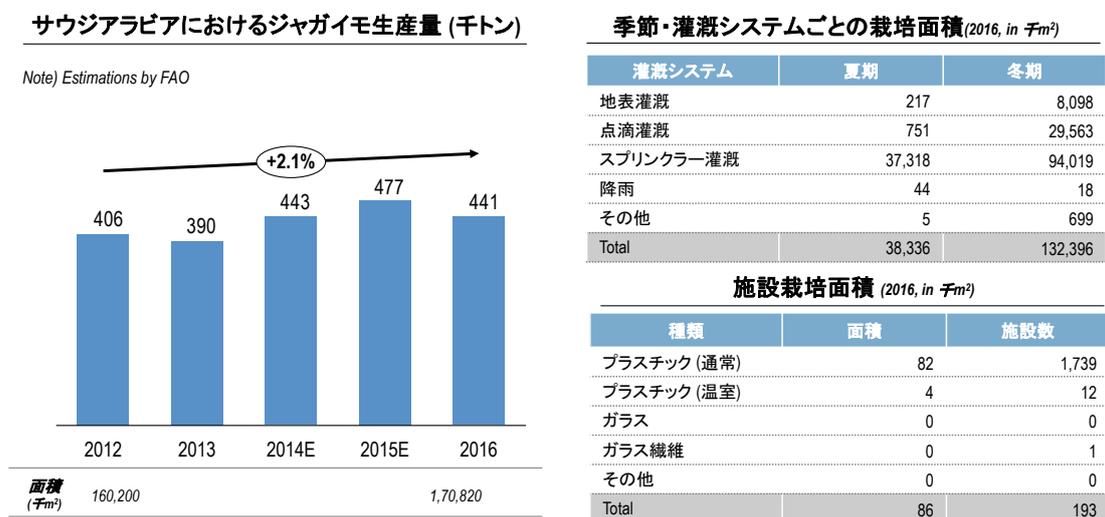
主要統計		輸入状況(重量・価格、2016年)	
項目	2016年	重量 (トン)	% Share
生産量 (トン)	N/A	Spain: 12.1	32.1%
生産面積 (千m ²)	夏季: 8,824	U.S.A: 6.7	17.7%
収穫期	11月	Lebanon: 6.3	16.7%
価格 (ドル/kg)	1.7	Netherlands: 5.8	15.3%
主な生産地域	N/A	Egypt: 4.9	12.9%
主な消費地域	N/A	Other Countries: 2.0	5.3%
輸出品 (トン)	23,000	輸出状況(重量・価格) (2016)	
輸出額 (百万ドル)	8.0	GCC: 8.1	23.0
輸出先	GCC(湾岸協力会議)	* キャベツ含む	
輸入量 (トン)	28,250	■ 金額 (百万ドル)	
輸入額 (百万ドル)	37.3	■ 重量 (トン)	
輸入先	スペイン (32.1%) アメリカ (17.7%) レバノン (16.7%)		

出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia, Agriculture Census 2015 より NRI 作成

2-2-6 ジャガイモ

ジャガイモは冬季を中心に、主に露地栽培により生産されている。

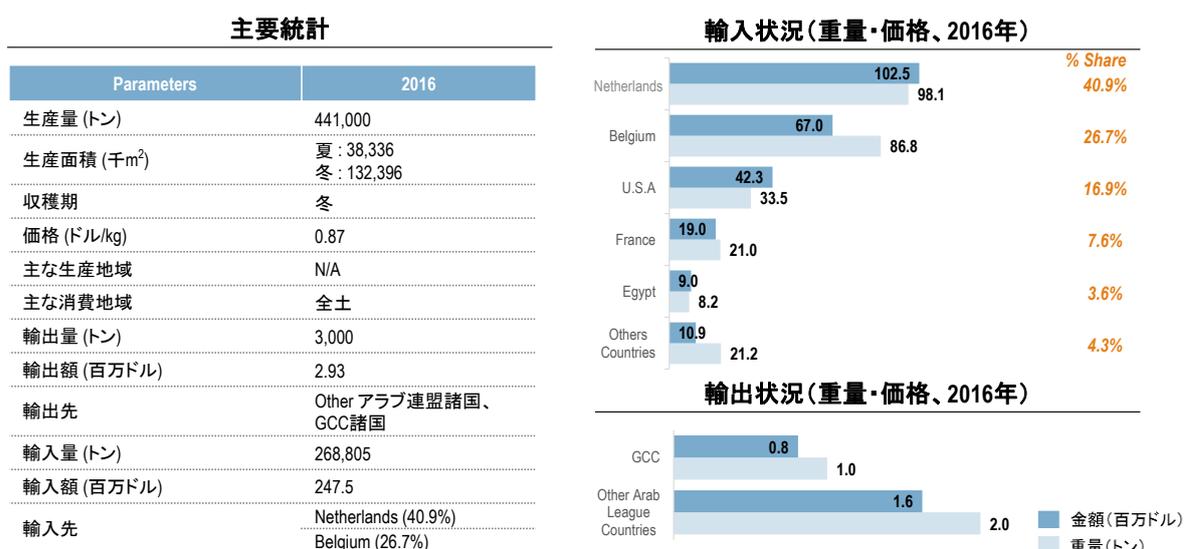
図表 48 ジャガイモの生産量と栽培面積



出所) Agriculture Census 2015 より NRI 作成

ジャガイモの輸入が多いのはオランダとベルギーの2カ国であり、輸入量の65%以上を占める。

図表 49 ジャガイモの生産・消費・貿易

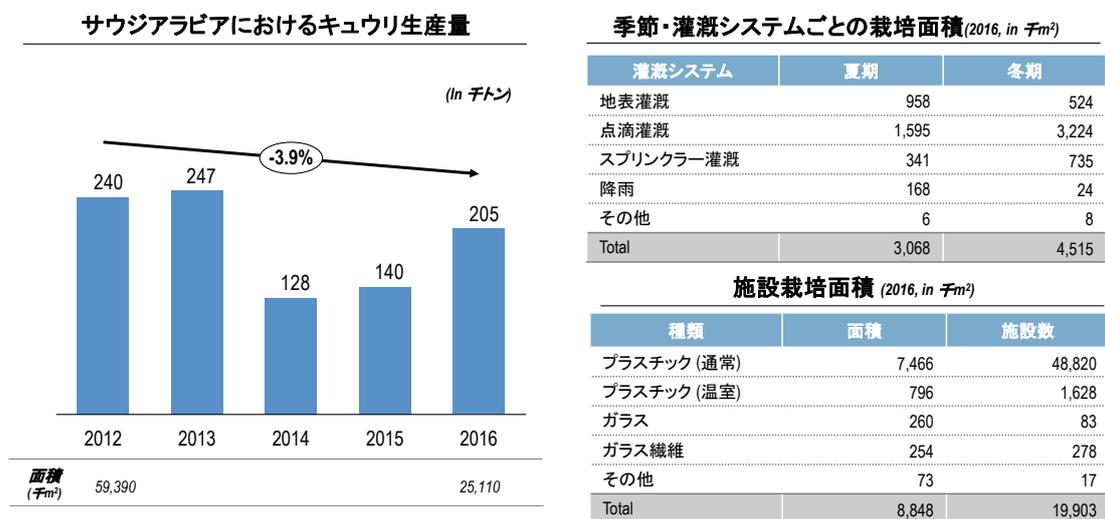


出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia, Agriculture Census 2015 より NRI 作成

2-2-7 キュウリ

キュウリの生産は施設栽培が中心であり、冬季の露地栽培面積よりも大きい。

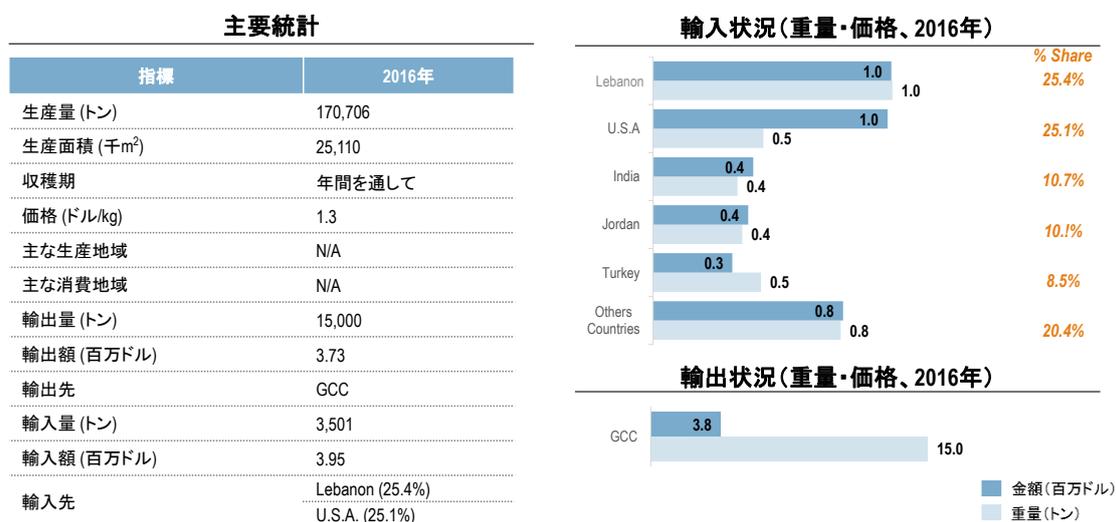
図表 50 キュウリの生産量と栽培面積



出所) Agriculture Census 2015, FAOSTAT より NRI 作成

サウジアラビアにおいてキュウリは自給率が高く、輸入は限定的である。

図表 51 キュウリの生産・消費・貿易

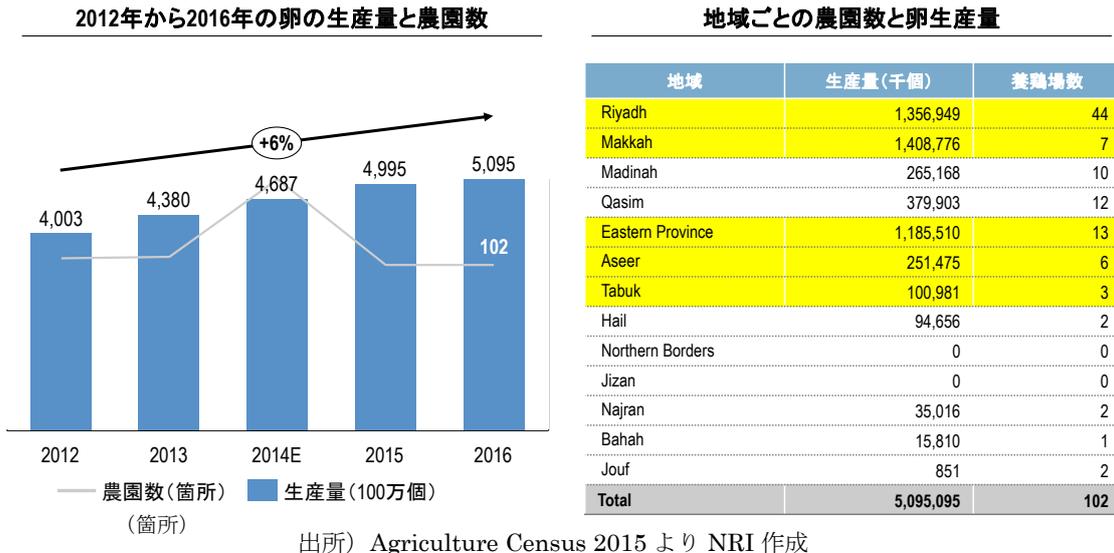


出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia, Agriculture Census 2015 より NRI 作成

2-2-8 鶏卵

サウジアラビアにおける鶏卵の生産量は年平均 6% のペースで増加している。鶏卵の主な生産地域は Riyadh、Makkah、Eastern Province である。

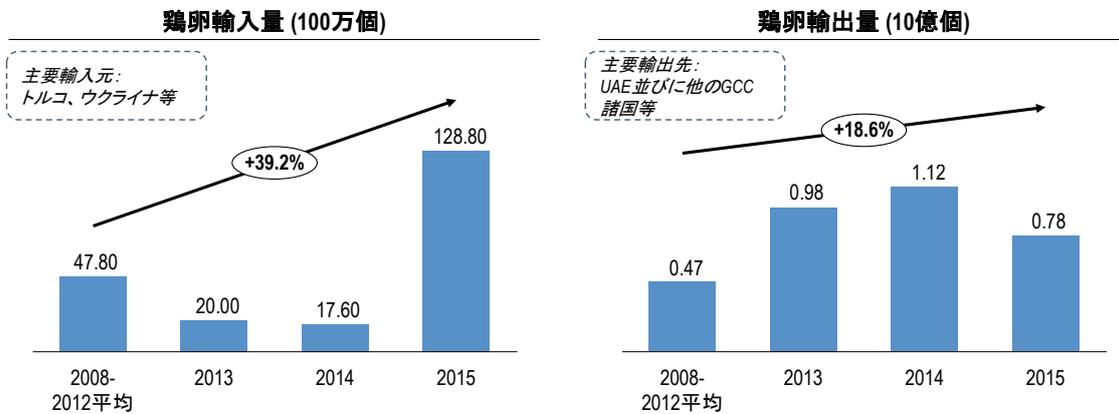
図表 52 鶏卵の生産量と農園数



サウジアラビアでは鶏卵が国内消費量以上に生産されており、GCC 諸国を中心に輸出されている。少量だが、トルコ・ウクライナから安価な鶏卵を輸入もしている。

サウジアラビアでは特に冬期の鶏卵の供給不足に直面する。さらに、2015 年には家禽の疾病問題に直面した結果、輸出が減少し、輸入は増加した。

図表 53 サウジアラビアにおける鶏卵の輸出入

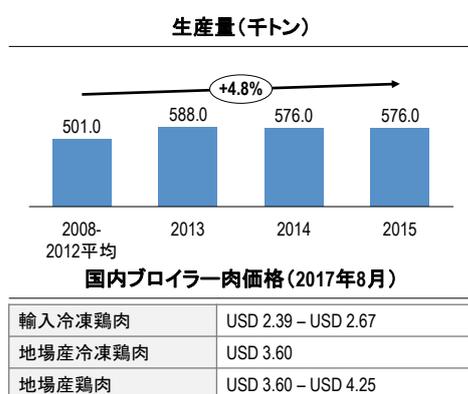


出所) Agriculture Census 2015 より NRI 作成

2-2-9 ブロイラー

ブロイラーの国内生産量は、ここ数年は平均 5%弱のペースで成長しているものの、国内消費量の 41%にとどまる。大手ブロイラー農場である Al Watania、Al Fakeih Poultry、Al Marai、ARASCO 等の事業規模拡大投資により、サウジアラビアの家禽産業の大手への集約化が進んでいる。

図表 54 ブロイラーの生産量と価格



図表 55 国内の主要ブロイラー農場

Al Marai	<ul style="list-style-type: none"> サウジアラビアの大手家禽会社 最近、年間2億羽の鶏を収容可能な新たな養鶏場をHailに設置した
Al Fakeih	<ul style="list-style-type: none"> 国内二番手の生産者 230の養鶏場を運営しており、そのうち128拠点は委託生産
Al Watania	<ul style="list-style-type: none"> 毎日140万羽のブロイラーと3百万の卵を生産している
ARASCO	<ul style="list-style-type: none"> “Entaj”ブランドの下で事業を実施している中規模のブロイラー肉生産業者

出所) Arab Agricultural Statistics 2016, Global Trade Atlas, USDA Report より NRI 作成

Riyadh、Qasim、Eastern Province、Hail など、農業活動が盛んな地域ではブロイラーの養鶏場も多く立地している。国内に存在する 20,376 箇所の鶏肉生産用の登録済み用地のうち、15,414 箇所が上記 4つの地域に立地している。

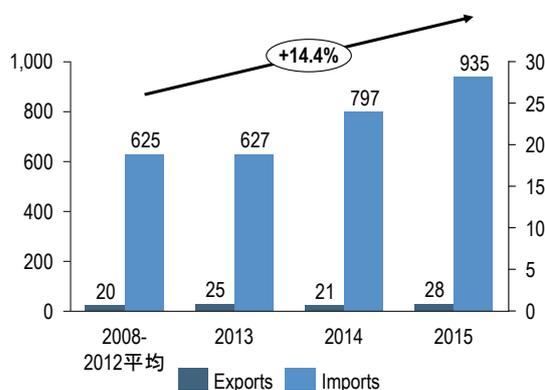
図表 56 州別ブロイラー飼育数、農場数等 (2016年)

地域	飼育数	用地数	ブロイラーファーム数	親ファーム数
Riyadh	619,043	4,015	91	15
Makkah	74,497	615	70	7
Madinah	66,578	892	16	0
Qasim	464,784	2,418	21	7
Eastern Province	296,341	7,839	45	3
Aseer	14,056	414	78	2
Tabuk	23,743	245	9	6
Hail	111,956	1,071	3	3
Northern Borders	7,266	134	1	0
Jizan	22,851	531	2	0
Najran	40,512	906	10	0
Bahah	11,185	225	2	0
Jouf	120,183	1,071	3	0
Total	1,872,995	20,376	351	43

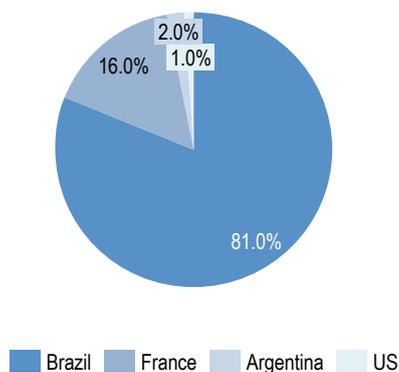
出所) Agriculture Census 2015 より NRI 作成

サウジアラビアのブロイラーの輸入量は過去 5 年間 14%以上の高い割合で伸びており、直近では 100 万トン近く輸入している。主な輸入国はブラジルであり、80%以上を占める。

図表 57 ブロイラーの輸出入量 (千トン)



図表 58 ブロイラーの輸入国シェア



出所) Arab Agricultural Statistics 2016, Global Trade Atlas より NRI 作成

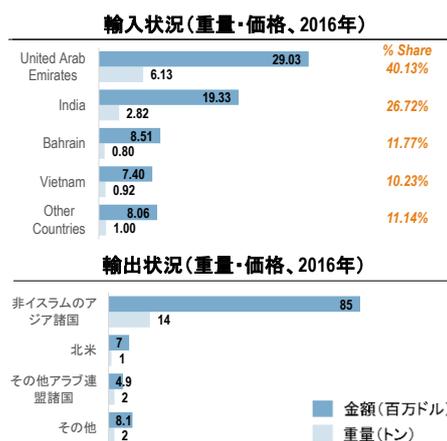
2-2-10 エビ

エビの生産地は Jizan と Makkah に集中しており、生産されたエビは主にアジア向けに輸出されている。輸入も行っており、その 66%は UAE とインドが占めている。

図表 59 エビの州別生産量

州	種類	農園数	生産池数	生産池容積(m ³)
Riyadh	-	-	-	-
Makkah	Shrimp	1	36	291,600
Madinah	-	-	-	-
Qasim	-	-	-	-
Eastern Province	-	-	-	-
Aseer	Indian Shrimp	1	178	10,000
Tabuk	-	-	-	-
Hail	-	-	-	-
Northern Borders	-	-	-	-
Jizan	Qazazi Shrimp	1	64	4,480,000
Jizan	Shrimp	1	70	5,700,000
Najran	-	-	-	-
Bahah	-	-	-	-
Jouf	-	-	-	-
Total		4	348	10,481,600

図表 60 エビの輸出入量・金額

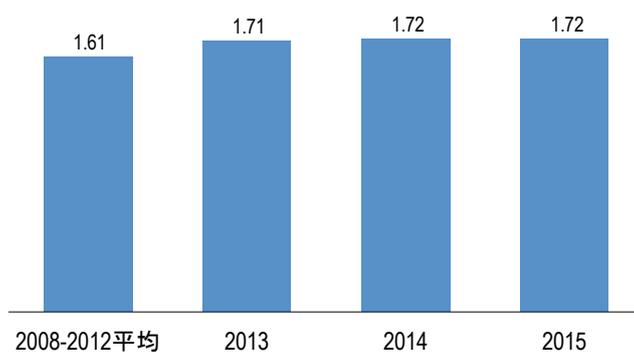


出所) Statistical Yearbook of 2016 – General Authority For Statistics Saudi Arabia, Agriculture Census 2015 より NRI 作成

2-2-11 牛乳

サウジアラビアの生乳の生産量は、最近3年間は約170万トンで推移している。

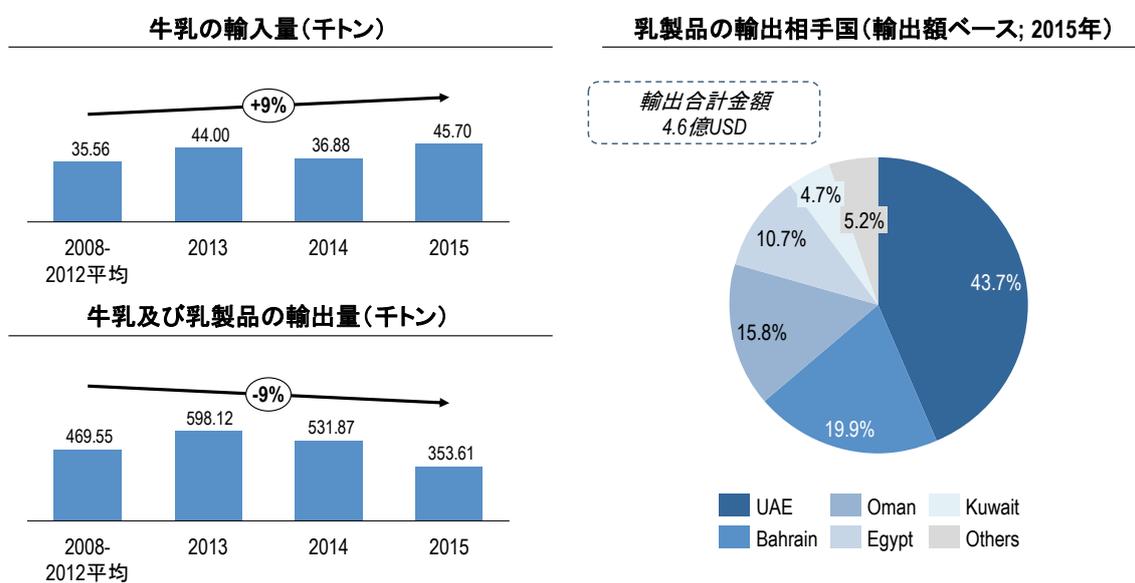
図表 61 サウジアラビアにおける牛乳の生産量（百万トン）



出所) Arab Agricultural Statistics 2016, News Articles, Numbeo Website より NRI 作成

近年、輸入量は増加し、輸出量は低下している。主要な輸出相手国は、UAE、バーレーン、オマーン等の周辺国である。

図表 62 サウジアラビアの牛乳の輸出入



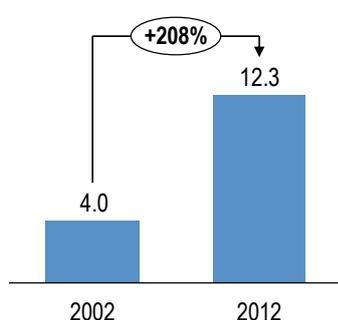
出所) Arab Agricultural Statistics 2016 より NRI 作成

2-3 食品産業とサプライチェーン

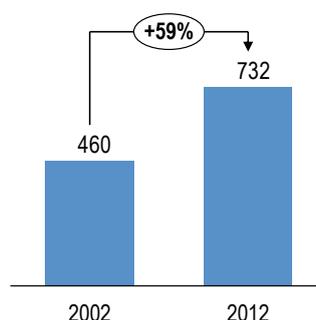
2-3-1 食品産業と市場、貿易

サウジアラビアの食品加工産業は、政府による補助金等の支援や、加工食品に対する需要の高まりにより大幅に成長している。これを背景に、国内の食品加工産業への投資額、工場数とも、2002年と2012年を比較すると大幅に増加している。

図表 63 国内の食品加工産業への投資額
(10億ドル)



図表 64 国内の食品加工工場数
(箇所)



出所) USDA, “Saudi Arabia Food Processing Ingredients 2015”より NRI 作成

図表 65 サウジアラビア国内の大手食品加工メーカー

企業名	種類	国	市場シェア 2016 (%)
1 Almarai Co Ltd	乳業	サウジアラビア	8.90
2 Mars GCC	製菓	米国	3.36
3 Al Muhaidib Grains Co	穀物	サウジアラビア	2.71
4 Al Safi Danone Ltd	乳業	フランス	2.42
5 Saudi Food Industries Co Ltd	乳業	サウジアラビア	2.31
6 Nestlé SA	製菓	スイス	2.20
7 Saudi Snack Foods Co	製菓	サウジアラビア	2.16
8 Saudi Dairy & Foodstuff Co Ltd (SADAFCO)	乳業	サウジアラビア	1.97
9 Mondelez Eastern Europe, Middle East & Africa FZE	製菓	米国	1.81
10 Saudi Vegetable Oil & Ghee Co (SAVOLA)	製油・精糖他	サウジアラビア	1.78
11 National Agricultural Development Co (NADEC)	乳業	サウジアラビア	1.35
12 National Food Industries Co Ltd	缶詰等	サウジアラビア	1.30
13 Saleh Abdulaziz Babaker	穀物	サウジアラビア	1.16
14 Basamh Trading Co	缶詰等	サウジアラビア	1.15
15 Deemah - United Food Industries Corp Ltd	製菓	サウジアラビア	1.08
16 National Biscuits & Confectionery Co Ltd	製菓	サウジアラビア	1.04

出所) Euromonitor International データより NRI 作成

サウジアラビアの食品市場を見ると、下図に示すような傾向が見られる。経済成長に伴う所得の増加、ライフスタイルの変化、西洋化、女性の社会進出の進行等、サウジアラビアの社会・経済の変化が影響していると考えられる。

図表 66 サウジアラビアにおける食品需要のトレンド

トレンド	説明
肉および乳製品の消費量拡大	<ul style="list-style-type: none"> 炭水化物からタンパク質ベースの食事へシフト。主に価格競争力のある家禽肉と用途の多い乳製品に対する需要増。
調理済食品需要の増大	<ul style="list-style-type: none"> 女性労働者の増加や西洋化によって調理済食品が好まれる。
ベビーフード需要の増大	<ul style="list-style-type: none"> サウジアラビアは出生率が高く、乳幼児人口が増大。 ベビーフード需要の年平均成長率は9.8%。
健康食品への急速なシフト	<ul style="list-style-type: none"> 肥満やセリアック病、糖尿病への懸念の増加により、果物やフルーツジュース等健康食品嗜好が高まる。
食品サービス産業の需要増	<ul style="list-style-type: none"> サウジアラビアでは女性の社会進出の進行もあり、外食や宅配サービスが増加しており、食品サービス産業の需要が高まる。
スナックおよび飲料の需要	<ul style="list-style-type: none"> 30歳未満が人口の70%であることやライフスタイルの変化に伴い、便利なスナック食品の需要が増加。

出所) USDA Report, Farrelly & Mitchell Report より NRI 作成

サウジアラビアは国内食料需要量の80%を輸入に依存する。乳製品の輸入額が18億ドルと、突出して大きい。

図表 67 食品別輸入の状況

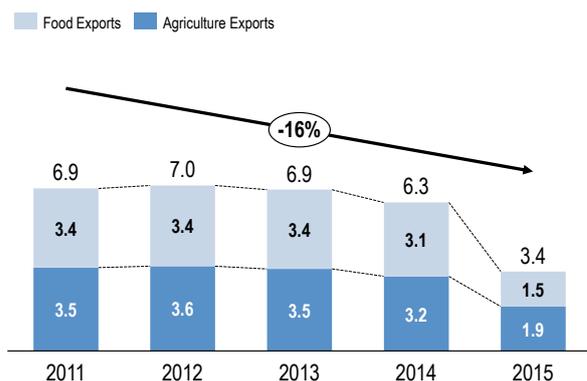
食品名	輸入元上位3か国	輸入額(100万USD; 2014年)
 乳製品	<ul style="list-style-type: none"> New Zealand (26%) US (10%) Netherlands (9%) 	1,800
 加工野菜	<ul style="list-style-type: none"> Netherlands (17%) Egypt (14%) US (12%) 	528
 食用油*	<ul style="list-style-type: none"> US (23%) Oman (17%) Ukraine (15%) 	429
 スナック・菓子類	<ul style="list-style-type: none"> Italy (20%) Turkey (14%) Poland (11%) 	355
 魚介類	<ul style="list-style-type: none"> Thailand (32%) Yemen (25%) Indonesia (17%) 	328
 加工果物	<ul style="list-style-type: none"> India (23%) US (12%) China (11%) 	195

* Excluding Palm Oils

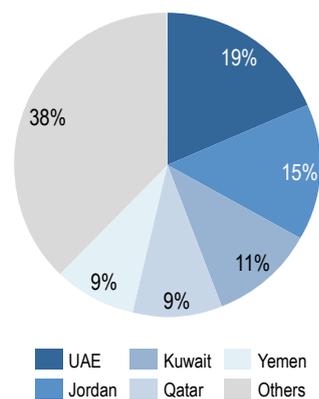
出所) USDA 2015 Report より NRI 作成

サウジアラビアの食品及び農産物の輸出量は、国内需要の増加を背景に、過去 5 年間で 16%以上減少している。主な輸出相手国は UAE、ヨルダン、クウェート等周辺国に集中している。

図表 68 食料・農産物輸出額
(10 億米ドル)



図表 69 食料・農産物の主要輸出相手国



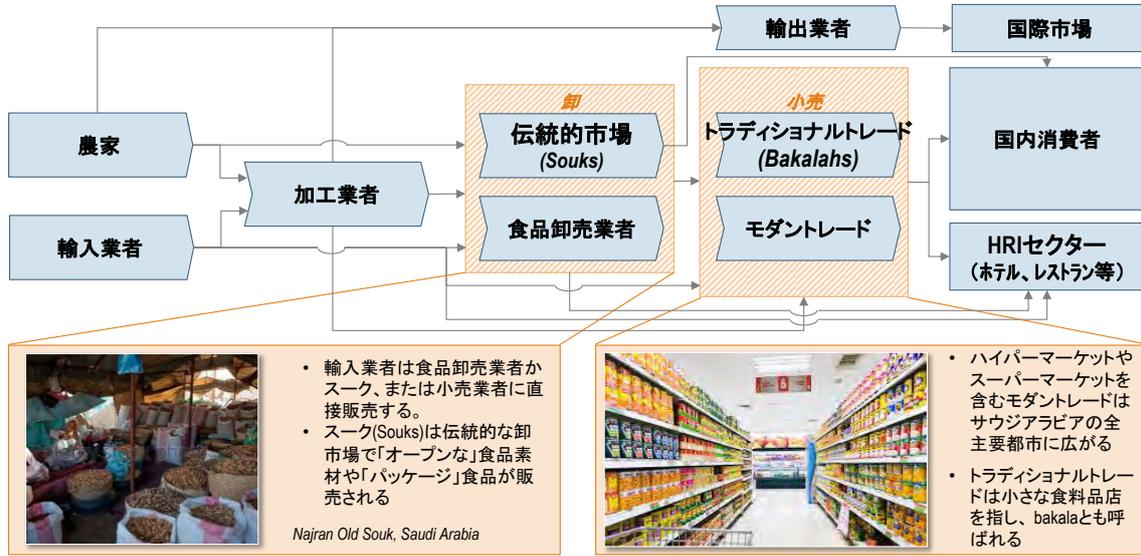
注) 2014 から 2015 年にかけての輸出額の急減は、国内需要の増加に加え、2015 に原油価格が急落したことによる周辺の産油国の景気の悪化が原因と推測される。

出所) FAOStat, World Bank より NRI 作成

2-3-2 サプライチェーン

サウジアラビアの輸入業者（代理店）を通じ卸売業者や小売業者に販売される。消費者への販売は、スークや小さな食料品店（「Bakalah」）等のトラディショナルトレードと、ハイパーマーケットやスーパーマーケット等のモダントレードの両方を通じ行われる。

図表 70 サウジアラビアの食料サプライチェーン



出所) USDA, “Saudi Arabia Retail Foods 2015”より作成

図表 71 サウジアラビアの食品小売業者

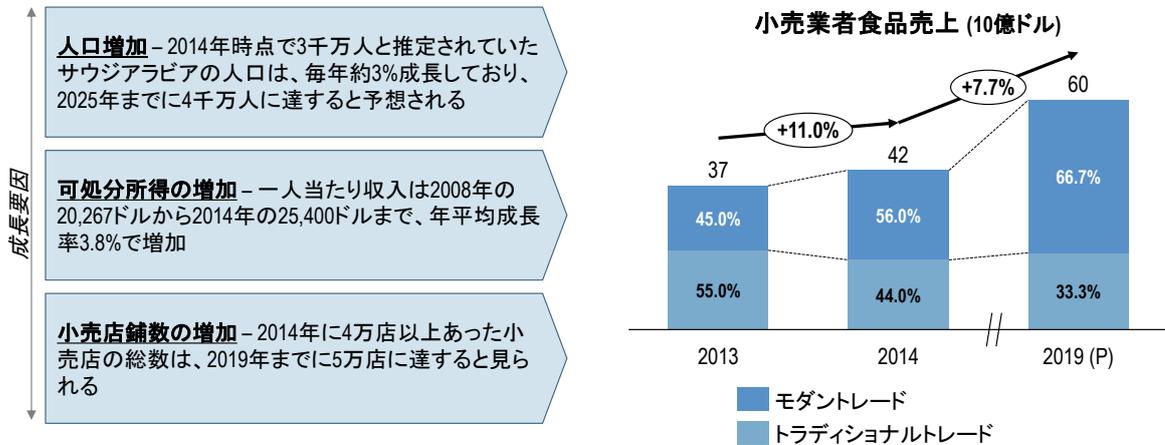
小売業者の種類		詳細	規模	店舗数	食品売上*
モダントレード	 ハイパーマーケット	・ハイパーマーケットは食品、衣料品、工具、電化製品など5万品目以上を扱う小さなモールで、2004年にサウジアラビアに導入された	18,000平方メートル以上	432	83億ドル (20%)
	 スーパーマーケット	・スーパーマーケットはより小規模で、包括的な食品と、ベーカリー、冷凍・冷蔵食品や非食品範囲などその他の商品を扱う	500-5,000平方メートル	736	149億ドル (36%)
	 小型食料品店 (bakalabs)	・小型食料品店はサウジアラビアのほぼ全ての地域にあり、ほとんどの商品を限られた流通業者から調達する	最大100平方メートル	36,787	181億ドル (44%)
		注) 全ての数値は2014年の値を使用	* シェアは全小売食品売上に対する割合		

出所) USDA, “Saudi Arabia Retail Foods 2015”よりNRI作成

小売業者を通じた食品売上は人口増加による需要拡大と小売インフラにおける供給プッシュにより、年平均成長率7%以上で増加する見通しで、2019年までに600億USDに達する見込みである。

現状のトラディショナルトレードとモダントレードの割合はおよそ半々であるが、今後予想される海外の小売事業者によるモダントレードへの投資により、今後モダントレードが一層浸透し、トラディショナルトレードのシェアは2014年の44%からさらに減衰すると見られる。

図表 72 小売業者の食品売上と成長要因



出所) USDA, “Saudi Arabia Retail Foods 2015” より NRI 作成

国内のモダントレードによる小売の大部分は、ハイパーマーケットやスーパーマーケットの形態で行われている⁴。サウジアラビアにおいて小売企業の外国人による所有は認められているものの、主要な小売業者は全て地場企業か UAE の企業がオーナーとなり、自社ブランドでチェーン展開を行っており、海外のブランドは地場企業にライセンスを供与している Carrefour (仏) のみである。

全ての小売業者は国内における仕入れと海外からの直接輸入の両方を行い、製品を調達する。

図表 73 国内の主なハイパーマーケット・スーパーマーケット

小売業者名	所在地	店舗数	立地地域
Panda Supermarket	Saudi	364店舗(ハイパーマーケット52店舗、スーパーマーケット102店舗、小規模食料品店210店舗)	全ての主要都市
Al-Othaim Supermarket	Saudi	130店舗(ハイパーマーケット8店舗、スーパーマーケット92店舗、卸売り店舗10店舗、小規模店舗20店舗)	中央部、北部、東部、西部
Farm Supermarkets	Saudi	73店舗(スーパーマーケット56店舗、小規模店舗17店舗)	東部、西部、南部
Al Raya Supermarkets	Saudi / UAE	47店舗(全てスーパーマーケット)	西部、南部
Tamimi Markets	Saudi	23店舗(全てスーパーマーケット)	中央部、東部
Bin Dawood Supermarkets	Saudi	20店舗(スーパーマーケット15店舗、ハイパーマーケット5店舗)	西部
Balsharaf Supermarkets	Saudi	18店舗(スーパーマーケット13店舗、卸売り店舗5店舗)	中央部
Carrefour Saudi Arabia*	Saudi / UAE	16店舗(全てハイパーマーケット)	東部、西部、中央部
Danube Supermarkets	Saudi	16店舗(ハイパーマーケット11店舗、スーパーマーケット5店舗)	西部、中央部、東部
Al Sadhan Supermarkets	Saudi	8店舗(ハイパーマーケット4店舗、スーパーマーケット4店舗)	中央部
Lulu	UAE	5店舗(全てハイパーマーケット)	中央部、東部
Nesto Hypermarkets	UAE	5店舗(全てハイパーマーケット)	西部、中央部、東部
Manual Hypermarkets	Saudi	4店舗(全てハイパーマーケット)	西部

* under license from Carrefour France

出所) USDA, “Saudi Arabia Retail Foods 2015” より NRI 作成

⁴ モダントレードには、これらのほかに、ガソリンスタンド内に立地するコンビニエンスストアに近い業態の小売店舗並びにドラッグストア等がある。

サウジアラビアにおけるコールドチェーンは、代理店やメーカーが自ら整備するのが通常である。このため、サードパーティーのコールドチェーンは存在するも十分に発達しておらず、複数の小規模なローカル企業により、冷蔵倉庫、空調設備、トラック等の機能ごとに分担されている。

フルーツや野菜、肉類、水産物等の需要が増加していることを背景に、サードパーティーによるコールドチェーンへの需要は高まっていることから、サウジアラビア政府は主要なローカル企業の統合を画策しつつ、コールドチェーンの改良に向け海外技術や投資を求めている。

図表 74 国内の主要なコールドチェーン物流企業

企業名	本社所在地	提供サービス			補足
		倉庫	輸送	その他サービス	
Panalpina	Switzerland	●	●	●	コールドチェーンに特化したスイスの企業
Storkom	Bahrain	●	●	●	バーレーン発のコールドチェーン企業で、サウジアラビアに拠点を有する
Almajdouie Group	Saudi Arabia	●	●		サウジのコングロマリット(複合企業)
Four Winds Saudi Arabia Ltd.	Saudi Arabia	●	●		基本的なコールドチェーンサービスを提供するサウジ企業
Zahid Group	Saudi Arabia	●	●		サウジのコングロマリット(複合企業)

出所) 環境・水・農業省インタビュー、kenresearch より NRI 作成

第3章 サウジアラビアの食生活

3-1 サウジアラビアの食に関する習慣

サウジアラビアは厳格なイスラム国家であることから、独特の食習慣や制限、嗜好がある。以下で順に紹介する。

(ハラル)

サウジアラビアで販売される食品、また提供される食事は、全てイスラム法に則った「ハラル」である必要がある。具体的には、豚肉とアルコールが禁止されている。

(食習慣：通常時)

食事は3食が基本だが、勤務時間帯が全体的に早いことから、食事を取る時間帯が日本と異なる。例えば公務員等は、朝8時に出勤し、15時頃退勤が一般的である。この間に昼食はとらない。また、1日5回あるお祈りの時刻にも左右される。

この結果、食事の時間帯は下記のとおりとなる。

朝食：6～7時頃

昼食：15時～16時（退勤後、家族とともに取るのが一般的）

夕食：21時以降（最後のお祈りの終了後）

(食習慣：断食月「ラマダン」)

断食月が年に1ヶ月間あり、この間は日の出から日の入りまでの間食事を取ることを禁じられる。この間の食事の時間帯は、概ね次のとおり。

「イフタール (Iftar)」 (=breakfast) 18-19時

「スフール (Suhur)」 就寝前・夜明け前 2-3時

イフタールとスフールの間に軽食を適宜挟む

(嗜好)

サウジアラビア人は、一般的に肉好き・甘い物好きである。肉は鶏肉やラムを好んで食べる。魚介類はほとんど火を通し、生で食べることはほとんどない（そのような料理がレパートリーにない）。また、鶏卵も生で食べる習慣はない。主食は米飯並びにアラビックパンである。アルコールが禁止されていることもあり、一般的に甘いもの好きである

(ホームパーティとケータリング)

宗教的な理由により女性が家の外に出にくいこと、また住宅が大きいこともあり、ホームパーティを頻繁に行う習慣がある。このため、ケータリングビジネスや贈答（手土産）ビジネスが発達している。

3-2 サウジアラビアの家庭料理

サウジアラビアの家庭料理としては、炊き込みご飯のような炊き方で炊いた米飯（バスマティ米）の上に肉や魚介類を載せる料理が大変ポピュラーである。

地域毎に味付けや調理方法が異なり、多様な種類がある。

図表 75 サウジアラビアの代表的な家庭料理例



出所) Cultures Factory 提供

厳格なイスラム国家であるサウジアラビアでは、アルコールは禁止である。このこともあり、果物を原料に用いたジュースが発達している。また、人をもてなす際には、アラビック・コーヒー（コーヒー豆を炒らずに煮出して作る）を出すことが多い。

図表 76 サウジアラビアの代表的な飲料例



出所) Cultures Factory 提供

サウジアラビア人は、甘いスイーツを好んで食べる。地場のスイーツは、非常に甘いものが多い。

図表 77 サウジアラビアの伝統的なスイーツ例

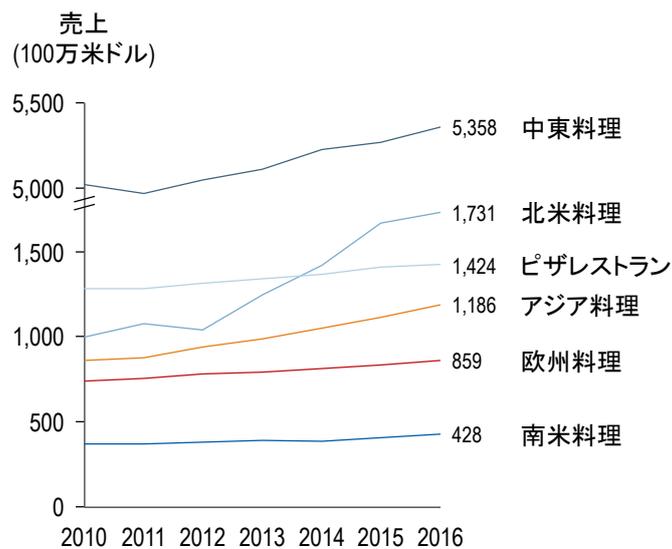


出所) Cultures Factory 提供

3-3 サウジアラビアの外食産業

サウジアラビアの外食産業は、中東料理のレストランが最大勢力である。その他の種類の料理を出すレストランも増えており、最近では特に北米料理（ステーキハウス等）が伸びている。

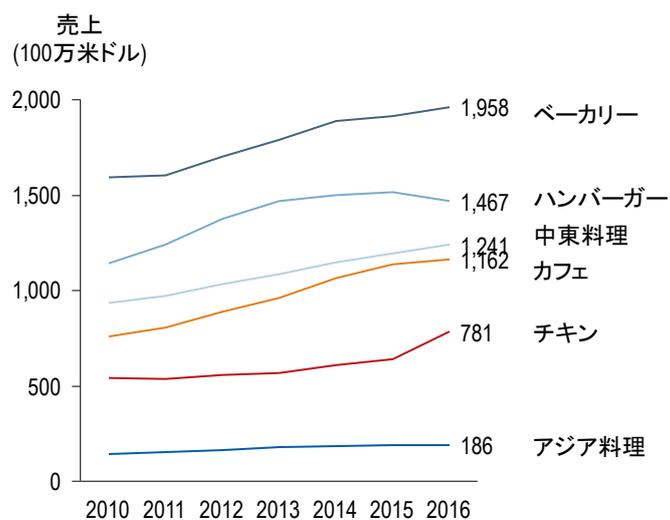
図表 78 サウジアラビアのレストランの種類別売上



出所) Euromonitor International より NRI 作成

また、ファストフード産業も概ね成長している。食の西洋化を反映し、ベーカリーやハンバーガーショップ、カフェ等のプレゼンスが大きい。

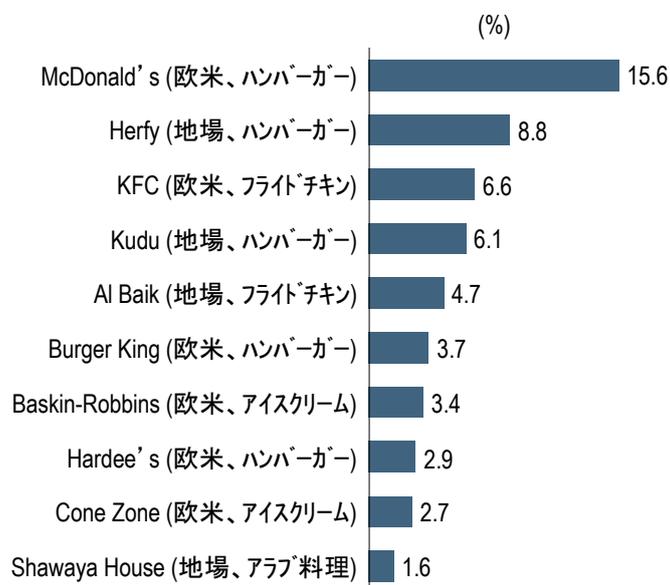
図表 79 サウジアラビアのファストフード・カフェの種類別売上



出所) Euromonitor International より NRI 作成

ファストフードのチェーン店別に見ると、マクドナルドを筆頭に、欧米の有名チェーン店のプレゼンスが大きいことが分かるが、地場系のチェーン店も健闘している。

図表 80 サウジアラビアに展開する大手レストランチェーンの市場シェア (2016)



出所) Euromonitor International “Fast Food in Saudi Arabia” 2017 より NRI 作成

サウジアラビア国民の健康への関心の高まりを反映し、健康なイメージのある日本食への関心は高まっている模様である。このため、和食レストランへの人気も高まりつつあり、リヤド市内でも少しずつ増えているものの（この5年間で5店舗増加）、日本人シェフは国内に1人のみである等、そのプレゼンスは限られている。現地のシェフは、フィリピン人等アジア系が多い。

後述する健康食品のアンケートの中で、日本食に対する関心についての回答によると、回答者が健康食品に関心のある者であるという偏りはあるが、焼き魚、煮魚、寿司・刺身、海藻、ラーメンに対する高い関心が見られた。一方で、回答者の14%が「関心がない」、同25%が「分からない」という回答であり、日本食の認識度がまだ高くないことを示している。

また、同アンケートによれば、世界中から巡礼者が多数集まる聖地、古くから商業都市として栄えたジェッダが域内にあるため人々の性格が開放的なのか、マッカ州居住者は日本食への関心が比較的高い。

なお、日系の外食チェーンについては、2017年に東部州のアルコバールにオープンしたチーズケーキ店「てつおじさんの店」（英語名“Uncle Tetsu”）のみ確認されている。以前はリヤドにシュークリーム店「ビヤードパパ」（英語名“beard papa's”）が2店舗展開していたが、閉店済みである。

図表 81 リヤド市内の和食レストランリスト

	店名	備考
1.	Yokari	和食レストラン。サウジアラビア国内で唯一日本人シェフが在籍。
2.	Nozomi	和食レストラン。英国人が運営している。
3.	Kampai	和食レストラン。地場系。
4.	Tokyo	和食レストラン。以前は日本企業が運営にかかわり、日本人シェフも在籍していたものの、現在は撤退済。
5.	Shogun	和食レストラン。高級ホテル内に立地。
6.	Benihana	米国系の鉄板焼きチェーン。
7.	Furusato	和食レストラン。地場系。
8.	Susiyoshi	地場系の寿司チェーン。
9.	Sushi Art	地場系の寿司屋。
10.	Sushi Counter	地場系の寿司屋。
11.	Sushi Spot	地場系の寿司屋。
12.	Shiro	地場系の寿司屋。
13.	Nehon	地場系の和食レストラン。

出所) リヤドでのインタビュー等

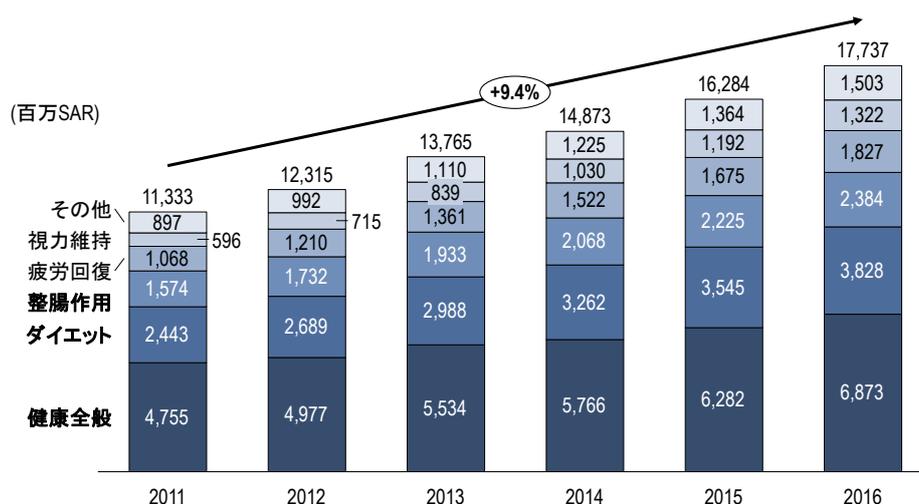
第4章 サウジアラビアの健康食品市場

4-1 サウジアラビアの健康食品市場と流通状況

サウジアラビアは、気候が厳しく、車社会のため歩いたり運動したりする機会が少ないこと、また、肉中心の食生活も重なり、肥満と成人病が社会問題となっている。このため、保健省や他の政府機関では、食生活や生活スタイルを見直すよう啓蒙するためのキャンペーンを実施している⁵。また、国家の長期ビジョンであるサウジ・ビジョン 2030 では、政府の目標にヘルスケアサービスの品質向上や肥満率の低下があり、この動きは今後も継続する方向である。

このような背景もあり、国民による健康への意識や健康食品への需要は高まっている。サウジアラビアの健康食品市場の規模は、2016 年で約 180 億サウジリヤル（約 48 億米ドル相当）であり、年 9.4%のペースで急速に伸びている。

図表 82 健康食品の種類別売上

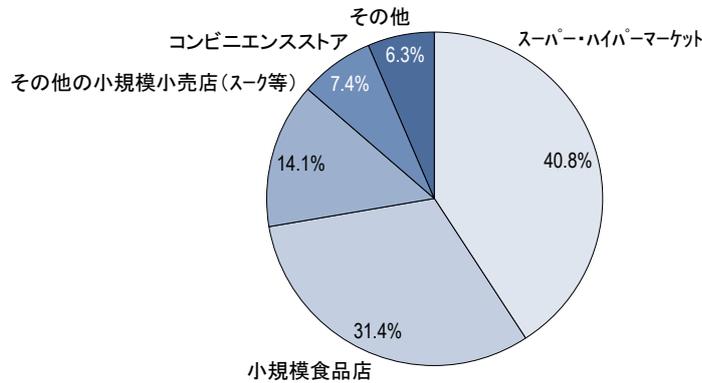


出所) Euromonitor International, “Health and Wellness in Saudi Arabia”, 2017 より NRI 作成

健康食品は、通常の食品一般と同様、主にハイパーマーケット・スーパーマーケット等のモダントレードの小売店、ならびに小規模食品店等のトラディショナルトレードの両方で購入されている。

⁵ 例えば、保健省による健康な食生活と程よい運動の定着を目指した啓蒙キャンペーン”Weigh Your Life”、国家警備隊保健局による “Annual Diabetes Awareness Campaign”等。

図表 83 健康食品の販売場所（2016年）

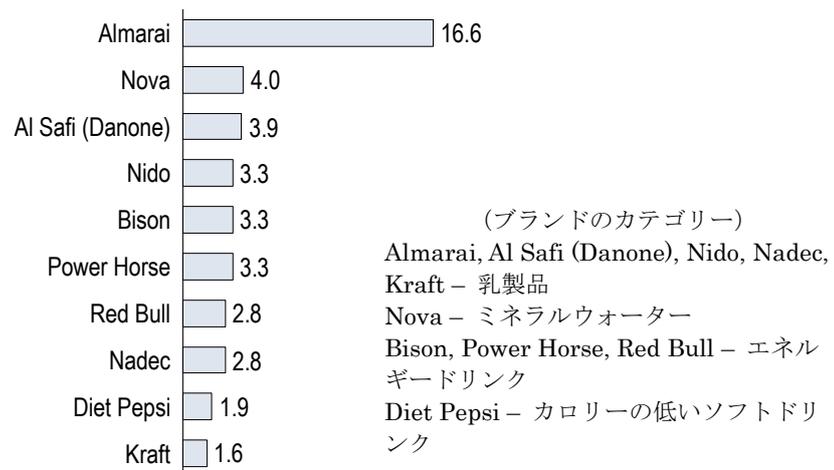


備考)

- ・コンビニエンスストアは日本のものと異なり、ガソリンスタンドに立地することがほとんどである。
- ・通信販売の存在感はないが、近年急激に発達しており、今後伸びる可能性がある。

出所) Euromonitor International, “Health and Wellness in Saudi Arabia”, 2017 より NRI 作成

図表 84 健康食品のブランド別シェア（2016年）



出所) Euromonitor International, “Health and Wellness in Saudi Arabia”, 2017 より NRI 作成

4-2 健康食品に係る制度・規制

食品一般について、誤解を与える機能表示を行うことは禁止されており、病気の予防効果等を表示することはできない⁶。本規制は、特に 2015 年初頭より厳格に運用されるようになった。機能表示を行うには、SFDA に機能性食品として認定・登録される必要があり、そ

⁶ GSO 9: 2013 ” Labeling of prepackaged food stuffs”にて、規定されている。

の申請においては医薬品に順ずる情報提供を求められ、手続きに長期間を要する⁷。
 禁止されている機能表示（緑茶の例）は、下記のとおりである。

図表 85 一般食品で禁止されている機能表示

食品	禁止される機能表示例
緑茶	糖尿病予防に効果がある 発ガン、脳卒中のリスクを抑える 老化を遅らせる 虫歯予防 解毒作用のあるフラボノイドを含む 過敏性腸症候群（IBS）予防 免疫強化 コレステロールを溶かし、活力を増強する 体重コントロール 健康的（ヘルシー）である

出所) USDA “Food and Agricultural Import Regulations and Standards - Narrative” 2017 より NRI 作成

⁷ 企業インタビューより、2年程度必要となるとの情報がある。

4-3 サウジアラビア人の健康食品に関する意識調査

4-3-1 調査概要

サウジアラビア王国内の居住者を対象として、健康食品に関する意識調査をインターネットアンケートにより実施した。調査の概要は下記の通りである。

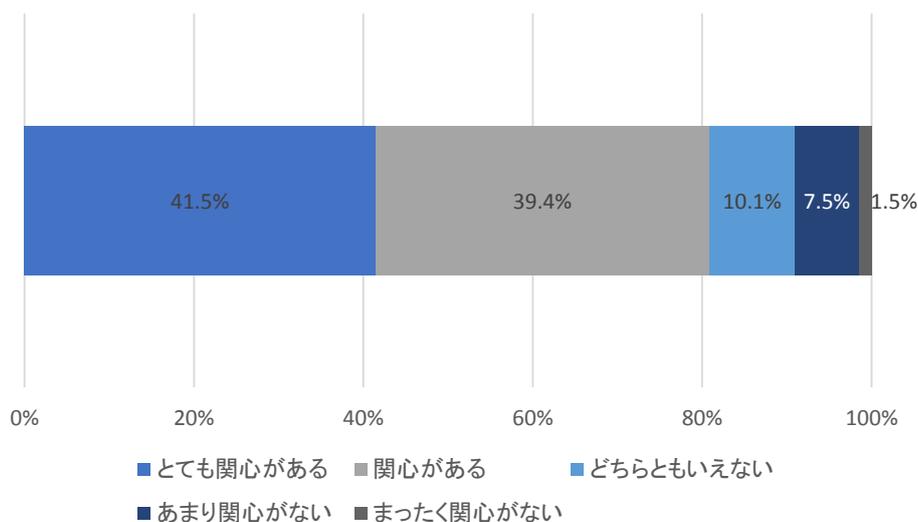
図表 86 健康食品に関する意識調査概要

項目	概要
調査名称	健康食品に関する調査
テーマ	サウジアラビア王国内の居住者の健康食品に対する認識を調査する
対象	サウジアラビア王国居住者としてインターネット調査パネルに登録している男女かつ10代～50代の533名(男性275名、女性258名)
方法	インターネット調査パネルの登録者に対してアンケート回答メールを送信し、男女ともに250回答を超えた日に調査ウェブサイトを開鎖
期間	2017年11月10日～11月17日(日本時間)

4-3-2 回答結果の概要と示唆

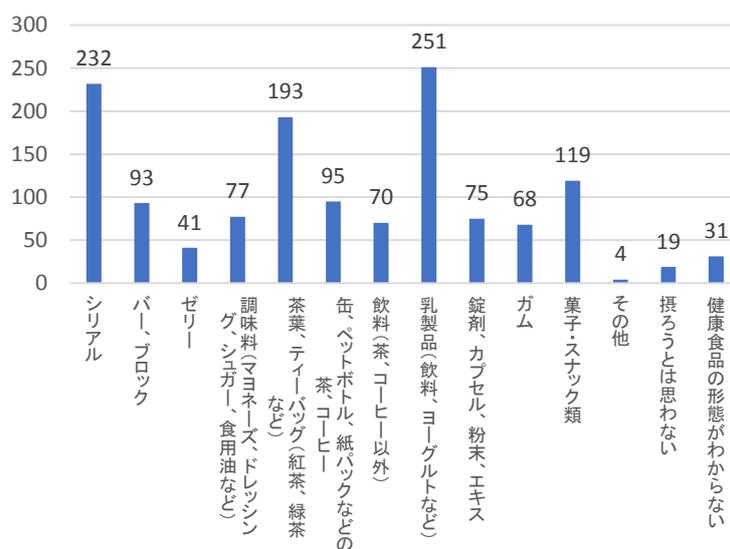
本調査の結果概要と示唆は、下記のとおりである。
全体として、自らの健康への関心、健康食品への関心は全体的に高い。

(Q2) あなたは自らの健康を高めたり、体の調子を整えたりするための食品(健康食品)について興味・関心がありますか。[回答は1つのみ]

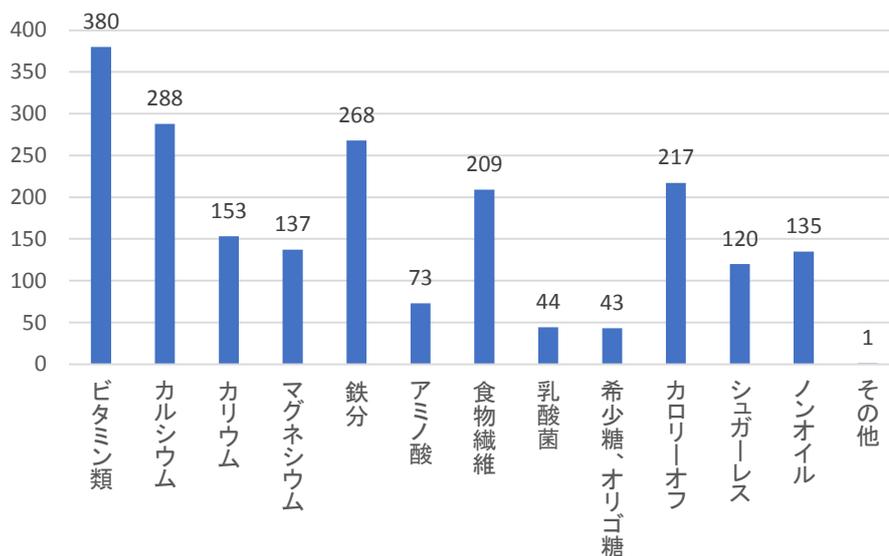


乳製品を多く取っており、健康食品であるとの認識はあるものの、乳酸菌を取ろうと思っていない、整腸作用に期待していない等の結果が出ていることから、健康食品の機能や成分についての知識はあまりないことが伺える。

(Q9) あなたは、どのような形態の健康食品を摂ることに興味がありますか。[複数回答]

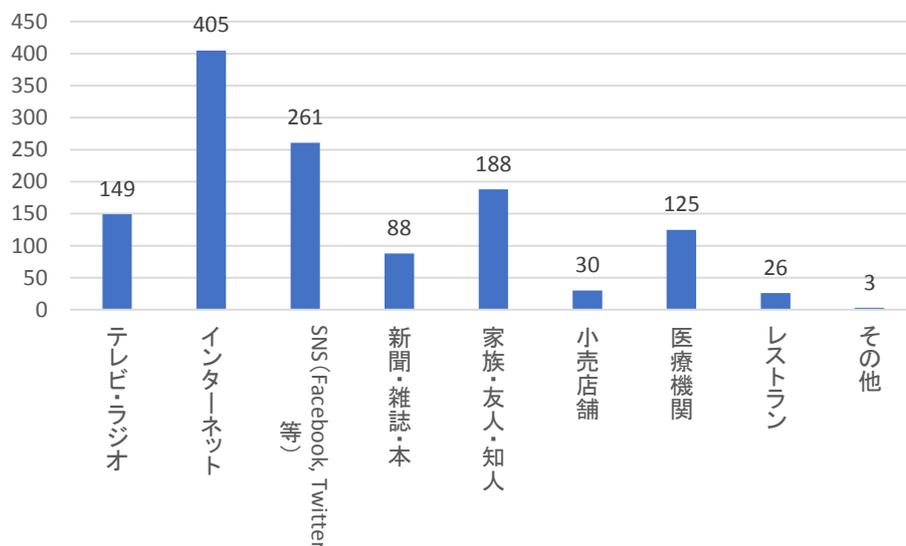


(Q7) あなたは、どのような成分が含まれた(10.~12.は成分が少ない)健康食品に興味がありますか。[複数回答]



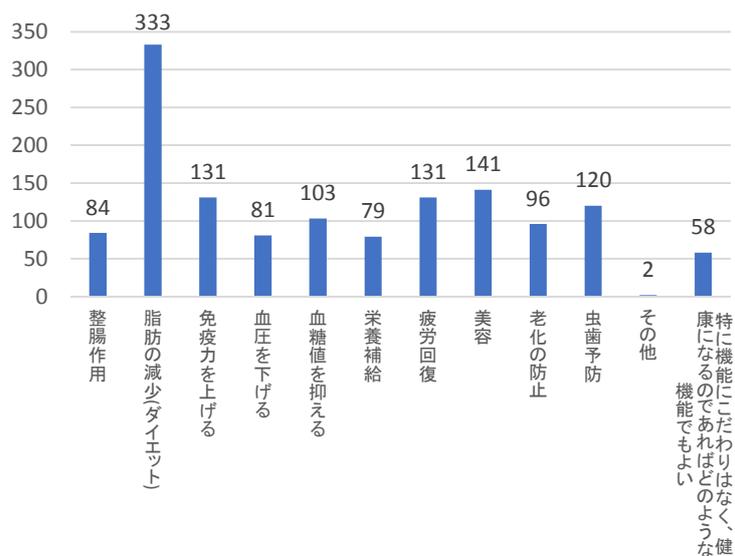
健康食品に関する情報入手手段として、インターネット、SNS、口コミが多く、重要なマーケティングチャネルになる。

(Q3) あなたは健康食品に関する情報をどこから入手していますか。[複数回答]



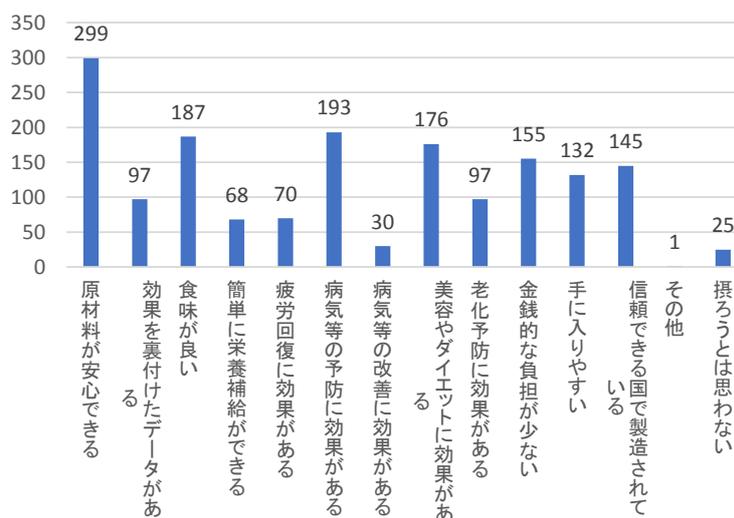
健康食品の機能の中では、「脂肪の減少（ダイエット）」に対する興味・関心が最も高く、美容が次点であった。

(Q6) あなたは、どのような機能を持つ健康食品に興味がありますか。[複数回答]



健康食品を選ぶ際のキーワードとして、機能よりも原材料が安心できることが重視されている。

(Q11) あなたが健康食品を選ぶ理由として、どういったキーワードを重視しますか。[複数回答]



属性により意識や行動が異なる点があり、マーケティングや商品開発の際に留意が必要である。以下では、主な結果のみ述べる。詳細は付録参照。

(性別)

- ・ 女性はダイエットに加え、美容効果への関心も高い。
- ・ 摂取の方法について、男女で嗜好が異なる(男性は食事と一緒に、女性は間食と一緒に)。

(年齢)

- ・ 年齢が上がるほど自分が健康ではないと思っている。
- ・ 情報取得手段が年齢により異なり、年齢が上がるほどテレビ・ラジオ、家族・知人・友人、医療機関から情報を入手する人が増える。

(収入)

- ・ 収入が上がるほど健康食品への関心が高まり、使用頻度も上がる。また、病気等の予防効果並びに食味、手に入りやすさを他の収入層よりも重視する傾向がある。
- ・ 情報収集手段の傾向に変化はないが、収入が上がると健康食品に関する情報そのものに対してより敏感になる。

(居住地)

- ・ 国営石油会社サウジアラムコの立地の影響か、東部州居住者は他の地域の居住者よりも健康への意識が高く、健康食品の知識が多い。

第5章 農業・食品に関する政策、規制、手続き

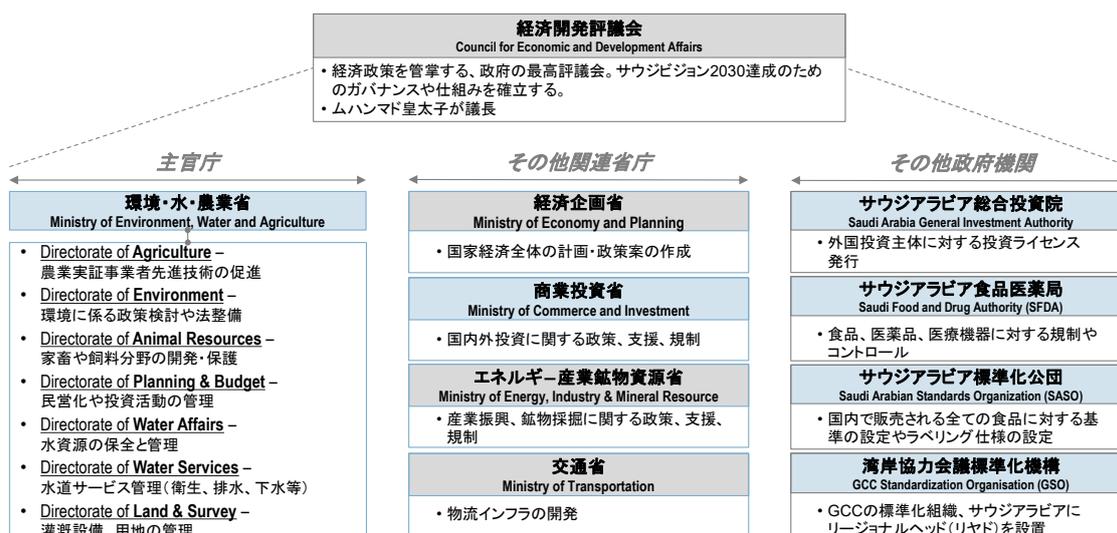
5-1 農業・食品関連政府組織

サウジアラビアにおける農水産業関連組織は下図に示す通りである。

農業政策の主管官庁は、環境・水・農業省であり、農業、環境、家畜、民営化・投資、水資源保護、水道、灌漑を担当する部局（Directorate）で構成されている。

この他、省庁・政府機関の中で関連が深いのは、民間企業による国内外の投資活動を管掌する商業投資省、外国企業が国内に投資を行う際に投資ライセンスを発給するサウジアラビア総合投資院、食品・医薬品・医療機器の規制を担当するサウジアラビア食品医薬品庁、機器等の基準認証を管掌するサウジアラビア標準化公団、同じく基準認証を管掌する湾岸協力会議（GCC）の機関である湾岸協力会議標準化機構である。

図表 87 サウジアラビアにおける農水産業関連組織



出所) サウジアラビア政府ウェブサイトより NRI 作成

5-2 サウジアラビアにおける農業・食品政策の位置づけ

5-2-1 サウジ・ビジョン2030概要

サウジ・ビジョン 2030 は、サウジアラビアの長期経済目標ならびに戦略を取りまとめたものであり、経済・社会・国家の発展を 3 つの柱としている。2016 年 4 月に公表された。

図表 88 サウジ・ビジョン 2030 概要

グローバルランキング	アクションプラン
<ul style="list-style-type: none"> 世界第19位から世界第15位の経済規模の国家になる 国際競争力指数(GCI)において25位から10位に入る 物流効率指数(LPI)において49位から25位に入る 	<ul style="list-style-type: none"> 官民パートナーシップを推進し、政府の不動産保有を資本化するなど、国内外の投資家のビジネス環境を改善する ジーザン経済都市などの経済都市の復興 物流、観光、工業、金融などの経済特区を設立する 個人投資家を誘致し、所有と外国投資の制限を緩和することで小売部門を強化 港湾、空港、道路、鉄道の建設に多額の投資を行い、地域の物流ハブを構築し、地域(GCC、湾岸協力会議)統合を促進する
投資 / 産業活動	
<ul style="list-style-type: none"> 公的投資基金(PIF)の資産を6,000億リヤルから7兆リヤルに増やす 海外直接投資を対GDP比3.8%から5.7%に上げる 民間部門の貢献の割合を対GDP比40%から65%に上げる 非石油製品の輸出の割合を対GDP比16%から50%に上げる 	
国民参加	
<ul style="list-style-type: none"> 中小企業の貢献の割合を対GDP比20%から35%に上げる 石油・ガス部門におけるサウジ人率を40%から75%に上げる 失業率を11.6%から7%に下げる 女性の労働参加率を22%から30%に上げる 	

出所) Saudi Vision 2030 公式資料より NRI 作成

経済開発評議会 (CEDA) は、サウジ・ビジョン 2030 を達成するための 12 の「ビジョン実現プログラム」を策定した。

図表 89 ビジョン実現プログラム

National Transformation Program	<ul style="list-style-type: none"> ヘルスケア、環境、デジタル化、外国人の労働条件など、あらゆる面での国の全体的な発展 	Privatization Program	<ul style="list-style-type: none"> 民間部門への国営資産の解放 特定の政府サービスの民営化
Fiscal Balance Program	<ul style="list-style-type: none"> 収益の多様化と政府支出の効率化による政府の財務体質の改善 	Financial Sector Development Program	<ul style="list-style-type: none"> 金融機関による民間部門の成長の支援を可能にする
Strategic Partnerships Program	<ul style="list-style-type: none"> GCC統合アジェンダの作成 グローバル企業と経済的な関係を築き、FDI(対外直接投資)を誘致する 	The Housing Program	<ul style="list-style-type: none"> サウジ家族の住宅保有を促進する
National Companies Promotion Program	<ul style="list-style-type: none"> 地域および国際的に有望な国内企業を支援する 世界的な経済関係の発展 	Lifestyle Improvement Program	<ul style="list-style-type: none"> スポーツやアスリート活動への一般市民の参加を増やす 娯楽機会の創出
National Industrial Development and Logistics Program	<ul style="list-style-type: none"> 貿易と交通ネットワークの地域および国際的な連結性を改善する 主要な製造業をローカライズする 	Enriching the Hajj and Umrah Experience	<ul style="list-style-type: none"> 宗教観光客のためのサービスの質を向上させ、観光を促進する
Public Investment Fund Program	<ul style="list-style-type: none"> 新たな分野を含め、戦略的経済パートナーシップを構築することにより、公的投資基金(PIF)の資産を拡大する 	Saudi Character Enrichment Program	<ul style="list-style-type: none"> 市民の国家アイデンティティとイスラムの価値観の醸成

出所) Saudi Vision 2030 公式資料より NRI 作成

上記のビジョン実現プログラムのうち、National Transformation Program（国家変革プログラム）は、2020年までに各省庁が達成すべき178の戦略目標を含む全体的な開発に焦点を当てており、その中で、環境・水・農業省や他の関連省庁・政府機関についても、目標値が設定されている。

図表 90 National Transformation Program（国家変革プログラム）における目標の内容

参加主体	目標
Ministry of Environment, Water and Agriculture 環境・水・農業省	<ul style="list-style-type: none"> ・ サウジアラビアの持続可能な食料安全保障に貢献する ・ 国境を越えた獣医疾病や農業害虫の蔓延の監視と管理 ・ 農業目的で再生可能な水資源の利用を最適化する ・ 農業、畜産業、漁業の持続可能な高効率生産システムを開発し、サウジアラビアの生産地の多様化に寄与するこれらの製品の付加価値を高める ・ 農業分野における土地利用と管理の改善と牧草地や森林の植生の保全
Ministry of Commerce and Investment 商業投資省	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地元で生産される製品やサービスの競争力を高める
Ministry of Energy, Industry and Mineral Resources エネルギー-産業鉱物資源省	<ul style="list-style-type: none"> ・ 非石油製品の輸出の増加 ・ 輸出業者の能力、インフラ、手続きを強化する
Ministry of Transportation 交通省	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鉄道、港湾、空港など交通インフラの効率化 ・ ポート管理のビジネス環境を改善する
Saudi Arabian General Investment Authority サウジアラビア総合投資院	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重要な投資を可能にするための行政上の手続き環境の改善 ・ ビジネスしやすい環境に必要なインフラの改善 ・ ローカルコンテンツの割合を増やす ・ 国家経済を支える直接投資を促進する統一された国家投資ビジョンの策定 ・ 投資家へのサービスを充実させ、満足度を向上させる
Saudi Food and Drug Authority サウジアラビア食品医薬局(SFDA)	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハラル食品の世界的基準としてSFDAを確立するために、厳格なイスラム国家としてのサウジアラビアの特徴を活用する ・ すべてのSFDA部門（食品、医薬品、医療製品及び機器）で投資家に関して、それらの登録、ライセンス供与、検査、公開、施策を向上させる

出所) Saudi Vision 2030 公式資料より NRI 作成

政府は、国家変革プログラムにおいて合計715億ドルの予算を計上し、そのうち37.5億ドル（約5%）は農業活動に割り当てられている。具体的な内容は次頁の表に示すとおりである。

図表 91 国家変革プログラムに記載されている農業関連の政策

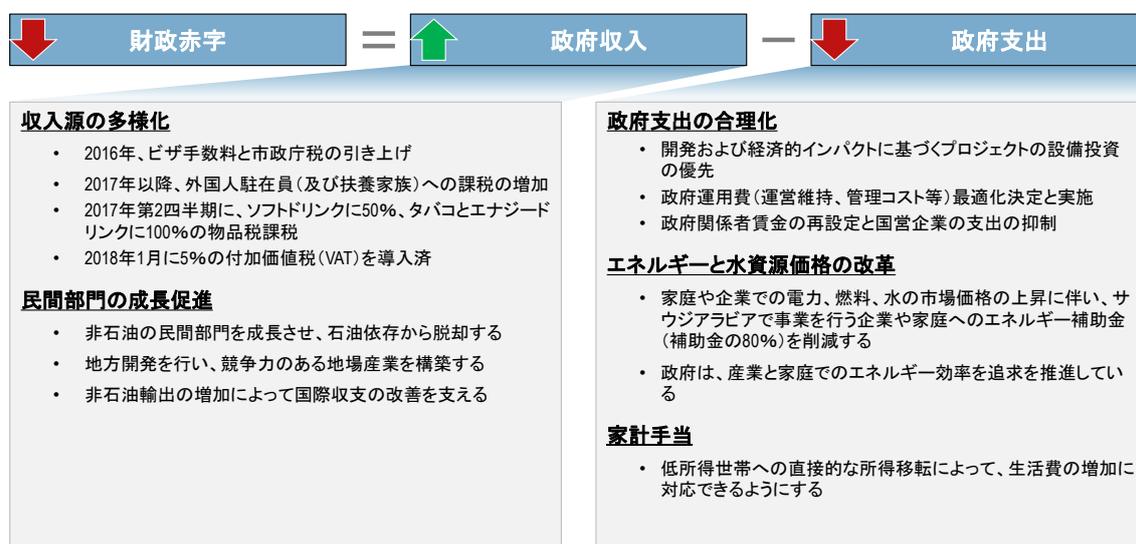
取り組み	2016-2020 年予算 (100 万米ドル)
農業サービス提供の改革	924.75
農業市場へのタイムリーな情報提供や早期警戒システムなどを含む、戦略的な食料確保と貯蔵を目的とした効率的なプログラム	779.32
ヤシオオオサゾウムシの防除プログラム	476.89
獣医疾患の調査・管理プログラム	405.49
農業市場(青果、畜産、水産)の開発と管理を行う会社の設立	345.50
サウジ南西における農業台地の再生と雨水採集技術の適用	183.91
零細農家や生産者にマーケティング支援を提供するセンターの設立	179.25
果物、野菜、畑作物の生産性を向上させる農業慣行の開発	134.33
牧草地、森林の持続可能な発展とその投資の組織化と砂漠化への対処	62.21
獣医ワクチンの開発および生産センター	50.70
家畜の国家センターの設計と建設	45.75
水産業向上の応用研究支援	13.50
デーツ(ナツメヤシの果実)取引の輸送発達	13.24
食料安全のための組織、政策及び規制の効率的な設計、調整及び管理	11.07
国際基準、事例研究及びベストプラクティスに基づいた食品廃棄物削減のための国家プログラム	6.66
漁師を支援する沿岸地域の漁業施設の開発と改修	6.48
農業参加率を増やすための農業協同組合のパフォーマンスの支援と改善	5.40
害虫防除用抗生物質の地方生産センター	3.88
サウジアラビアの農業投資のための国家戦略と実行計画	1.96
省庁の使命を実行する法律の発布と変更	1.35
農業分野における下水処理水の活用	0.02
土地所有物の記録、調査及び文書化とその所有権と地図の作成	-
農業目的でのダム水の利用	-

出所) Saudi Vision 2030 公式資料より NRI 作成

ビジョン実現プログラムのうち、Fiscal Balance Program (財政均衡プログラム) は、2020 年までに財政赤字をゼロとすることを目標としている。

この目標を実現するため、政府のコスト削減策と同時に収入源を増やす政策も規定されており、この一環でエナジードリンク、ソフトドリンク等一部の食品への新たな課税が明記され、実際に徴税が開始されている。

図表 92 財政均衡プログラム概要



出所) Saudi Vision 2030 公式資料より NRI 作成

アブドラ前国王が 2009 年に開始した、「King Abdullah’s Initiative for Saudi Agricultural Investment Abroad」（「アブドラ国王海外農業投資イニシアチブ」）では、海外の農地の買収を通じて、サウジ人の食料安全保障を強化することを目指し、民間セクターによる海外の農地への投資を資金や物流で支援する政策を行っている。

本政策を受け、複数の大手財閥が海外の農地への投資を行っているが、実績は非公表である。⁸

⁸ 海外農地買収に対する批判も高まり、複数の計画が縮小または遅延したという情報もある。たとえば、Kieran Cooke ”Saudi agricultural investment abroad - land grab or benign strategy?” (<http://www.middleeasteye.net/columns/saudi-agricultural-investment-abroad-land-grab-or-benign-investment-strategy-218650423>)

図表 93 アブドラ国王海外農業投資イニシアチブ

ビジョン	<ul style="list-style-type: none"> ・ サウジアラビア人の食料安全保障の維持 ・ 食料安全保障を強化する観点で、サウジアラビア国外への民間セクターによる農業投資を促進することにより世界の食料生産の増加に寄与し、農業分野での国際投資の見本となる
戦略	<ul style="list-style-type: none"> ・ サウジアラビアの投資家が農業分野で海外投資を行う手段を資金、クレジット、物流等によって提供する ・ 対外直接投資が主要な投資形態だが、ジョイントベンチャーや契約農業、契約栽培農家などの形態も取り組まれている ・ サウジアラビアの食料需要を満たし、将来の食料危機を回避するために基本的な食料品の戦略的備蓄を確立する
指針	<ul style="list-style-type: none"> ・ サウジの民間部門を、海外農地を取得する主な投資家とする ・ 投資家は耕作作物を選ぶ権利を有する ・ 投資家は生産物をサウジに輸出する権利を有する(生産物の一部は現地市場に残る可能性有) ・ 主食食品や長期投資が投資目標に定められている
焦点	<ul style="list-style-type: none"> ・ ターゲット国: スーダン、エジプト、エチオピア、トルコ、ウクライナ、カザフスタン、フィリピン、ベトナム、ブラジルなど ・ ターゲット食料: 小麦、大麦、トウモロコシ、ソルガム、大豆、米、砂糖、油料種子、緑飼料、家畜、魚介類及びその他の主食

出所) 環境・水・農業省資料より NRI 作成

本イニシアチブを公的に推進する主体として、2009年に公的投資基金(PIF)が30億SAR(約900億円)を出資して公的投資ファンド”Saudi Arabia Agriculture & Livestock Investment Company”(以下、SALIC)を設立した。同ファンドは、直接海外の農地や農業ビジネスに対して投資を行っており、国王が変わった現在も活発に活動している。最近の投資活動例は下記のとおりである。

- ・ ロシア・サウジ間のビジネスイベント”Russian-Saudi Business Investment Forum”で、ロシアの農業企業 RZ Agro Holding への出資に関する覚書に署名。(2017年)⁹
- ・ UAEの公的農業企業 Al Dahra Co.と共同で、黒海周辺の農地・物流・倉庫を買収(2017年)¹⁰
- ・ カナダからの農産品輸出に役立てるため、バンクーバー港の開発に出資。(2016年)¹¹
- ・ 米国の農業企業である Bunge Ltd との合弁会社が、Canadian Wheat Board(現 G3 Global Grain Group、農業マーケティング会社)の株式50.1%を買収(2015年)¹²

⁹ Sitema 社プレスリリースによる。

¹⁰ <http://www.arabnews.com/node/1175961/business-economy>

¹¹ <https://www.argaam.com/en/article/articledetail/id/449311>

¹² 同上

5-2-2 食品の輸入に関わる規制

(通関手続き)

サウジアラビアへの食品輸入時、通関手続きに5つのステップがある。

ここでのイスラム国家ならではの特徴は、①通常は外国食品加工事務所の施設登録は任意だが、屠畜場のみ登録が義務化されており、SFDAによる立ち入り検査を受ける必要がある点、②国境検査所において行われるラボでの検査において、アルコール含有の有無について検査される点である。

図表 94 通関手続きの5つのステップ

	自主施設登録 (外国食品加工事業所向け)	輸入食品の 事前登録要件	輸入手続き	国境検査所(BIPs) の検査手続き	通関手続き
詳細	<ul style="list-style-type: none"> サウジアラビアに食品を輸出する外国企業の自主登録(義務ではない)。登録締め切りもない。 	<ul style="list-style-type: none"> すべての食品の事前登録と電子通関が必須条件。 地元の輸入業者または代理店を通じ手続きを行う必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 輸入業者の商業登記には、事業内容に食品輸入を含まなければならぬ。 輸入業者はSFDAの電子アカウントを持ち、全ての輸入食品を登録する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 輸入食品管理部門(EDIFC)の検査官は、次の4段階の検証プロセスを必ず実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 通関には、商業送り状、衛生証明書、およびその他の食品商品別に必要な書類が添付されている必要がある。 通常10日以内に終了する。
プロセス	<p>登録手続き:</p> <ul style="list-style-type: none"> 9つのステップで構成されている。全てオンライン上で手続きは完了する。 屠畜場は例外で追加の登録条件としてサウジアラビア食品医療局(SFDA)による立ち入り検査と認可が必要。 	<p>登録手続き:</p> <ul style="list-style-type: none"> 各輸入業者と代理店はSFDAの輸入食品管理部門(EDIFC)の電子アカウント(E-Account)を開設しユーザーネームとパスワードを設定する必要がある。 	<p>必要書類の確認:</p> <ul style="list-style-type: none"> 輸入業者が属する商工会議所によって認証された請求書原本 一般法に従ってSFDAが発行した証明書 	<p>4段階の検証プロセス:</p> <ol style="list-style-type: none"> 書類審査 ID審査 現物検査 ラボでの検査: 食品検査官が行う 	<p>通関プロセス:</p> <ul style="list-style-type: none"> 通関当局は商業送り状をCIF(運賃保険料込み条件)で発行する必要がある。 FOB(本船渡条件)では、輸入者は、サウジの入港口で税関に請求書を提出し、運賃および保険料を支払う。

CIF* - Cost, Insurance and freight FOB** - Free on Board

出所) USDA Report on Saudi Imports より NRI 作成

(輸入証明書)

サウジアラビアの税関に対し、製品登録並びに商品別に各種証明書の提出が必要である。イスラム国家であることから、第三者機関によるハラール証明等の提出義務があると誤解されるケースが多いものの、実際には一部を除いて不要である。必要となるのは食肉を輸入する場合であり、このケースでは、ハラール屠畜証明書が必要となる。

図表 95 輸入時に必要となる証明書

証明書	適用項目	標準規格	関係機関
製品登録 証明書	<ul style="list-style-type: none"> サウジ向け食品輸出外国企業の登録: <ul style="list-style-type: none"> ✓ 会社、本社、生産情報、食品安全衛生管理システムに関する外国企業の自主登録 食品および飼料登録: <ul style="list-style-type: none"> ✓ すべての輸入食品・飼料について電子通関が必須 ハーブ食品の登録とライセンスの手続き: <ul style="list-style-type: none"> ✓ ハーブの調製、健康食品、サプリ食品はサウジで販売するためのライセンスを得るための登録とテストを受ける必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> SA9019 	<ul style="list-style-type: none"> SFDA Ministry of Health Ministry of Commerce and Industry General Directorate of Medical and Pharmaceutical Licenses
衛生証明書	<ul style="list-style-type: none"> 肉(生鮮/冷凍)および家禽(商品): <ul style="list-style-type: none"> ✓ 屠畜日、種類、平均年齢、屠畜前12時間以内の検査、「病気なし」免許、血統証明書 ✓ HACCPに基づき品質管理がなされている屠畜場の証明書 青果物: <ul style="list-style-type: none"> ✓ 害虫・昆虫の混入、病気、放射線による汚染がないこと、 野菜(植物)原材料(および製品): <ul style="list-style-type: none"> ✓ 遺伝子組み換え食品の場合、食用・飼料用消費が認められている原産国の政府機関から植物検疫証明書が発行されていること 	<ul style="list-style-type: none"> Ministerial decree(省令) number 2436 GSO 9:2013 	<ul style="list-style-type: none"> 原産国 SFDA/MEWA(環境水産農業省) 輸入国
ハラール 屠畜証明書	<ul style="list-style-type: none"> 家畜および家禽製品: <ul style="list-style-type: none"> ✓ 年齢および部位のガイドラインに基づく。雄の肉のみ許可 チーズ(および製品):動物由来のレンネット(チーズの凝固材)が含まれている場合に必要 	<ul style="list-style-type: none"> SSA 630/1990 イスラム法 	<ul style="list-style-type: none"> 輸出国のサウジ大使館認定のイスラム・センター
動物飼料/ ホルモンフリー	<ul style="list-style-type: none"> 肉(生鮮/冷凍)および家禽(商品) 	<ul style="list-style-type: none"> 2001 Meat import regulations 	<ul style="list-style-type: none"> SFDA MOCI*

* MOC - Ministry of Commerce and Investment(商業投資省)

出所) USDA FAS Gain Report より NRI 作成

(関税)

サウジアラビアは GCC 共通の外部関税 5%を、食品を含む輸入製品のほとんどに適用している。共通関税の例外は以下の通り。

- 補助輸入関税：GCC が承認した例外として、サウジアラビアの 758 品目が輸入免税されている
- 追加輸入関税：国内産業保護のため、特定の製品の輸入関税を引き上げており、食品または農産物の現地生産が自給率水準を超える場合、最大輸入関税率は 40%の従価税が適用される

図表 96 サウジアラビアの食品の輸入関税

Sr. No.	食品項目	輸入関税	理由
1.	一般的な食品	5%	GCC共通関税
2.	生鮮/乾燥加工ナツメヤシ	40%	地域産業支援
3.	小麦粉	25%	地域産業支援
4.	家禽輸入	20%以上または1SAR(US\$ 0.27)/1kg	
5.	ソフトドリンク	50%	健康に有害
6.	シガレット、タバコ製品、エネルギー飲料	100%	健康に有害
7.	砂糖、紅茶、米、小麦、コーヒー豆と肉	0%	
8.	米、ベビーミルク、家畜飼料 (大豆油かす、飼料トウモロコシ、大麦、コメ、ソルガム、パーム核ミール、小麦ふすま、アルファルファ、干し草、サウキビ糖蜜、米ぬか、ヒマワリ粉、オートムギ、カノーラミール、魚粉、アルファルファペレット、大豆殻、ヒマワリ殻、米ぬか)	補助優遇	

出所) サウジアラビア政府ウェブサイトより NRI 作成

(梱包・表記条件)

輸入品にはアラビア語表記、特殊な日付印など特別な梱包手順および表記が必要である。その他ガイドラインと対応する規格番号は下表のとおりである。

図表 97 輸入品の梱包および表記条件

条件の種類		内容	標準規格
梱包条件	梱包材料	<ul style="list-style-type: none"> 食品と接触するため食品用のもの 食品の状態を維持できるもの 外部の薬剤/水分に対して不浸透性のもの 	<ul style="list-style-type: none"> GSO 839/1997 GSO 1863/2013 SSA 1149/1997 SASO 1301/1997 SASO 2173/2003
	形状 / 大きさ	<ul style="list-style-type: none"> 輸送/出荷時に外観が変わらないもの 環境条件を配慮し機械災害を避け得るもの 製薬用の形状ではないもの 	
	寿命	<ul style="list-style-type: none"> 包装物の特性を維持し、それが望ましくない悪臭、風味および味から保護するもの 	
表記条件	一般	<ul style="list-style-type: none"> 種名、製造者の詳細、イスラム法に準拠する名前とフレーズ 全ての食品項目への詳細表記 	<ul style="list-style-type: none"> GSO 9/2013 GSO 150/2007 SASO 457/2005
	言語	<ul style="list-style-type: none"> アラビア語表記もしくはアラビア語翻訳の付属 アラビア語のラベルは英語表記に置き換え可能 	
	日付印	<ul style="list-style-type: none"> 表記日の情報、適切な表記形式、適切な表記用インク 製造日や使用期限に関する日付情報の表記規則 	

出所) USDA FAS Gain Report より NRI 作成

(食品輸入に関する規制)

サウジアラビアの食品輸入に関する規制の概要は下表の通りである。イスラム国家であることから、着色料に関して「アルコールフリー」であることを表示する義務がある点等が特徴である。

図表 98 食品輸入に関する規制

	原材料 / 製品項目	規制内容	標準規格
1.	栄養製品	本質的特徴や栄養素情報などの説明を付すこと。	GS No. 654/1996
2.	遺伝子組み換え食品	遺伝子組み換え動物を含む製品は禁止。 遺伝子組み換え植物を含む製品については、特別な基準に準拠した表示をする必要がある。	GS No. 2141/2011
3.	着色料	必須情報 - 一般名、カラーインデックス番号、溶剤または希釈剤名、製造日および有効期限 (日 - 月 - 年)、染料濃度 「アルコールフリー」の記述 「食料品への着色料使用」の記述	GS No. 285/1999
4.	香料	一般名とコード番号	GS No. 707/1997
5.	保存料	一般名もしくは EEC 番号 「食料品への保存料使用」の記述	GS No. 356/1994SSA No. 73/1978
6.	甘味料	甘味料名もしくは INS 番号 甘味料の使用量 mg/リットル表記	GS No. 995/1998
7.	酸化防止剤	一般名もしくは EEC 番号 「食料品使用を許可された酸化防止剤」の記述	GS No. 357/1994
8.	食料油脂に含まれる食品添加物	許可添加物の指定やその品質、ラベルの監督	SSA No. 106/1978 GSO No. 2233/2012
9.	糖尿病患者のための特別配合食品	「特定の食食用もしくは糖尿病用食品」の記述	-
10.	乳化剤、安定剤および増粘剤	ラベル要件: 一般名もしくは EEC 番号	GS No. 381/1994
11.	飼料用の梱包前食品	ラベルに「人間の食用に適さない」もしくは「動物飼料用」の記述	GSO No. 9/2013
12.	アフラトキシン	食品および動物飼料への許容量の上限規制	GS No. 841/1997
13.	放射能	食品への許容量規制	GS No. 988/1998
14.	農薬およびその他の汚染物質	使用許可のある農薬のリストと食品、農薬物及び動物飼料に含まれる残留農薬量の上限 食品内の残留農薬制限に対する取り扱い承認手順 食品内の残留農薬基準値に対する必須遵守	GS No. 382/1994 GS No. 422/1994 GS No. 357/1994 GS No. 841 GS No. 357 SFDA Guidance No. 3965
15.	ベビーフード	年齢制限、表示仕様、成分指示	SSA No. 676/1992

GSO – GCC Standardization Organization

SSA – Saudi Arabian Standards

SASO – Saudi Arabian Standards Organization

出所) USDA FAS Gain Report より NRI 作成

5-2-3 食品の輸出に関わる規制と政府支援

サウジアラビアの輸出禁止・規制製品は下表のとおりである。食料安全保障に関わる小麦や家畜等は輸出禁止となっている

図表 99 輸出規制対象製品

	カテゴリー	規制	制限品目の輸出許可発行機関
1.	小麦	制限	サイロ・製粉公団
2.	農業機械および装置	制限	農業開発基金
3.	すべての種類の馬（雄、雌とも）	制限	Equestrian Club
4.	大豆、金トウモロコシ、白トウモロコシ、小麦粉、牛乳ベースのベビーフード	制限	財務省
5.	家畜	禁止	-
6.	すべてのベビーミルク	禁止	-
7.	大麦、スーダンソルガムなどの動物飼料	禁止	-
8.	黄色トウモロコシや大豆などの家禽飼料	禁止	-
9.	グリーン飼料と乾草	禁止	-

出所) SEDA, “How to Export”より NRI 作成

サウジアラビアから輸出する際に必要となる輸出証明書は、下表のとおりである。

図表 100 輸出証明書

	書類	発行元	提出先
1.	原産地証明書	商業投資省	サウジアラビア税関、外国税関
2.	商業送り状	自社	サウジアラビア税関、外国税関
3.	アラビア語梱包明細書	自社	サウジアラビア税関、アラブ諸国税関
4.	英語梱包明細書	自社	外国税関
5.	適合証明書	第三者/SASO	外国税関
5.	賞味期限証明書	SFDA	サウジアラビア税関、外国税関
6.	自由販売証明書	SFDA	外国税関
7.	獣医証明書（家畜& 動物製品）	環境・水・農業省	サウジアラビア税関、外国税関
8.	衛生証明書	環境・水・農業省	外国税関

出所) SEDA, “How to Export” より NRI 作成

サウジアラビアからの輸出を支援する政府機関として、輸出開発庁とサウジ輸出プログラムの2機関が存在する。

輸出開発庁（Saudi Export Development Authority : SEDA）は、輸出体制構築のために政府が設立した独立機関である。同庁は、輸出業者間の調整・取りまとめを行い、他国との間で締結された自由貿易協定の開始を通じて、新市場を開拓することを目的としている。また、公共部門と民間部門間に複数の戦略的パートナーシップを構築することを目指している。

図表 101 輸出開発庁 (SEDA) の戦略的テーマ

	<p>中小企業の輸出準備の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> 輸出業者に国際戦略とマーケティング、輸出物流、輸出政策と手続き、国際的な輸出規制に関連する一連の研修プログラム、ワークショップ、ツールキットを供給することで、彼らの内部能力を向上させる
	<p>経済システムの効率化と国際市場へのアクセスの提唱</p> <ul style="list-style-type: none"> 関連する政府機関と協力して、新しい(または既存の)国家政策と戦略を開発・改善し、輸出業者が直面している国内および国際的な輸出課題の解決に貢献することによって、輸出経済を開発する
	<p>輸出ビジネス準備機会の創出</p> <ul style="list-style-type: none"> 輸出業者の国際展示会や実業視察団への参加を支援することにより、国際市場でサウジ製品を宣伝する

出所) サウジアラビア政府文書より NRI 作成

サウジ輸出プログラム (Saudi Exports Program : SEP) は輸出業者の資金調達とリスク回避のための選択肢を提供することを目的に設立された。サウジアラビアの輸出業者に対し、低利融資や輸出保険を提供する。

図表 102 サウジ輸出プログラム (SEP) 概要

<p>ビジョン</p>	<ul style="list-style-type: none"> サウジ開発基金の下、このプログラムは、国家の輸出を促進し、国民所得の源泉の多様化に貢献することを目指している 輸出に伴うリスクに対処するために必要な資金調達と安全保障を支援する
<p>政策詳細</p>	<ul style="list-style-type: none"> 未払いリスクの90%をカバーし、回転信用状(リボ)の与信限度補償は以下に基づいて買い手業者の構成によって認められる <ul style="list-style-type: none"> 総取引高 - 回転信用状の与信限度補償は買い手業者の構成に基づき認められる 特定取引 - 取引の性質に基づいて、与信限度額は単一の買い手にのみ認められ、回転信用状はこの政策期間内なら利用可能である
<p>融資詳細</p>	<ul style="list-style-type: none"> 融資基準: <ul style="list-style-type: none"> 'Export Financing Assistance Process(輸出金融支援プロセス)からの承認 金融取引は10万リアルから サウジアラビア原産の輸出商品/サービス財は25%以上の付加価値付与 融資方法: <ul style="list-style-type: none"> 直接金融: ファンドと受益者間で融資合意を結ぶ。SEPは4つの方法で融資している: サプライヤーズ・クレジット、ローカル・バイクレ、バイヤーズ・クレジット、出荷前与信である 間接金融: SEPは、外国銀行、外国金融機関、および外国の大手輸入企業に有利な資金調達を行う サービス業の資金調達と主要契約の締結: SEPは、サウジ国外でサービスを提供し、プロジェクトを実行した経験のあるサウジアラビア企業に融資(最大100%)する 保証: 輸出品の支払いの踏み倒しリスクを減らす輸出信用保険と保証サービス

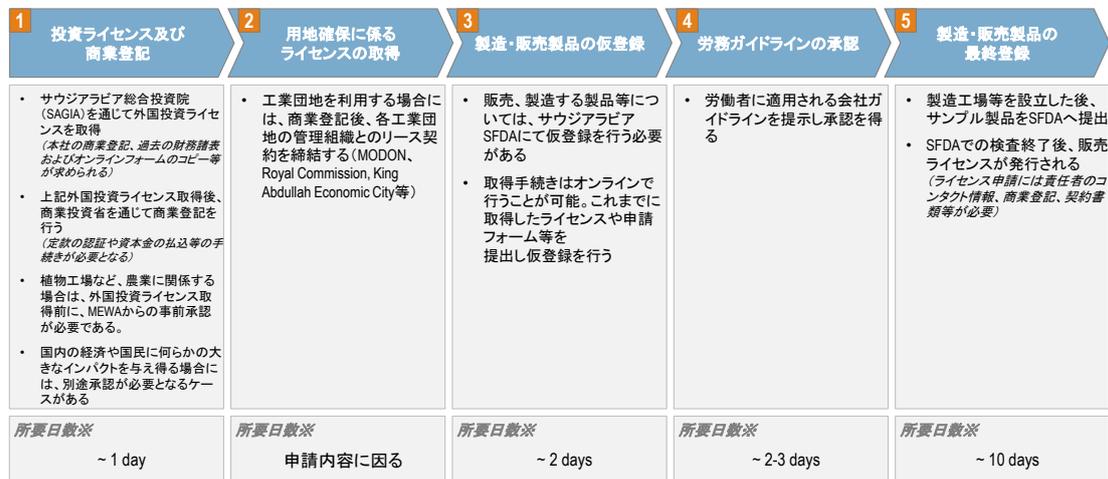
出所) SEDA, "How to Export" より NRI 作成

5-2-4 投資規制と政府支援

サウジアラビアにおいて外国企業が直接投資を行うためには、以下の手続きを行う必要がある。農業事業（植物工場を含む）に投資を行う場合は、サウジアラビア総合投資院から投資ライセンスを取得する手続きに入る前に、環境・水・農業省から事前承認を得る必要がある¹³。

また、食品製造への投資の場合は、投資ライセンス取得及び商業登記完了後、SFDA との 手続きが必要であり、製造・販売製品の仮登録ならびに製造工場設立後、当該工場の生産品のサンプルを提出し、検査を受ける必要がある。

図表 103 ライセンス取得手続きの流れ（概要）



注1)ステップ1・2・4は、輸出入の場合は適用外となる。

注2)手順やリードタイムは、特別な食品(例えば、エネルギードリンク、栄養バーなど、人体への影響について議論の余地のある成分が含まれている可能性のある品目)を除いて、すべての食品で同一。特別な食品の場合は、成分の複雑さに応じて所要日数が変わることがある

※SFDA担当者へのインタビュー結果に基づく

出所) SFDA、サウジアラビア総合投資院等インタビュー結果より NRI 作成

サウジアラビアでは、従来は小売業・卸売業の外国資本による投資は上限 75%に制限されていたが、2015 年より下表の条件を満たせば外国資本による 100%出資が可能となった。外国企業にとって、直接投資の際のスキームの選択肢が増えたことは朗報であるものの、初期資本金の金額が大きい、販売製品の一部は現地生産が必要等条件は厳しく、現状外国資本による 100%出資が実現したものは 3 件に留まる。

¹³ この点について、環境・水・農業省インタビューにより具体的な条件の確認を試みた が、外国資本による申請事例が少ない模様であり、案件毎に審査を行うこと以外は確認できなかった。

図表 104 外国資本による小売業・卸売業への100%出資の許可条件

将来義務	<ul style="list-style-type: none"> • 非サウジ企業は労働社会発展省(Ministry of Labour and Social Development)が規定するサウジ人比率を達成し、サウジ人が最初の五年間で重要な立場を得ること、そして彼らの継続雇用を可能にする計画を策定、実行しなければならない • 非サウジ企業は、サウジアラビア総合投資院からライセンスを取得した日から、最初の5年間にわたり、初期資本金3000万リヤルを含め、2億リヤル(5330万USD)以上の投資を約束しなければならない • 非サウジ企業は、最初の5年間に以下の条件の1つ以上を満たす必要がある <ul style="list-style-type: none"> ○ 販売製品の30%はサウジアラビアで製造する必要がある ○ 総売上高の5%以上をサウジアラビアでの研究開発費に投資する ○ サウジアラビアに物流施設とアフターサポートセンターを設立する
その他	<ul style="list-style-type: none"> • ライセンス企業は、現金資本を最低3000万リヤル(800万ドル)有する必要がある • 非サウジ企業は、少なくとも3つの国際市場で事業を行う必要がある • 法人は、有限責任会社または外国企業の支店として設立することができる • 毎年最低30%のサウジ人社員が訓練を受ける必要がある

出所) サウジアラビア総合投資院インタビューより NRI 作成

政府支援の観点では、サウジアラビアの農業向けに低利融資を行う農業開発基金(ADF)が、外国企業がサウジアラビアで農業ビジネスに取り組む際に資金援助源となりうる唯一の制度である。活用条件・手続き等は以下の通りである。¹⁴

- 融資条件 – サウジアラビア人またはサウジアラビア現地で登録された企業。外資系企業は、現地企業と提携することにより ADF からの融資を申請することができる。
- 注力分野 – ADF は食品および農業関連事業のサブセクターにも資金援助しているが、主に家禽(養鶏)、施設農業技術、水産業、その他ハイテク・プロジェクトなどに重点を置いている。
- 手順 – ADF は以下の手順で融資する。
 - ① サウジアラビアに企業を登記し、環境・水・農業省やサウジアラビア総合投資院等から必要な認可とライセンスを取得する。
 - ② ライセンス、事業計画書、設計書、商業登記、過去3年間の財務諸表、現地提携企業に関する情報、担保情報等を ADF に提出する。
 - ③ ADF が対象企業のデュー・デリジェンスを行う。
- 融資額 – 通常、融資額は最大で総プロジェクト費用の50%だが、ハイテク・プロジェクトの場合、融資額は最大で総プロジェクト費用の70%に上る。
- 金利 – 固定金利2%が管理費および年間監査費として徴収される。

¹⁴ ADF インタビューによる。

5-2-5 ハラル規制に関するまとめ

ここまで、輸入、投資規制の中でハラル規制についても触れたものの、厳格なイスラム教国であるサウジアラビアの特徴的な規制であるため、改めてここで総括する。

(ハラル基準の規定)

サウジアラビアにおける食品のハラル基準は、GSO が規定する以下の基準に準拠する。

- (1) GSO 993:2015 “Animal Slaughtering Requirements According to Islamic law”
(イスラム法に基づく動物の屠畜に関する要求事項)
- (2) GSO 2055-1:2015 “Halal Food - Part 1 - General Requirement”
(ハラル食品－第1部・一般要求事項)

(1)では、屠殺対象動物はイスラム教徒が食することを禁じられていない動物(豚のほか、犬、ロバ、象、ライオン等の肉食の動物等も、禁止であることが明記されている)でなければならず、屠殺時にはアッラーの名を唱える必要があること、頸動脈を正面側から切断することにより屠殺すること(頭部の殴打や窒息死等の方法は禁止)等が規定されている。

(2)には、アルコールを始めとする、禁止された(ハラルでない)食品のリストが掲載されており、また、食品の受入れ、加工、パッキング、ラベル貼付、輸送、保管、陳列、ハラル食品の提供等のハラル食品の一連の工程では、イスラム法のルールに基づいて進められる必要があること等が規定されている。例えば、ハラル食品でない動物や食品を加工した器具・設備とハラル食品の加工に用いる器具・設備は完全に分ける必要があること等が規定されている。

(食肉の輸入)

食肉については、ハラル規制に準じた屠畜・加工が必要であり、SFDA に登録された屠畜場からのみ輸入が可能である。屠殺場がハラル規制に準じているかの認証は、ハラル認証機関としての認定を受けた専門機関が行うものの、SFDA への登録のプロセスにおいて、SFDA 自身も現場視察を行う¹⁵。

国内の養鶏場や牛舎で使用される飼料も、ハラル規制に対応する必要がある。

なお、魚介類は食肉には該当せず、ハラル規制の対象外だが、国内の養殖場で使用する飼料を輸入する場合、ハラル規制に対応している必要がある。

¹⁵ SFDA インタビューによる。

(加工食品)

国内の食品工場は、SFDA がサイトならびに商品を検査し、認証する必要があり、アルコールと食肉が成分として混入しうる商品については、検査の過程で、ハラルの観点での検査が行われる。

加工食品の輸入の際は、成分にアルコールが混入する可能性がある商品、食肉を含む商品は、ハラルの観点での検査が行われる。第3国でのハラル認証は不要であり、取得していたとしても、SFDA が検査を行う。

第6章 サウジアラビアにおける日本企業の展開状況

6-1 サウジアラビアへの日本企業の展開状況

農業・水産業、食品輸入、レストラン等の事業をサウジアラビアで展開する日本企業・日本人は極めて限られている。

図表 105 日本企業（または人）のサウジアラビアでの展開状況

種類	現状
日本食レストラン	<ul style="list-style-type: none"> 日本食レストランはサウジアラビア国内の主要都市を中心に約 30 店舗ほど存在すると推測されるものの、日本企業が運営している店はない。 現地日本食レストラン例： <ul style="list-style-type: none"> ✓ リヤド: Yokari*, Nozomi, Tokyo**, Kanpai, Benihana, Sushiyoshi, Furusato, Shogun, etc. ✓ ジェッダ: Sakura, Hokkaido, Sushiyoshi, Benihana, etc. ✓ ダンマン・アルコバル: Tokyo**, Asahi, Sushiyoshi, Oh! Sushi, etc. * 日本人シェフがいる店 ** 以前日本企業が運営していたレストラン。現在は撤退し、現地のオーナーが運営している。
食品チェーン	<ul style="list-style-type: none"> 日本のシュークリームチェーンである「ビヤードパパ」(beard papa's) の店舗が 2012 年にリヤドにオープンしたが、2017 年に撤退した。 日本のチーズケーキのチェーンである「テツおじさんの店」(Uncle Tetsu) が最近アルコバルにオープンした。オープン当初は長蛇の列ができており、現在もサウジ人に人気である。
日本ブランドの食品	<ul style="list-style-type: none"> ハイパーマーケット・スーパーマーケットで販売されている製品例 豆腐 (ハウス食品製、森永製。いずれも米国産)、醤油 (キッコーマン製、製造工程でアルコールを発生しないもの。米国産)、スナック菓子 (カルビーかっぱえびせん)、日本ブランドのツナ缶 ("Geisha"ブランド、タイ産)、ビタミンドリンク (ポッカ製) アジア食材店で販売されている製品例 冷凍いくら (日本産)、冷凍しめ鯖 (日本産)、冷凍かにかま (日本産)、日本ブランドのとんかつソース (日本産)、うどん・そばの乾麺 (韓国産)、日本米 (米国産)。これらの食材は、アジア食材店が手配しており、日本企業が代理店等を通じ自ら輸入しているものではない。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 前川製作所は、現地代理店を通じ、食品産業等で使用される業務用大型冷凍機等を輸入販売している。 双日は National Aquaculture Company のエビの養殖を支援し、一部日本に輸入している。

出所) 企業インタビュー、現地店舗調査より NRI 作成

6-2 サウジアラビアへの事業展開における課題

サウジアラビアに事業展開中またはその検討を行っている企業等へのインタビュー結果から、事業展開における主な課題は下記3点に集約される模様である。

①SFDA 認証

特に特定の機能を謳う食品の輸入に際しては、SFDA が一般の食品とは異なる基準（医薬品をベースにしている模様）で判断を行うため、登録手続きに時間がかかり、各社とも苦労している模様である。さらに、投資を伴う事業展開の場合は、サウジアラビア総合投資院による投資ライセンス取得（農業・水産業の場合は環境・水・農業省による事前許可も必要）、ならびに労働ビザの取得手続きについても、一般的に時間がかかる手続きと認識されている。

②現地パートナー

農業・食品分野のビジネスを日本企業が単独で実施するには難易度が高く、現地パートナー（輸入販売であれば代理店、現地製造・栽培等なら技術供与相手か合弁パートナー）が多くの場合必要となる。この現地パートナー選びが命運を分けると言っても過言ではないため、地場企業とのネットワークを有する支援者（両国の公的機関、商社、金融等）の助言や紹介支援も得ながら、慎重に選定したい。

現地代理店の場合は、十分な経験があり、適切な人脈や販路を持っているか、営業体制が十分か、財務状況が良好か、他の日本企業や海外企業とトラブルを起こしていないか等が評価指標として重要である。また、合弁パートナー等の場合は、上記の点に加えて、当該商品の栽培・製造の経験や体制が十分か、サウジアラビアの各種規制に照らし、コンプライアンス上問題がないか（例として、サウジ人雇用義務を満たしている企業か、スピード違反等の罰金をきちんと支払っているか¹⁶ 等のコンプライアンス面）等の視点も確認したい。

③国内市場の不景気

原油価格が以前より下がっており、また、上述の「サウジ・ビジョン 2030」の実現プログラムの1つである「財政均衡プログラム」が実行に移されており、物品税や付加価値税が導入された結果、国内の消費者市場が従来の勢いを失っている模様である。ただし、それでも、国民一人当たり所得が2万ドルを超える等、新興国の中では購買力が高い市場であることに変わりはない。原油価格も今後少しずつ上昇することが見込まれること、また、現在進められている経済の構造改革が進めば、市場の勢いは戻ってくるのではないかと。

¹⁶ 延滞がある場合、外国人の雇用に必要な労働ビザがタイムリーに発給されないケースがあり、想定以上に時間がかかるケースがある。

第7章 日本企業にとっての商機

7-1 サウジアラビア政府の日本への期待

現地調査で政府関係者から寄せられた、日本への期待は、下記のとおりである。植物工場や有機農業等の他、節水や再生水利用、山岳部での農業、害虫駆除等のテーマも挙げられた。

図表 106 農業分野におけるサウジアラビア政府の期待事項

サウジアラビア政府の期待 High Low	① 植物工場(水耕栽培やグリーンハウス等)
	○ これまでの農業地帯以外での農業促進が政府にとっての喫緊の課題
	○ サウジアラビア東部において、微量の塩分を含む地下水の農業用水としての直接活用に関する実証実験を実施中
	② 農業用水管理
	○ 農業の生産性向上の一つとして、節水や再利用水技術への関心が高い
③ 有機農業	
○ サウジアラビアは有機農業プロジェクトに重点を置いている。付随して、バイオ肥料需要の増加にも期待を示している →ドイツ国際協力公社(GIZ)は、サウジアラビアの有機農業計画の設計に積極的に関与	
④ 山岳部や棚田を活用した農業	
○ 山岳地帯を利用した農業への関心を示している	
○ 4地域で実証事業を開始すべく、実現に必要な技術要素等の研究・特定を行っている(農業用水供給システム等) →米国企業がMEWAに対し研究支援に対するオファーを行っている	
⑤ その他	
○ 農地の有効活用 - 小麦の国内生産停止に伴い発生する遊休農地等の有効活用に関する検討を実施中。政府は既に農地の一部をソーラー発電所に転換することを検討	
○ 害虫の駆除 - Red Bamboo Weevil (ゾウムシの一種)による被害の防止	
○ デーツ鮮度保持技術 - 完熟デーツ(ドライにする前)の鮮度保持技術	

出所) 環境・水・農業省等インタビューより NRI 作成

7-2 日本企業の商機

以下、机上調査・現地調査結果から総合的に判断し、日本企業が参画可能と思われる現地での商機について、3点挙げる。3点とは、植物工場(トマト、レタス等)、水産養殖、健康食品である。

7-2-1 植物工場(トマト、レタス等)

有望分野の第1は、植物工場、その中でもとりわけ、トマト並びにレタス等葉物野菜である。有望分野であることの根拠は、①政府や現地企業が注目している分野であり、海外からの技術導入が期待されていること、②現地で取引されている輸入野菜・水耕野菜の価格の高さである。

第1の点(政府・現地企業による期待)について、地下水の枯渇の危険性が認識されていることもあり、節水型の施設園芸や植物工場は、サウジアラビア政府が注力分野の1つとし

で挙げており、海外からの技術導入が期待されている¹⁷。第2章でも示したとおり、サウジアラビアで施設園芸／植物工場を運営する企業は少なく、殆どが外資企業によるものである。

サウジ側企業による関心も高く、下記の日本企業2社が、サウジアラビアで展開を検討しているところ、関心の高い現地企業と覚書を署名したり、コミュニケーションを継続したりしている。

①メビオール（フィルム農法－栽培品候補：トマト）

2017年3月に東京で開催された「日・サウジ・ビジョン2030ビジネスフォーラム」にて、現地企業との覚書に署名。現在はリヤドに実証棟を設置する準備を行っている。

②植物工場（閉鎖型－栽培品候補：レタス等葉物野菜）

2018年1月にリヤドで開催された「日・サウジ・ビジョン2030ビジネスフォーラム」にて、国内の植物工場運営企業大手が現地企業（パートナー候補）と対話を行っており、コミュニケーションが続いている。販路（小売業者、BtoB顧客）と運営体制・農業経験を有するパートナーと組めるかが、今後の課題となる。

第2の点（価格）について、日本式の植物工場での主要な生産品はトマト、レタス、イチゴである。サウジアラビアでのこれら製品の競合製品の販売価格は下表のとおりである。特に、輸入品のフルーツトマトやイチゴ、水耕栽培やオーガニックファーム産のレタスの値段は、日本の植物工場で生産した場合と比べて同程度かそれよりも高いことから、現地の安価な電力料金等を活用すれば、競争は可能と考えられる。

図表 107 トマトとレタスの販売価格

競合商品	販売店	価格
オランダ／モロッコ／レバノン産 フルーツトマト	ハイパーマーケット(リヤド市内)	900-1,000 円/kg
トルコ産トマト	アルコバール中央市場(東部州)	450 円/2kg
	ハイパーマーケット(リヤド市内)	300 円/kg
サウジ産トマト	アルコバール中央市場(東部州)	450-540 円/5kg
	ハイパーマーケット(リヤド市内)	180-270 円/kg
サウジ産水耕栽培レタス	ハイパーマーケット(リヤド市内)	210 円/1 玉
オーガニックファーム産レタス	ハイパーマーケット(リヤド市内)	390 円/1 玉
サウジ産レタス	アルコバール中央市場(東部州)	450 円/kg
ドイツ産レタス	ハイパーマーケット(リヤド市内)	1,500 円/1 玉
米国産／ドイツ産イチゴ	ハイパーマーケット(リヤド市内)	450 円/250g
		690 円/454g

出所) 現地調査により NRI 作成

¹⁷ 環境・水・農業省インタビュー。

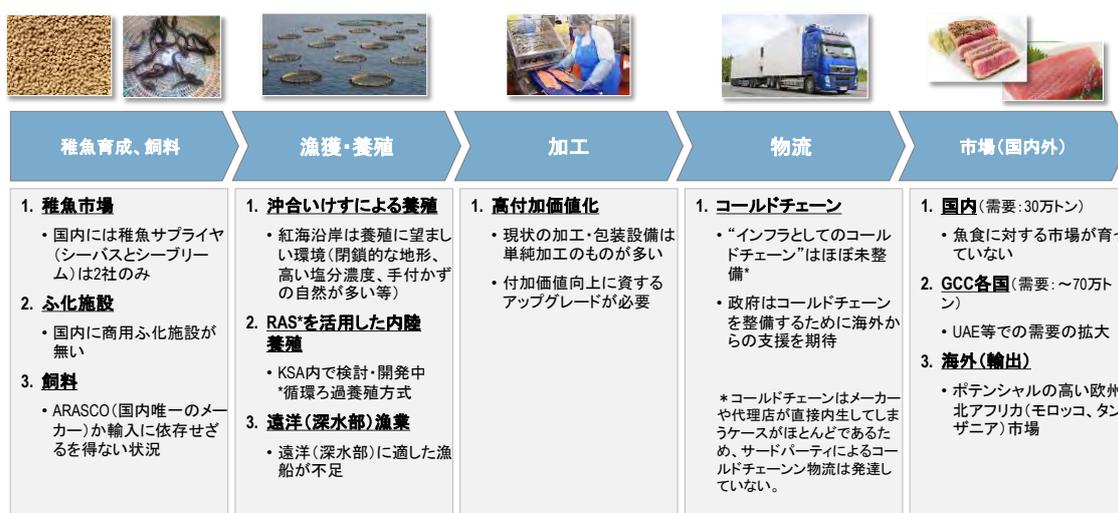
現地における植物工場の展開における課題は、サウジアラビア総合投資院、環境・水・農業省による認可手続き、並びに販路・運営である。卸売市場や小売市場、あるいは BtoB の大手顧客につなぐ能力があり、かつ農業の経験があり人材確保や運営を任せられる現地パートナーの存在が、本件の実現には必須である¹⁸。

7-2-2 水産養殖

2章で述べたとおり、水産養殖産業についても、サウジアラビア政府が注目する分野の一つである。人口増加により、2025年には魚介類への需要が約286,000トンに達すると予想される¹⁹。このため、環境・水・農業省は、今後15年間で60万トンの魚介類を生産するために養殖プロジェクトに106億ドル規模の投資を行っている。市場も養殖業者側も成熟しているとは言えない状況であり、有望分野の一つである。

水産養殖のバリューチェーンの各段階において、下記の特徴がある。

図表 108 水産養殖のバリューチェーンとサウジアラビアの特徴



出所) 環境・水・農業省等インタビューより NRI 作成

稚魚育成や飼料については、国内に競合となるサプライヤーが少ない分野である。特に飼料メーカーは地場企業1社による独占状態のため、需要が伸びているとはいえ、競争するのは厳しく、むしろ同社に技術導入を行い新しい飼料を開発するようなビジネスの方が現実的である可能性がある。

¹⁸ 国内植物工場関連企業複数者のインタビューによる。なお、法的には、外資による100%出資も可能である。

¹⁹ Innovasjon Norge, “Aquaculture in Saudi Arabia, February 2016”による予測。

養殖について、紅海は養殖に適した環境であり、国内の大手養殖業者が複数創業している。日本企業が単独で進出し、新規に後発で参入するのは、日本とは気候条件も異なることもあり、ハードルが高い。既存業者か、新規に養殖場を立ち上げようとする現地企業に対し技術導入による経営・運営に参画することが、より現実的な選択肢と考えられる。現に、双日が National Aquaculture Group に技術導入を行い、養殖したエビの一部を日本に輸入している。

加工について、現状は単純な加工や包装設備、冷凍設備が中心であり、付加価値向上が望まれる。国内でも需要のある缶詰商品の生産等が候補になる一方、材料となる魚（市場に直接並ばないグレードのもの）を大量にかつ安定的に仕入れられるか、また、安く加工できるかがフィージビリティに大きな影響を与えるポイントとなる。この点、水産量が限られ、人件費も上がりつつあるサウジアラビアでの実施メリットは小さい可能性がある。

コールドチェーンについては、第 2 章で示したとおり、従来代理店やメーカーが自ら整備してしまうため、サードパーティーによるコールドチェーンが発達していない。一方で、大手代理店や加工食品メーカーは自身でコールドチェーンを整備していることから、サードパーティーが整備しても、大口の顧客をすぐに得られない可能性がある。むしろ、養殖場等に設備を納入する機会を得ることが現実的なビジネスチャンスと考えられる。たとえば、前川製作所は、地場の養殖業者に対し、業務用冷凍庫を納入した実績がある。

市場規模はバリューチェーン全体に関わるが、サウジアラビア国内は未発達で今後成長が見込まれるのに加え、周辺にはドバイ等大きな需要が望める市場が存在する。したがって、サウジアラビアを拠点に、周辺国に輸出するプランであれば、相応の規模を確保できる可能性がある。

以上、分野ごとに機会と課題を下表に整理した。いずれも単独の現地進出は難易度が高く、技術導入や機器納入が有望かつ比較的現実味のある選択肢と考えられる。

図表 109 水産養殖のバリューチェーン別事業機会・課題と現実味

分野	事業機会	課題	実現可能性	現実味のある代替案
稚魚・ふ化施設	地場企業による寡占状態、需要は伸びている	新規参入すれば地場の独占・寡占企業との競争になる	新規は△	既存企業への技術導入
飼料	地場企業による独占状態、需要は伸びている	新規参入すれば地場の独占企業との競争になる ハラール対応	新規は△	既存企業への技術導入
養殖	養殖に適した気候 需要増	既存業者との競争 日本との気候の違い 投資コストが大きい 病気リスク	新規・単独は△	現地パートナーへの技術導入なら可能性あり（日系企業の前例あり）
加工	需要増	材料となる安価な魚の仕入れ、人件費の高騰	水産量、人件費高騰の折、新規は△	既存の養殖場にラインを設ける際の技術導入、機器納入
コールドチェーン	未開発であり、政府が力を入れたい分野	大口顧客となるはずのメーカー・代理店大手が内生化してしまっている	サードパーティーは△	必要となる機器のメーカー・代理店への納入（日系企業の前例あり）

出所) NRI 分析

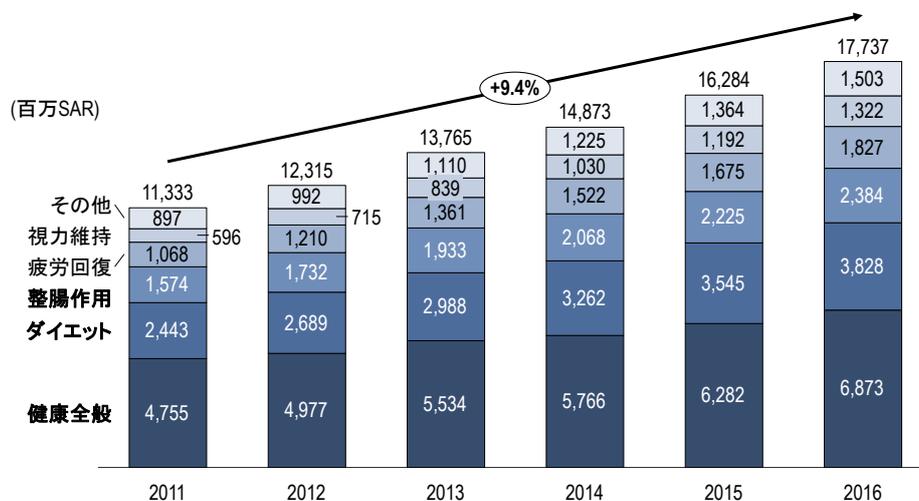
7-2-3 健康食品（肥満対策）

健康食品、その中でも、とりわけ肥満対策関連の商品が有望と考えられる根拠は、①消費者の関心が高まり、市場が急成長していること、②政府の目標にヘルスケアサービスの品質向上や肥満率の低下があり、政府による後押しが期待されること、③数は少ないながら、日本企業に具体的な動きがある点である。

第1の点（市場の成長性）について、第4章で示したとおり、健康・保健カテゴリーの食品の販売が、2011年から2016年にかけて、年率9%のペースで伸びている。また、地場の食品貿易業者によれば、チアシード等いわゆるハイパーフードの販売が、ここ数年毎年爆発的に増加している²⁰。また、当社が実施したアンケートでも、健康食品への関心が高いこと、その中でも、特に肥満防止（ダイエット）への関心が高いことが示された。

²⁰ 食品貿易業インタビュー、Foodex Saudi 2017にて

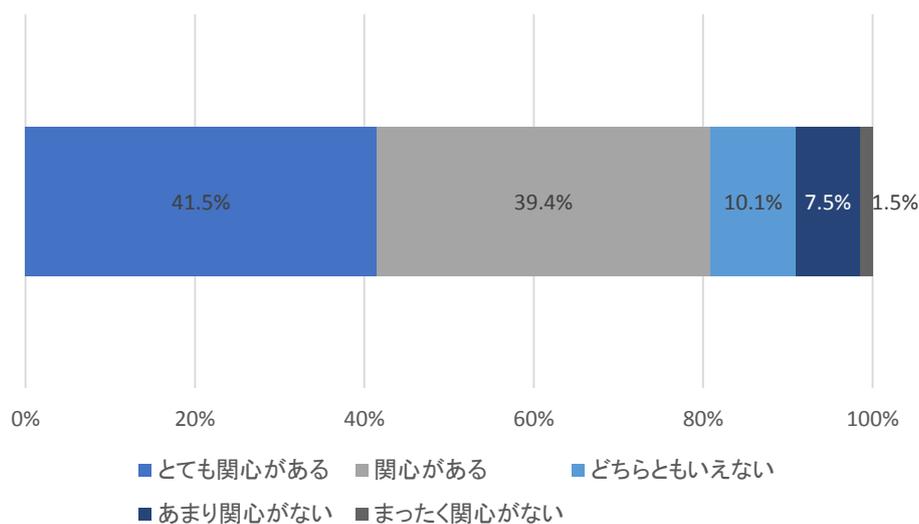
図表 110 健康食品の種類別売上 (再掲)



出所) Euromonitor International, “Health and Wellness in Saudi Arabia”, 2017 より NRI 作成

図表 111 健康食品へのサウジアラビア人の関心度 (再掲)

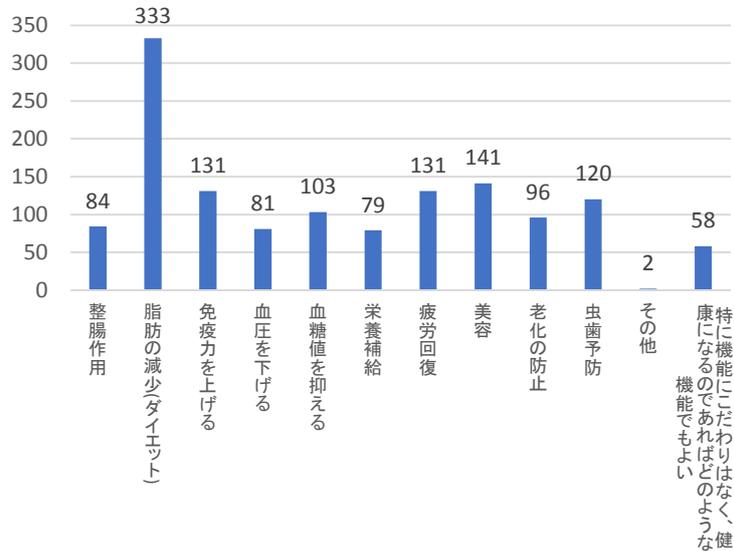
(Q2) あなたは自らの健康を高めたり、体の調子を整えたりするための食品 (健康食品) について興味・関心がありますか。[回答は 1 つのみ]



出所) NRI インターネットアンケート「健康食品に関する調査」

図表 112 関心のある健康食品の機能（再掲）

(Q6) あなたは、どのような機能を持つ健康食品に興味がありますか。[複数回答]



出所) NRI インターネットアンケート「健康食品に関する調査」

第2の点（政府の注力分野）について、サウジアラビア政府も、国民の健康意識の向上に力を入れており、政府の長期目標である「サウジ・ビジョン 2030」ならびにその関連プログラムにおいて、戦略目標として予防・治療を含むヘルスケアサービスの品質の向上、肥満率の低下が含まれている。

第3の点（日本企業の動き）について、この機を捉え、下記のとおり、一部の日本企業も具体的な取組みを開始している。分野は、いずれも肥満対策である。

①アミノアップ化学

地場の大学と共同で臨床実験を実施。今後地場の代理店を通じて販売展開の準備中である。²¹

②松谷化学工業

砂糖の代替品として使用することにより、抗肥満効果を発揮する稀少糖を原材料に用いたシロップの輸入販売に向けて準備中である。

代理店を設定し、2018年1月に覚書に署名した。

現地における健康食品の輸入販売における課題は、①SFDAによる輸入許可手続き、②適

²¹ 同社は「サウジアラビア農業・食品ビジネスセミナー」に登壇し、同社の取り組みについて紹介いただいた。第9章にて詳述する。

切な現地パートナーと提携できること並びに③マーケティングである。

①について、SFDA の認可手続きは大きく食品一般と医薬品とに分けられているが、健康食品、機能性食品については明示的な基準がなく、都度検討することとなっている。機能性を表示する場合、医薬品並みの情報提供と手続き期間が必要との情報があり、この点がハードルを上げている。

②について、サウジアラビアで商品の個人向け商品の輸入販売を行う場合、販売会社を外国企業が単独で設立することは原則できず、現地企業と合弁で現地法人を設立するか、代理店を設定することが必須となる。この現地パートナーの能力次第で、①の認可手続きや認可取得後の流通等がスムーズに進められるか否かに大きく影響することから、実力のあるパートナーを慎重に選ぶ必要がある。

③について、サウジアラビアの消費者や小売業は保守的であることから、マーケティングにおける工夫が欠かせない。健康食品・機能性食品の場合、通常のマーケティング活動（テストマーケティングや各種プロモーション）に加え、地場の大学との共同研究やその結果に対しサウジ政府からお墨付きをもらう等の権威付けを得ることが望ましい。

第8章 「サウジアラビア農業・食品ビジネスセミナー」の実施

8-1 実施概要

「サウジアラビア農業・食品ビジネスセミナー」を、2018年2月19日に東京で開催した。

本セミナーでは、サウジアラビアの農業・水産業・食品産業及び日本企業にとっての事業機会と課題をテーマとし、サウジアラビアの農業・水産業・食品産業の概況や市場に関する報告、並びにサウジアラビアで展開している日本企業等による講演・パネルディスカッションを行った。49社・機関より約80名の参加があった。

図表 113 「サウジアラビア農業・食品ビジネスセミナー」プログラム

日時	2月19日(月) 13:30~16:00
場所	株式会社野村総合研究所 本社 29階 大会議室 東京都千代田区大手町 1-9-2 大手町フィナンシャルシティ グランキューブ
テーマ	サウジアラビアにおける農業・水産業・食品産業及び日本企業にとっての事業機会と課題
セミナー 内容	<p>13:00 開場</p> <p>13:30 挨拶 農林水産省大臣官房審議官(国際) 池淵 雅和</p> <p>13:35 挨拶 サウジアラビア大使館 商務官 アルホウェイティ・マンスール</p> <p>13:40 NRI 発表 「サウジアラビアにおける農業・水産業・食品産業の概況及び市場について」 (内容)サウジアラビアの農業・水産業、食品市場、関連制度・規制等の調査(農林水産省委託事業)の結果を報告</p> <p>14:10 講師による講演 (計60分)</p> <p>1. サウジアラビアの「食」事情 (内容)サウジ人の日ごろの食事や文化、歴史について 講師:(株)Cultures Factory 執行役員 アルフレイフ・アブドルアジズ</p> <p>2. 日本企業のサウジアラビアにおける展開状況と公的支援 (内容)現地に展開中の日本企業(食品ならびにその他)、ならびに中東協力センターが提供する日本企業向け支援の内容を紹介 講師:(一財)中東協力センター ダンマン・ジャパンデスク代表 黒澤 一輝</p> <p>3. 日本企業のサウジアラビアにおける食品分野の事業展開事例 (内容)現地大学との「オリゴノール」のダイエット効果の共同臨床試験と今後の展開について 講師:(株)アミノアップ化学 代表取締役社長 藤井 創</p> <p>15:10 休憩</p> <p>15:20 パネルディスカッション(計40分) (内容)「サウジアラビアにおける農業・水産業・食品産業のビジネスチャンスと事業展開における課題」をテーマにパネリストによる議論、会場との意見交換 パネリスト:外部講師3名、NRI モデレーター:NRI</p> <p>16:00 終了</p>

出所) NRI 作成

図表 114 参加者の所属企業・機関の種類

✓	食品産業 – 缶詰、パスタ、稀少糖、パン製品、飲料、乳製品
✓	農業/植物工場事業者 – イチゴ、トマト、レタス
✓	食品包装 – プラスチックフィルム、缶
✓	石油・ガス
✓	商社
✓	銀行/投資会社
✓	コンサルティング会社、法律事務所
✓	公共機関

出所) NRI 作成

8-2 外部講師による講演内容

計 3 名の外部講師に講演いただいた。各講師の講演内容の要旨は下記のとおりである。

1. サウジアラビア「食」事情
(株)Cultures Factory 執行役員 アルフレイフ・アブドルアジズ氏
<ul style="list-style-type: none"> ✓ サウジアラビアの家庭料理を、地域別に紹介。一番のご馳走は、羊肉や鶏肉、魚介類を炊き込みご飯の上に乗せた料理であり、地域毎に食材や調理方法が異なる。アルコールが禁止されていることもあり、ジュースやスイーツの種類が充実している。 ✓ 遊牧民時代から受け継がれるバンケット・おもてなし精神、ラマダン等のイスラム独特の食習慣、遊牧民時代から続く食文化の紹介 ✓ 国内農産物として、デーツ、ざくろ、穀物、オリーブ等を紹介。主食の米はインド等の南アジア諸国や米国・エジプト・タイ等からの輸出に頼る。 ✓ サウジアラビアには地場系から欧米のチェーン等、多様なレストランが存在。日本食レストランも存在する。
2. 日本企業のサウジアラビアにおける展開状況と公的支援
(一財)中東協力センター ダンマン・ジャパンデスク代表 黒澤 一輝氏
<ul style="list-style-type: none"> ✓ 日本の食品の流通事情を紹介。サウジで見つけることの出来る日本の食品は欧米諸国と比較すると少ない。商品によっては、類似品よりも高価格だが、現地の消費者は日本メーカー製を信頼する傾向にある。 ✓ ダハラン(東部州)に最近オープンした日本のチーズケーキ店チェーンが人気。 ✓ 日本企業の現地進出状況について、中東協力センターが「日・サウジアラビア産業協カタスクフォース」の枠組で支援を行い投資が実現した事例、ならびに消費者向け製品を現地

で製造し、成功している事例としてユニ・チャームの事例を紹介。

- ✓ 中東協力センターが提供する支援内容を紹介。情報提供・助言、現地パートナー候補・法律事務所や会計事務所の紹介、政府関係機関へのアプローチ支援、現地調査支援の他、現地への具体的な投資検討に対しては金銭的補助も整備。

3. 日本企業のサウジアラビアにおける食品分野の事業展開事例

(株)アミノアップ化学 代表取締役社長 藤井 創氏

- ✓ 天然由来の生理活性物質の研究・開発、製造・販売を事業内容とする北海道発の研究開発ベンチャー。国内外で共同研究を積極的に進め、エビデンスに基づき展開するのが同社の戦略。
- ✓ サウジアラビアで展開しようとしている「オリゴノール」は、ライチ由来のポリフェノール。低分子化することで吸収性を高め、血流改善・美容・抗脂肪・抗疲労効果を高める。
- ✓ 2014 年のサウジアラビア訪問時、ジェッダ総領事館よりパートナー(Tamer Group)の紹介を受け、検討を具体化。King Abdulaziz University(KAU)とオリゴノールの効能(抗肥満)に関する共同臨床研究を実施し、専門学会や学術誌で成果を発表。北海道経済産業局長賞も受賞した。
- ✓ 2018 年 2 月に藤井氏自らが再度サウジアラビアを訪問して Tamer Group と会い、販売展開の準備を進める予定。SFDA への製品登録が次のハードル。また、KAU、保健省と次なる共同研究可能性やテーマを検討する。

8-3 パネルディスカッションの議事内容

本セミナーでは、外部講師 3 名と NRI 発表者の計 4 名のパネリスト並びに NRI のモデレーターによるパネルディスカッションを実施し、講演内容を踏まえた討論及びサウジアラビアの農業・食品ビジネスにおける課題についての議論を行った。以下は、パネルディスカッションの議事要旨である。

Q. サウジでの事業の魅力は何か？（共通議題）

(NRI 山口)

- ✓ 可処分所得の大きさ。購買力は、GCC の中で 5 位であるが、リヤドやジェッダなどの都市部は、GCC の第 3 位に追いつく水準。人口は、購買力の高いカタールやクウェートと比べても大きい。

(アルフレイフ氏)

- ✓ サウジは口コミ社会であり、良いものは WhatsApp 等の SNS で広がって流行る。食品に限らず日本のコンテンツは人気である。ラーメンや焼きそばなどは、ポテンシャルがあるのではないか。

(藤井氏)

- ✓ サウジでの事業検討のきっかけは、サウジ人インターンを受け入れており、その親戚がスハド先生であったこと。サウジに行ってみて分かったのは、肥満の人が多くということ。甘いものが好きで、運動をせず、血圧や血糖値も気にせず、糖尿病になる人が多い。サプリメントの需要はあると思う。

(黒澤氏)

- ✓ サウジを拠点として中東市場を攻められる。中東では”Made in Saudi”が信頼される。人口も 3,200 万人で、若い人が多いので、若者向けのものが受け入れられやすい。ビジョン 2030 に基づく改革により産業の多角化が進められているというタイミングでもある。

Q. サウジでの事業の難しさは何か？（共通議題）

(黒澤氏)

- ✓ ビジネスビザの申請の難しさ。本人が東京のビザセンターに行く必要があり、地方に住む人には大変である（サウジアラビア大使館・商務官より、指摘の点は指紋登録のためであり、これにより空港での入国手続きが速くなるとの説明があった）。
- ✓ 人材を採用し、さらにそれを定着させることが難しい。ニタカットプログラムにより、優秀なサウジ人のニーズが高いという事情が背景にある。

(藤井氏)

- ✓ サプリメントとして現地の規制をクリアしないといけない。ただ、これは、他の国も同様で、当然のことである。ハラールについては、ハラールであることが当然として話が進み、困難はない。
- ✓ トップダウンの文化であり、トップと話ができていないと話が進まない。
- ✓ ビザ取得のために東京まで来ないといけないというのはあるが、発給は速くなった。

(アルフレイフ氏)

- ✓ トップダウンの文化であり、キーパーソンとつながる必要はある。サウジ人はメールの返信は遅いが、携帯などで直接連絡取るとよい。WhatsApp などがよく使われる。
- ✓ サウジ人は、「まずやりましょう。細かいことは後で」と考える。日本人は、細かいことも事前に考えて、意思決定が遅くなる。

(NRI 山口)

- ✓ 調査で苦労したのはアポイントメントの取得。出発直前にもあまり決まっていなかった。しかし、一旦、受け入れられると協力的で、会った相手にその場で、携帯電話で、他の会いたい相手に連絡を取ってもらえることもあった。なお、サウジ企業からは「(外国企業は) 話に来た後に、連絡が無いことがあるので、フォローアップは欲しい」と言われた。

Q. 今後サウジアラビアでの事業展開を検討する日本企業への助言・メッセージ (共通議題)
(NRI 山口)

✓ サウジだけに限らず GCC まで視野を広げて検討をしてもらおうとよい。一方で、国土の大きなサウジについては、対象都市を絞って検討することも必要かもしれない。現地企業とは、仮説を持って話をするとよい。ハラル対応については、身構える必要はない。
(アルフレイフ氏)

✓ 仲良くなると、サウジ人からすぐに食事等に誘われる。それに応じることで、話がうまく進むことがあるので、活用してほしい。

(藤井氏)

✓ サウジは心理的な距離がある地域だが、仕事してみると、人はやはり同じ人間であるということを感じた。サウジにホームレスがない理由についてサウジ人に聞いて見たところ、イスラム教で家族が助け合うという考えがあるからではないかと言われた。サウジ人は信頼して付き合える人々であると感じている。間もなくのサウジ訪問が楽しみである。また、サウジの関係者を札幌にも招きたいとも考えている。

(黒澤氏)

✓ ビジョン 2030 の影響で外国企業には追い風が吹いている。日・サウジ・ビジョン 2030 の下、農業・食料安全保障は、重点分野の一つにもなっている。危険な地域とのイメージを持たれることもあるが、安全性に関しては、安心して来て欲しい。

Q. パスタやラーメンはサウジで受け入れられるか? (参加申込書の関心事項欄から)

(アルフレイフ氏)

✓ イタリアンレストランも多く、パスタは普通に食されている。受け入れられるだろう。
(黒澤氏)

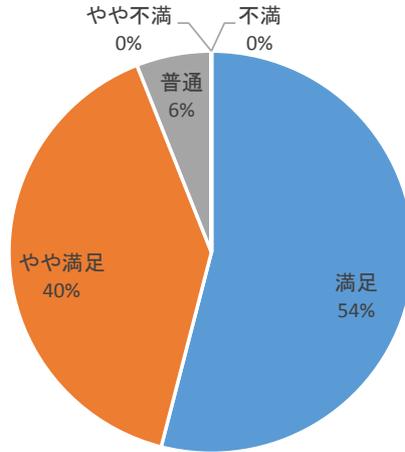
✓ ラーメンを提供するレストランは見当たらないが、スーパーでは「辛ラーメン」が売り切れになっている。日本への留学経験者からは、ラーメンが好きだったという話も聞く。パスタは、日本よりも多くの種類のものが売られている。

8-4 出口アンケートの結果

セミナーの出席者を対象として、アンケート調査を実施した。以下、アンケートの集計・分析結果を記載する。

セミナー全体の満足度に関する設問では、50%が「満足」と回答、「やや満足」を加えると、90%以上となった。役に立った点に関するコメントでは、情報の少ないサウジアラビアの関連情報の提供を評価する声が多かった。

図表 115 本セミナーへの満足度 (n=50)



出所) サウジアラビア農業・食品ビジネスセミナー アンケート結果

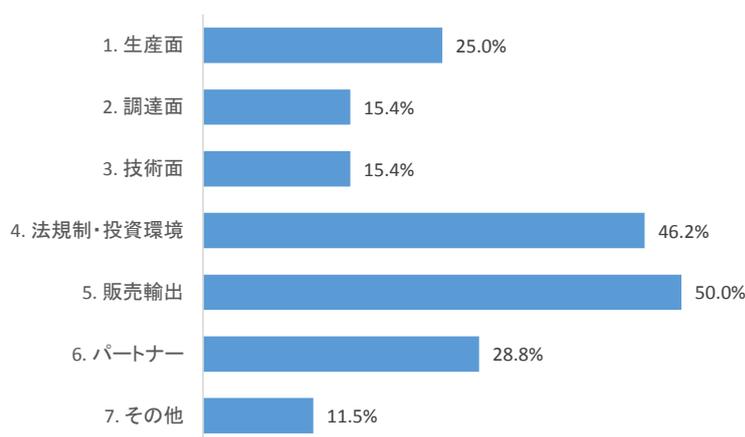
図表 116 本セミナーの役に立った点、改善すべき点に関するコメント

満足度	役に立った点、改善すべき点
満足	サウジアラビアでの食品関連のセミナーは過去参加経験が無く非常に興味深く拝聴いたしました
	「委託事業の結果報告」を軸に、実際に事業や支援を展開している方たちのプレゼンを配し、サウジの農食分野の現状が立体的に理解できた。ありがとうございました。
	なかなか知ることでできないサウジアラビアのマーケットについて情報を得ることができました。
	サウジの食品に特化した内容でわかりやすかった。
	セミナーでのサウジの最新の情報、パネルディスカッションでの生の情報をご教示いただき勉強になりました。
	情報の少ないサウジから良くこれだけ豊富な情報を集められたと感服いたしました。大変参考になる機会でした。ありがとうございます。
	食品のトレンド、Authentication body 成功事例等、大変役に立った。
	知りたい内容について言及されていた点が良かった。 (農水産業における政府の期待事項、記載内容)
	現地の話が大変参考になりました。ありがとうございました。
	これまでの石油化学ではない分野での調査、セミナーは非常に有益でした。 進行役の方が早口でよく聞き取れませんでした。
やや満足	実際に進出済の企業の話が聞けるともっと良いと思う。
	具体的なサウジアラビアの食の内容や進出の事例がわかった。
	食品でなくても良いので進出済企業の話を知りたい。
	サウジの農業、水産業、食品産業の概況/市場を良く理解できました。
	調査レポート、パネルディスカッションは、現地の状況が聞いて良かった。実際にモノがどの様に流れているかもう少し聞きたかった。卸問屋とのシェア、全体像など。
普通	農業の概況が参考になりました。 網羅的に状況理解が進んだ
	民間企業による具体的現地進出経験、民間企業が期待する政府、政府機関の役割に関する情報 市場規模が理解できた。

出所) サウジアラビア農業・食品ビジネスセミナー アンケート結果

サウジアラビアへの事業展開について、どのようなことに興味があるか問う質問に対しては、回答者の半分が販売輸出に関心があるとの回答結果となった。また、関連する情報が少ないこともあり、法規制や投資環境への関心を示す回答が2番目に多かった。

図表 117 サウジアラビアへの事業展開で興味ある分野 (n=45、複数回答)



出所) サウジアラビア農業・食品ビジネスセミナー アンケート結果

サウジアラビアの事業展開上の課題についてのコメントとしては、規制（許認可・製品登録・通関等）、パートナー、ビザ等に関する課題を挙げる声が複数あった。

図表 118 サウジアラビアの事業展開上の課題に関するコメント例

カテゴリー	コメント	回答者の業種
規制	輸入に関する許認可のサポート	商社
	SASO→GSOで自社製品の approval を得る際のサポートを今後何らかの相談させて頂きたい(recommendation 他)	食品
	殺虫剤製品等の登録に苦労しており、そのサポートを頂きたい。	商社
	日本からの輸出商品(食品、雑貨等の通関で必要書類、スピード処理などを明確化して、個人向けの EC を推進して欲しい。)	物流
パートナー	パートナーの選定	商社
	パートナー紹介	農業
	現地企業、現地人とのコミュニケーション	NA
	日本企業複数企業で展示会などや視察等で情報交換し、サウジアラビアへのビジネスコネクションを作れればと思います。	食品
ビザ	サウジアラビアでの日本人を含む外国人の就労ビザ(ブロックビザ)の発行、更新が停止、滞ってる現状を政府レベルで支援を頂きたいと思います。	物流
	ビザの取得の簡素化と輸入関税の軽減化	NA
リスク	貿易保険・投資保険などがより充実すると事業ハードルが下がる。	NA
その他	官民ミッションに参加したい	農業

出所) サウジアラビア農業・食品ビジネスセミナー アンケート結果

参考資料

参考 1 サウジアラビア人の健康食品に関する意識調査

参考 2 周辺国の農業政策

参考1 サウジアラビア人の健康食品に関する意識調査

1-1 調査概要

サウジアラビア王国内の居住者を対象として、健康食品に関する意識調査をインターネットアンケートにより実施した。調査の概要は下記の通りである。

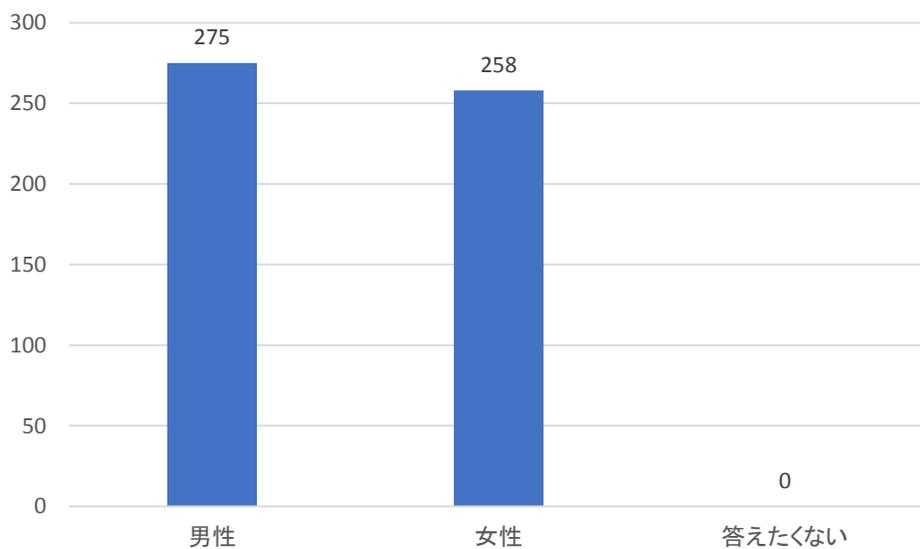
図表 119 健康食品に関する意識調査概要（再掲）

項目	概要
調査名称	健康食品に関する調査
テーマ	サウジアラビア王国内の居住者の健康食品に対する認識を調査する
対象	サウジアラビア王国居住者としてインターネット調査パネルに登録している男女かつ10代～50代の533名(男性275名、女性258名)
方法	インターネット調査パネルの登録者に対してアンケート回答メールを送信し、男女ともに250回答を超えた日に調査ウェブサイトを開鎖
期間	2017年11月10日～11月17日(日本時間)

1-2 回答者の属性

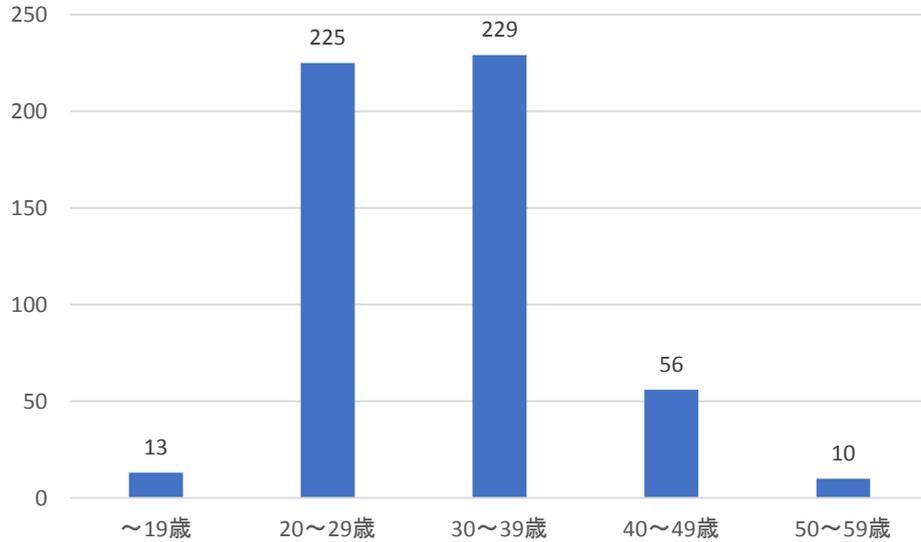
回答者は男性が275名、女性が258名であった。なお、調査回答には「答えたくない」を設けていたが、「答えたくない」と回答した場合は本調査の回答者から省いた。

(F1) 性別



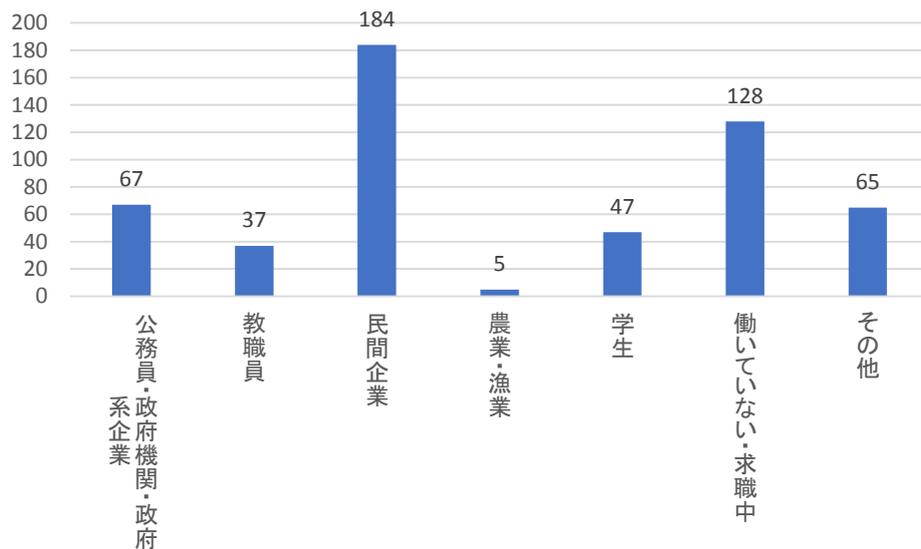
年齢は20代、30代が200人以上となり、非常に多かった。10代及び50代はパネルへの登録数がそもそも少なく、回答が集まらなかった。

(F2) 年齢



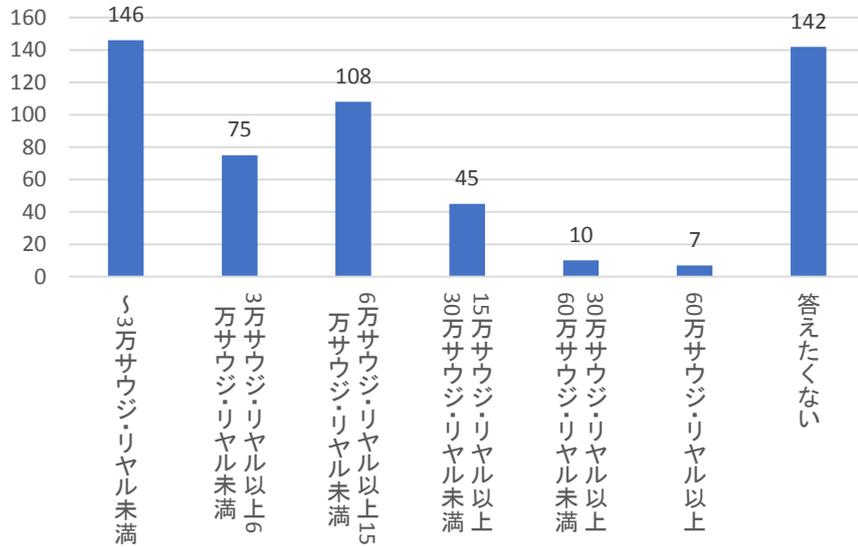
職業は「民間企業」が最も多かったものの、次に多いのが「働いていない・求職中」が多いが、女性の社会進出が充分でないためと考えられる。

(F3) 職業



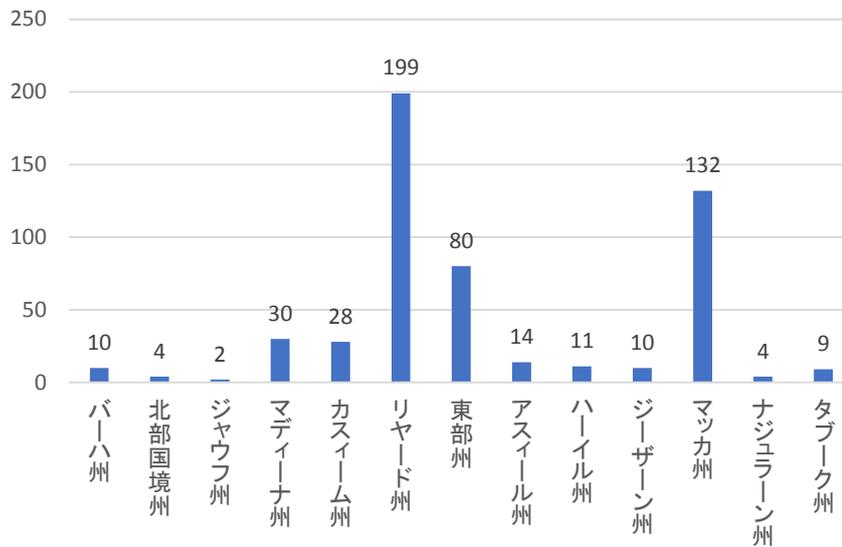
年収は「答えたくない」との回答が全体の 25%以上に及んでいるために正確ではない可能性があるが、3 万サウジ・リアル未満の回答者が最も多く、高額所得者は少なかった。

(F4) 年収



居住州はリヤード州、マッカ州、東部州が多く、3 州で 75%以上を占めた。

(F5) 居住州



1-3 回答結果の集計と分析

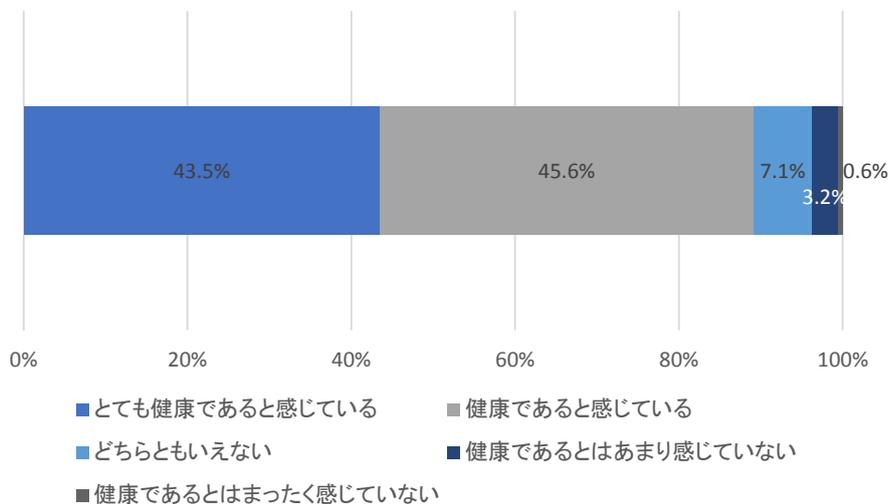
以下では、各設問への回答結果の集計結果を掲載する。

属性別分析については、当該属性について顕著な傾向の違いが見られた場合にのみ掲載する。

【自らの健康について】

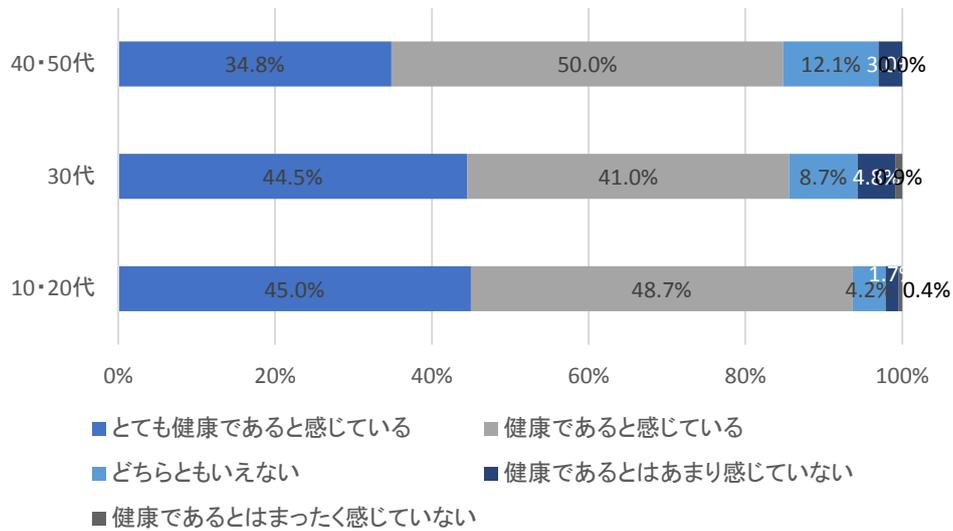
本調査の回答者は多くが自らは健康であると考えており、「とても健康であると感じている」「健康であると感じている」は併せて 89.1%となった。一方で、「健康であるとはあまり感じていない」「健康であるとはまったく感じていない」との回答は併せて 3.8%にとどまった。

(Q1) あなたは今、ご自身の健康についてどのように感じていますか。[回答は1つのみ]



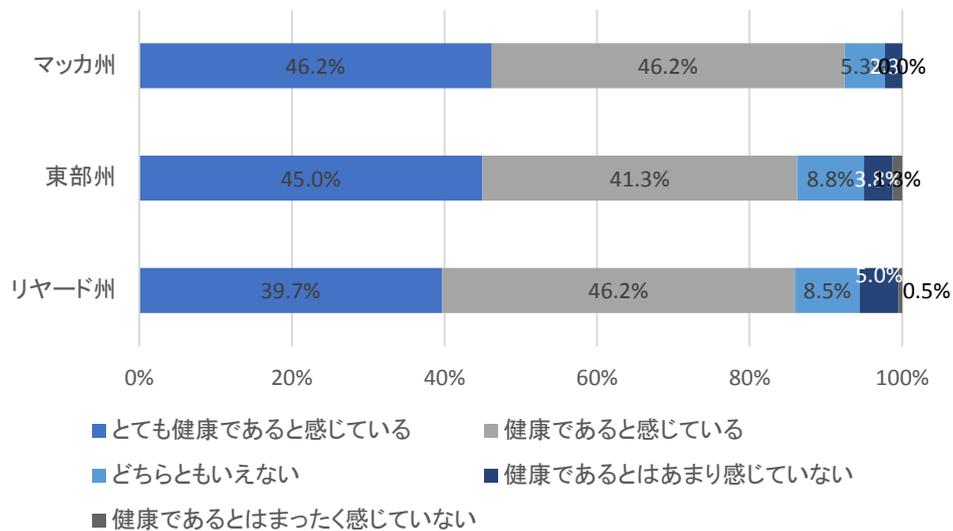
年代別に見ると、年齢が高くなるごとに健康であると回答する割合は低下する傾向にあるが、40・50代であっても 84.8%が「とても健康であると感じている」「健康であると感じている」と回答している。

(Q1) (年代別)



居住地別に見ると、マッカ州では「とても健康であると感じている」「健康であると感じている」の割合がやや高い。

(Q1) (居住地別)

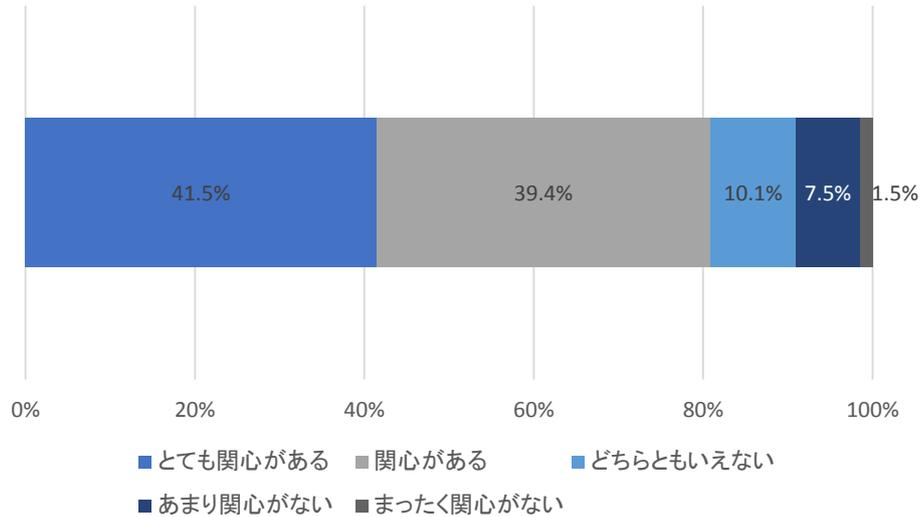


【健康食品への関心】

健康食品には高い関心が持たれており、「とても関心がある」「関心がある」は併せて80.9%となった。「あまり関心がない」「まったく関心がない」は併せて9.0%にとどまり、多数が関心を持っている。

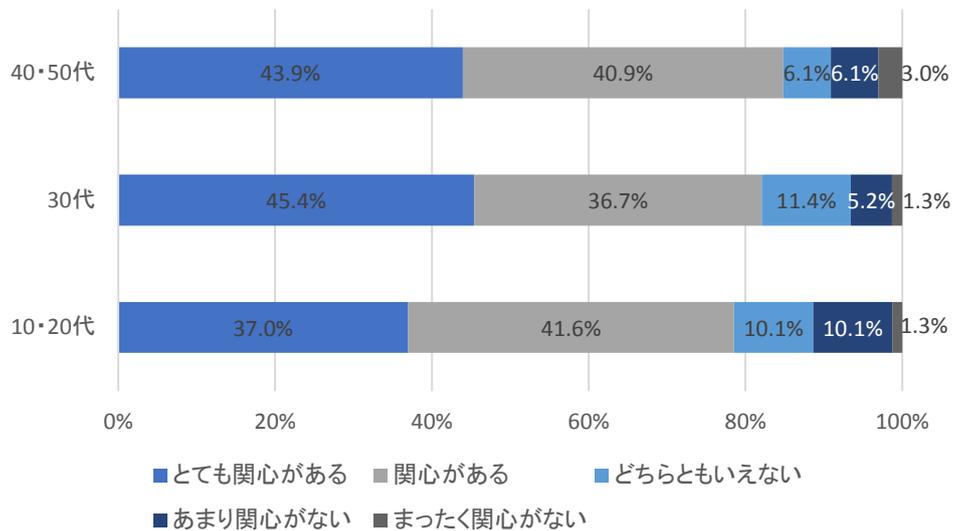
参考資料

(Q2) あなたは自らの健康を高めたり、体の調子を整えたりするための食品（健康食品）について興味・関心がありますか。[回答は1つのみ]



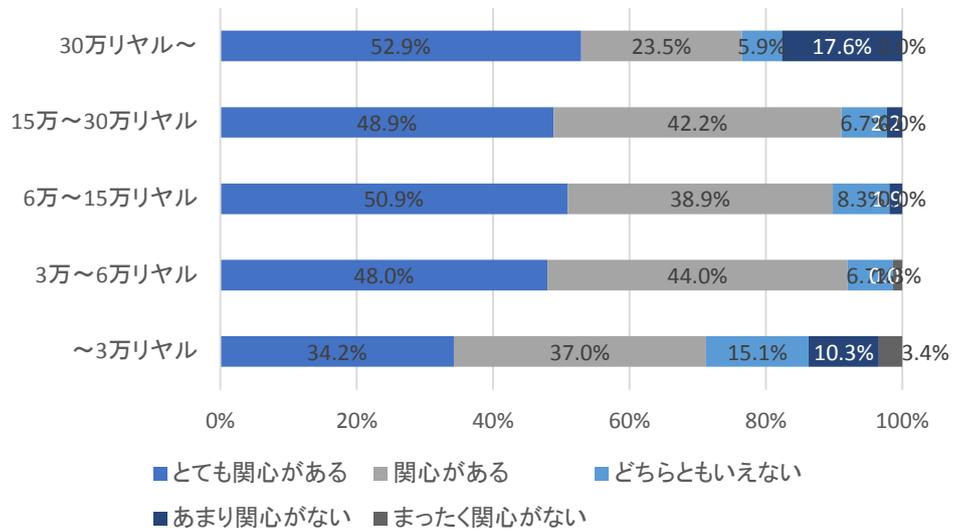
年代別に見ると、10・20代は他の年代に比較してやや関心が低いが、10・20代も健康食品への関心は高く、「とても関心がある」「関心がある」を併せて78.6%となっている。

(Q2) (年代別)



収入別に見ると、年収が高まるに従って健康食品への関心は高まっていると判断できる。

(Q2) (収入別)

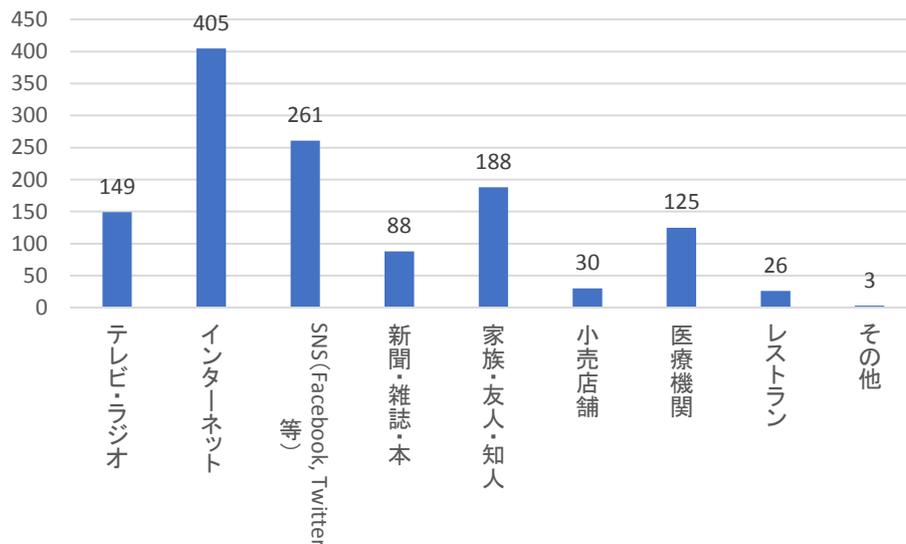


※年収 30 万リヤル以上のサンプルは 17 名のため、参考情報として掲載

【情報入手経路】

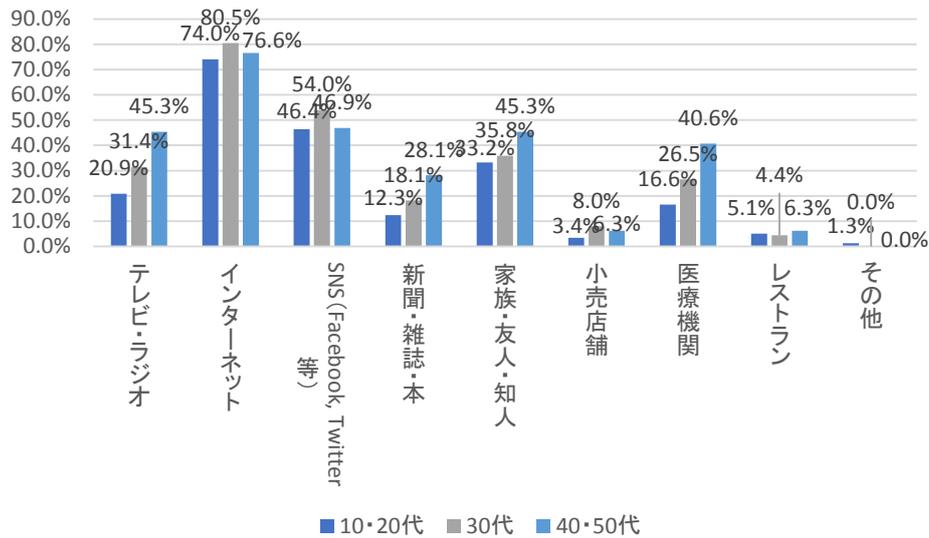
健康食品の情報は「インターネット」経由が最も多く、75%以上がインターネットを情報源としている。また、SNS 及び「家族・友人・知人」といった口コミも情報源として機能している。一方で、「テレビ・ラジオ」や「新聞・雑誌」といった従来からのメディアは情報源として十分に利用されている状況にはない。

(Q3) あなたは健康食品に関する情報をどこから入手していますか。【複数回答】



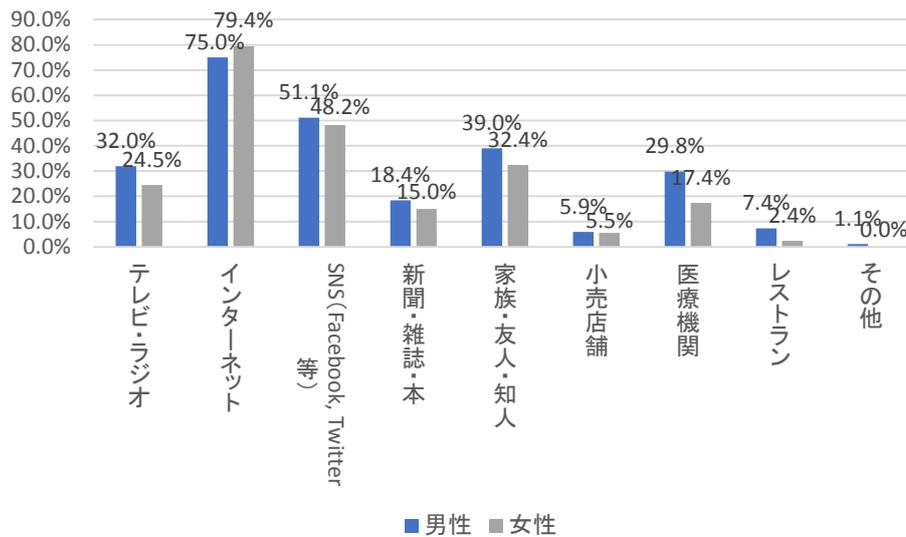
年代別に見ると、年齢が高くなるに従い、「テレビ・ラジオ」「新聞・雑誌・本」「家族・友人・知人」「医療機関」は高くなる傾向にある。「インターネット」「SNS (Facebook, Twitter など)」は30代が最も高く、10・20代、40・50代に大きな差異は見られない。

(Q3) (年代別)



性別に見ると、男性は「医療機関」「テレビ・ラジオ」の利用率がやや高い。一方で、女性はインターネットの利用率がやや高い。

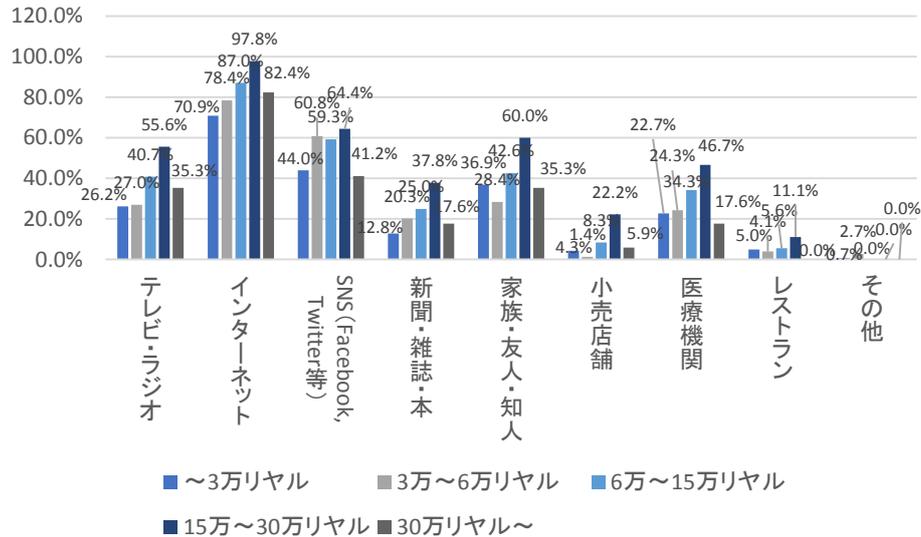
(Q3) (性別)



参考資料

収入別に見ると、ほぼすべての項目について、収入が高まるに従って情報源としている割合が高くなっており、情報収集に敏感となっていると考えられる。「家族・友人・知人」については、年収が低くとも重視する傾向が見られる。

(Q3) (収入別)



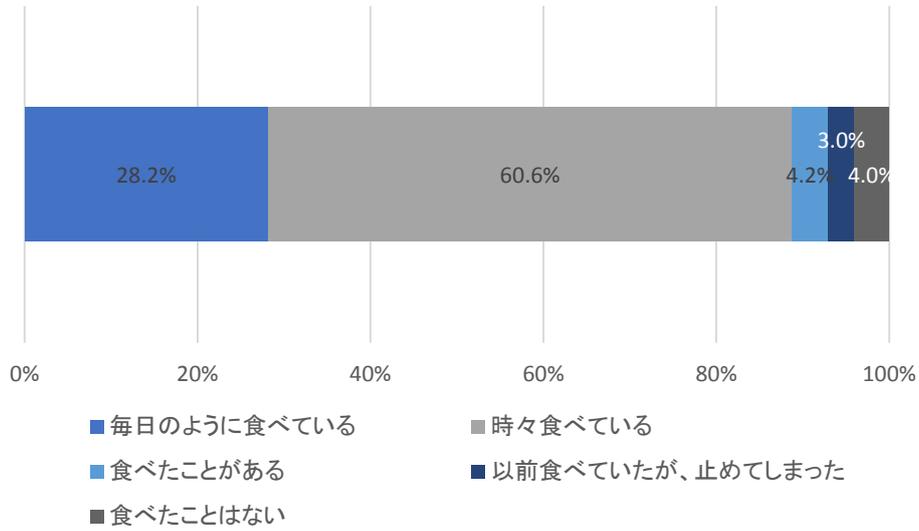
※年収 30 万リヤル以上のサンプルは 17 名のため、参考情報として掲載

【健康食品の利用状況】

「毎日のように食べている」「時々食べている」を併せると 88.8%となり、非常に多くの人が定期的に健康食品を利用していることが示された。サウジアラビア王国内には健康食品が大きく広がっていると判断できる結果となった。

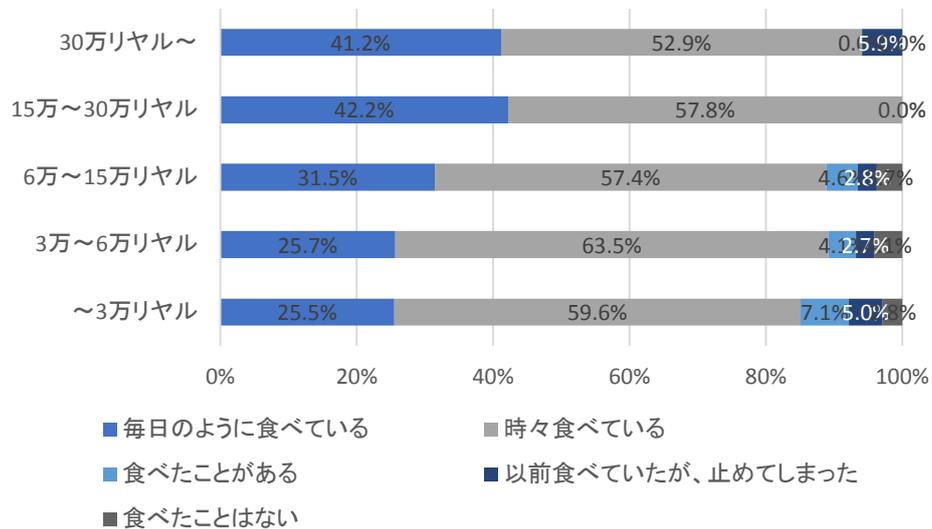
参考資料

(Q4) あなたは、健康食品を日常的に利用していますか。[回答は1つのみ]



収入別に見ると、利用状況についても年収と比例して高くなっており、年収が高いほど健康食品を利用していることが示された。ただし、3万サウジ・リヤル未満であっても85.1%が習慣的に利用していると回答しており、少ないとは言えない。

(Q4) (収入別)

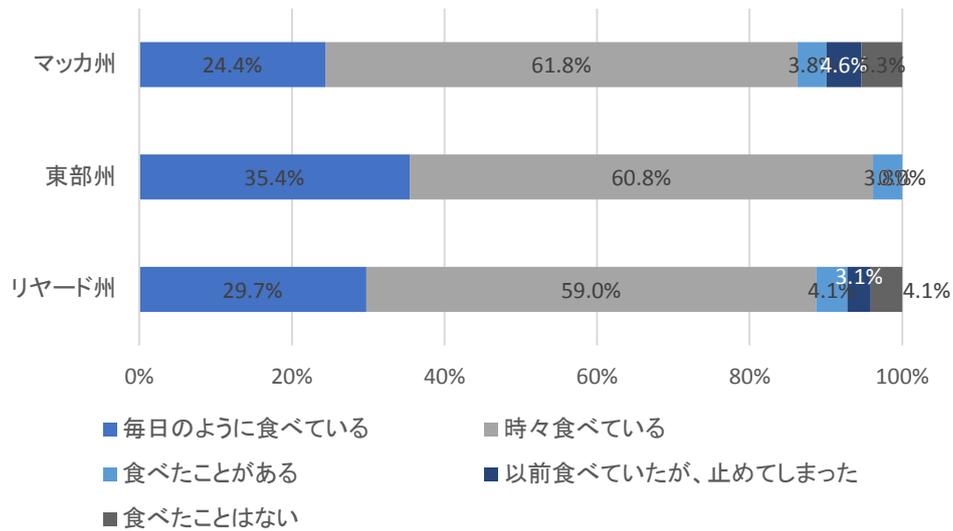


※年収30万リヤル以上のサンプルは17名のため、参考情報として掲載

参考資料

居住地別に見ると、利用状況は東部州で比較的高く、「毎日のように食べている」「時々食べている」の合計で 96.2%となっている。マッカ州とリヤード州では大きな差は見られない。

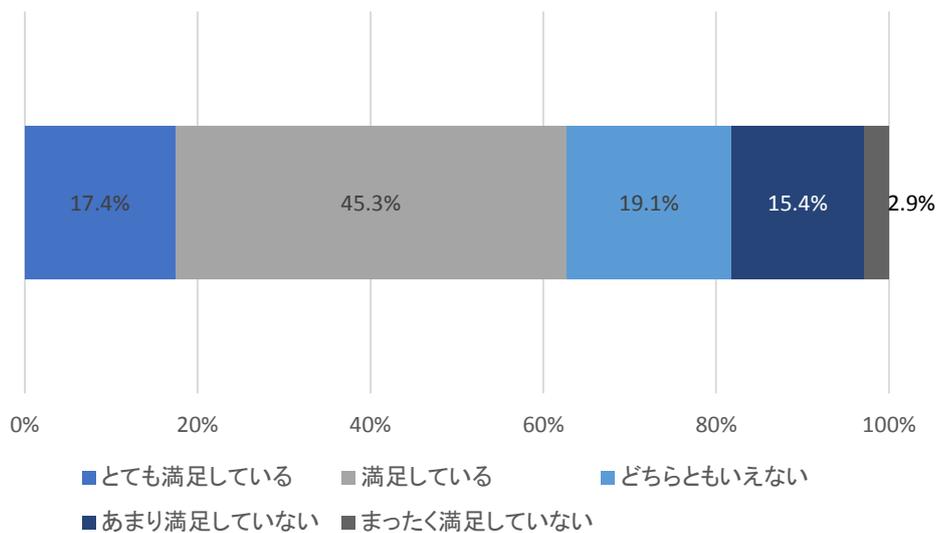
(Q4) (居住地別)



【健康食品の満足度】

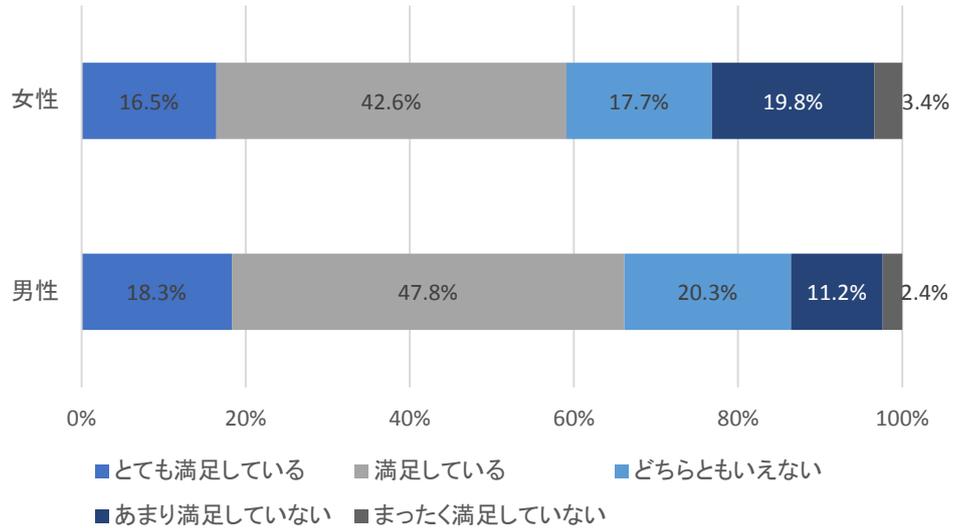
健康食品を利用している人の、健康食品に対する満足度も高く、「とても満足している」「満足している」の合計が 62.7%であった。一方で、「あまり満足していない」「まったく満足していない」は併せて 18.3%となり、定期的にご利用している人の中にも満足していない人は少なくない。

(Q5) あなたは、現在利用している健康食品の効果に満足していますか。[回答は1つのみ]



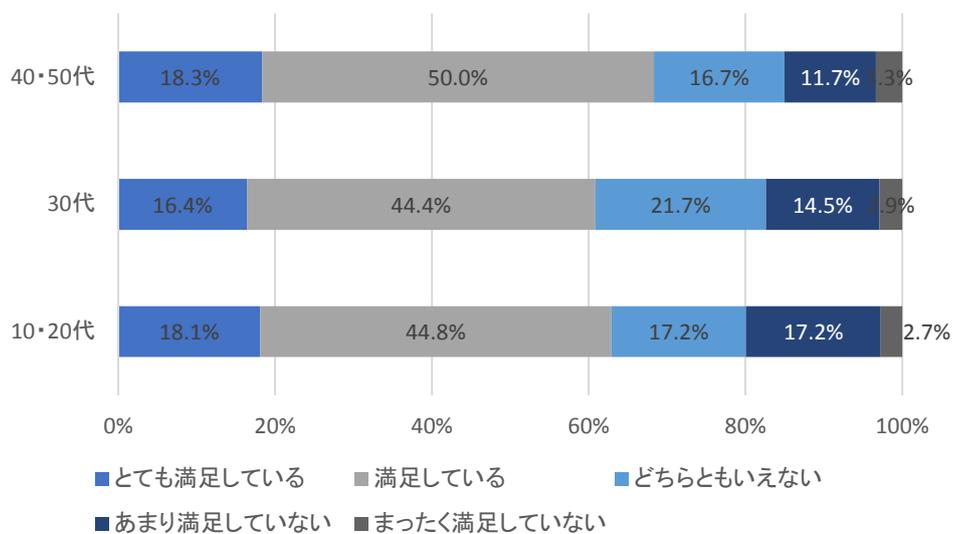
性別に見ると、満足度は男性の方がやや高く、女性は「あまり満足していない」「満足していない」を併せて23.2%となった。

(Q5) (性別)



年代別に見ると、年齢が高いほど、満足している人の割合は高い。10・20代は「あまり満足していない」「まったく満足していない」の合計が19.9%であり、5人に1人が満足していないとの回答となった。

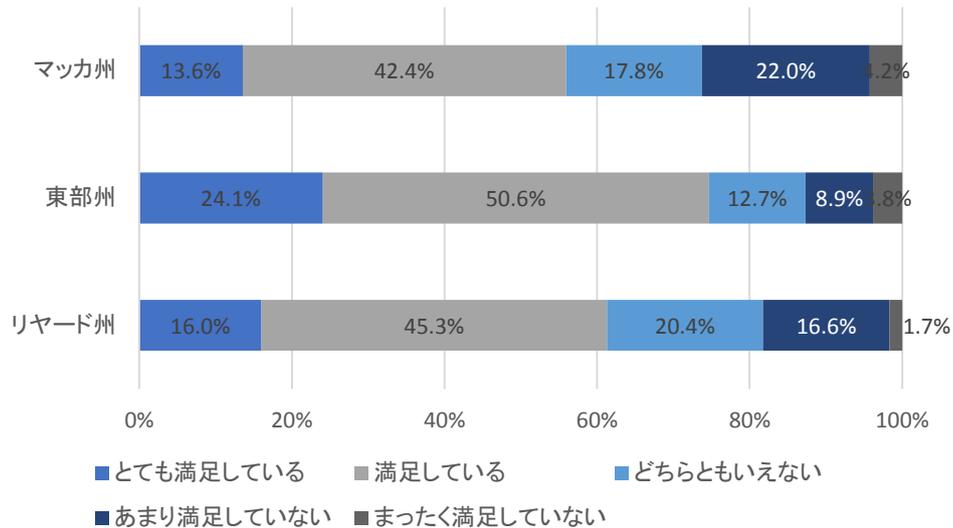
(Q5) (年代別)



参考資料

居住地別に見ると、最も利用しているとの回答が多い東部州の満足度が他の州よりも高い。マッカ州では26.2%が「あまり満足していない」「まったく満足していない」と回答している。

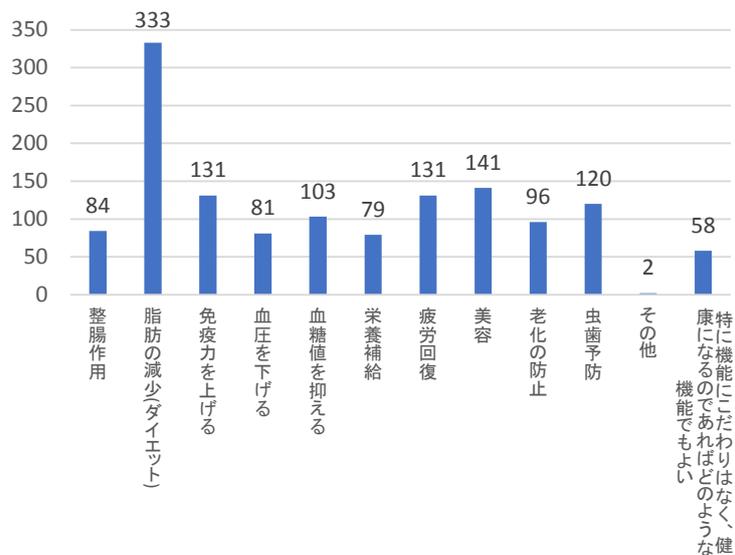
(Q5) (居住地別)



【健康食品の機能】

「脂肪の減少(ダイエット)」に対する興味・関心が最も高く、他の項目に大きな差は見られなかった。

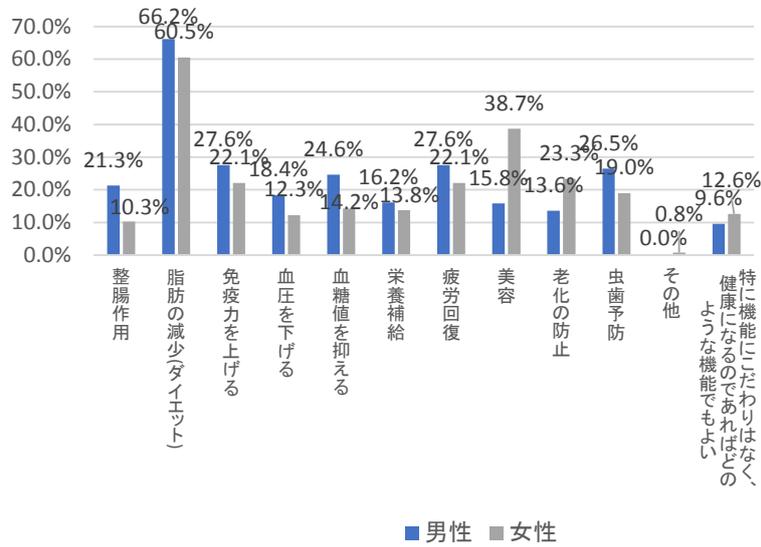
(Q6) あなたは、どのような機能を持つ健康食品に興味がありますか。[複数回答]



参考資料

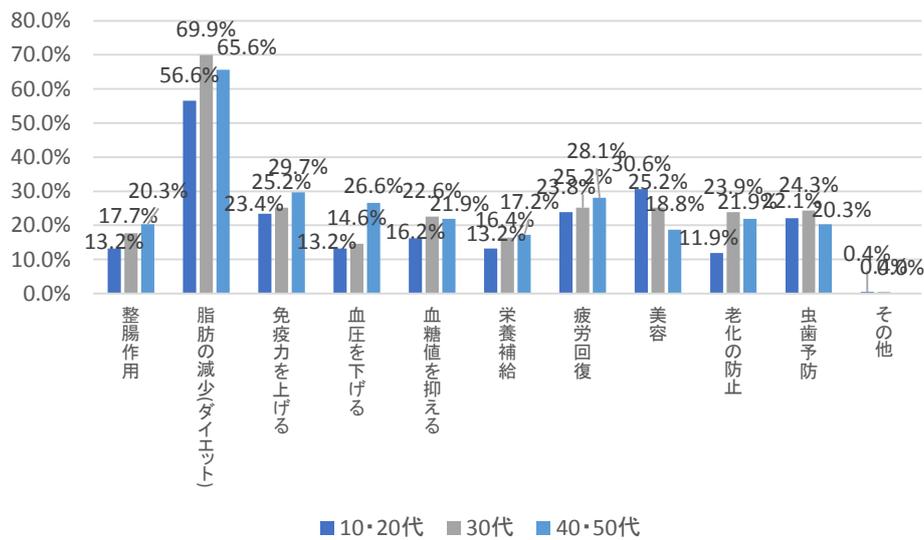
性別に見ると、「脂肪の減少（ダイエット）」「免疫力を上げる」「血糖値を抑える」「虫菌予防」は男性の関心が強い一方で、「美容」「老化の防止」は女性の関心が強かった。

(Q6) (性別)



年代別に見ると、「脂肪の減少（ダイエット）」は30代で高いが、他の項目は多くは年齢に比例して高くなっている。

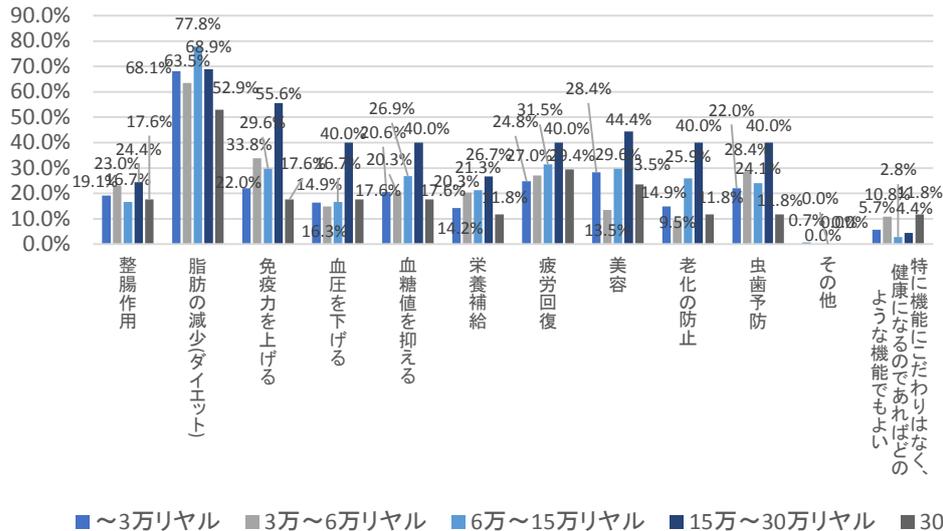
(Q6) (年代別)



参考資料

収入別に見ると、求める機能については15万～30万サウジ・リヤルの層が多く、項目で高くなっているが、「脂肪の減少（ダイエット）」については15万～30万サウジ・リヤルの層が特に高いとは言えない。年収が高い層が健康についての知識があり、関心が高いと考えることができる。

(Q6) (収入別)



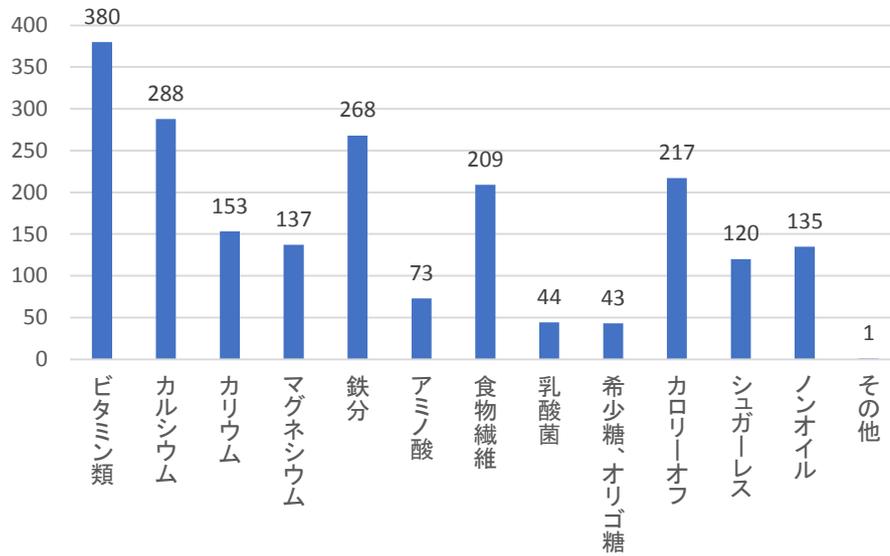
※年収 30 万リヤル以上のサンプルは 17 名のため、参考情報として掲載

【健康食品の成分】

成分についての興味は、「ビタミン類」が最も高く、以下「カルシウム」「鉄分」は50%以上が「興味がある」と回答、さらに「カロリーオフ」「食物繊維」は40%程度が「興味がある」と回答した。なお、どのような成分があるかについての知識に回答が影響されている可能性がある。

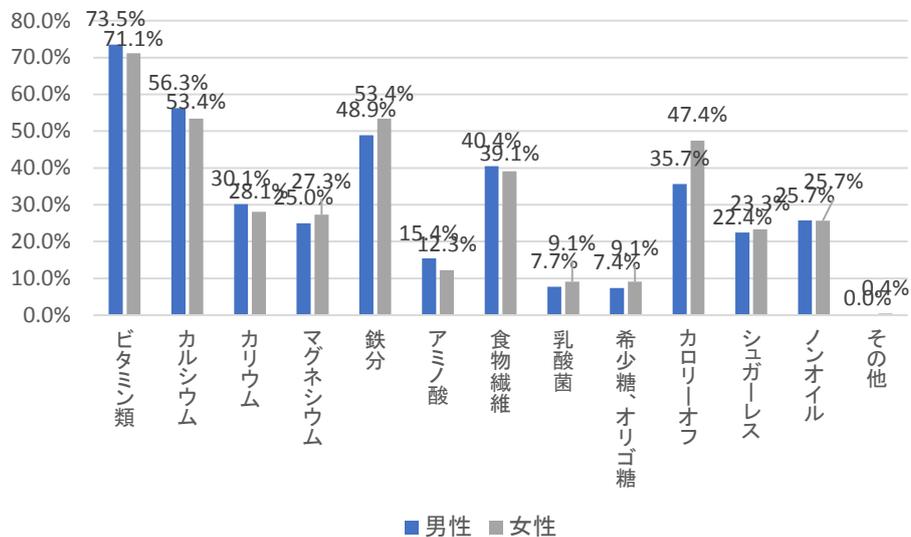
参考資料

(Q7) あなたは、どのような成分が含まれた(10.~12.は成分が少ない)健康食品に興味がありますか。【複数回答】



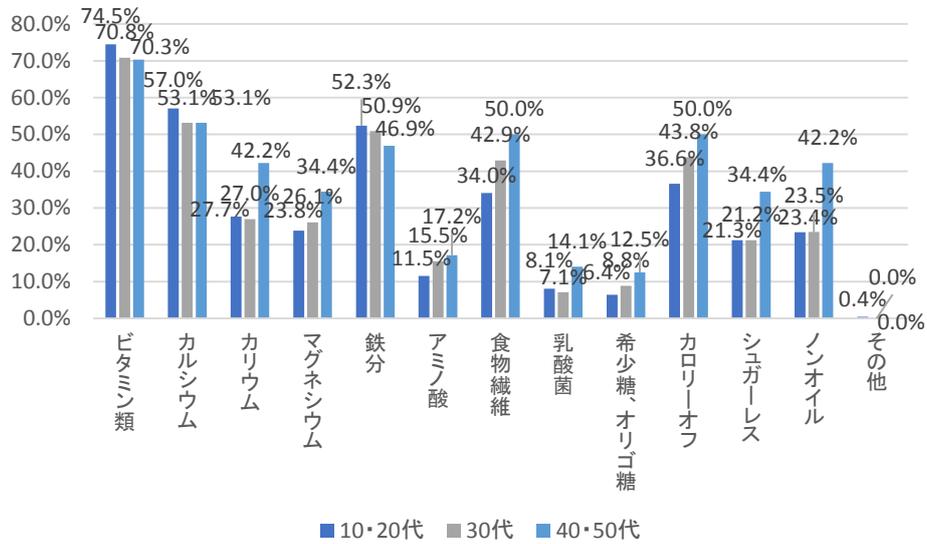
性別に見ると、「カロリーオフ」については女性の興味が高い。

(Q7) (性別)



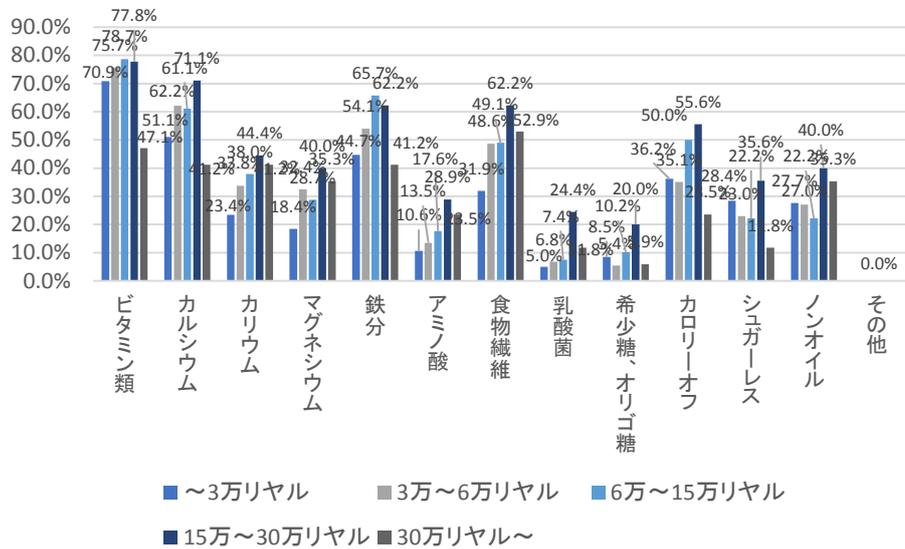
年代別に見ると、10・20代で高い割合となっている項目は「ビタミン類」「カルシウム」「鉄分」であった。他の項目は、多くが年齢に比例して高くなっている。

(Q7) (年代別)



収入別に見ると、年収が高いほど、成分についても関心を持っている。ただし、この結果は知識に影響を受けている可能性も考えられ、年収が高いほど栄養の成分についての知識を持っている結果とも考えられる。

(Q7) (収入別)

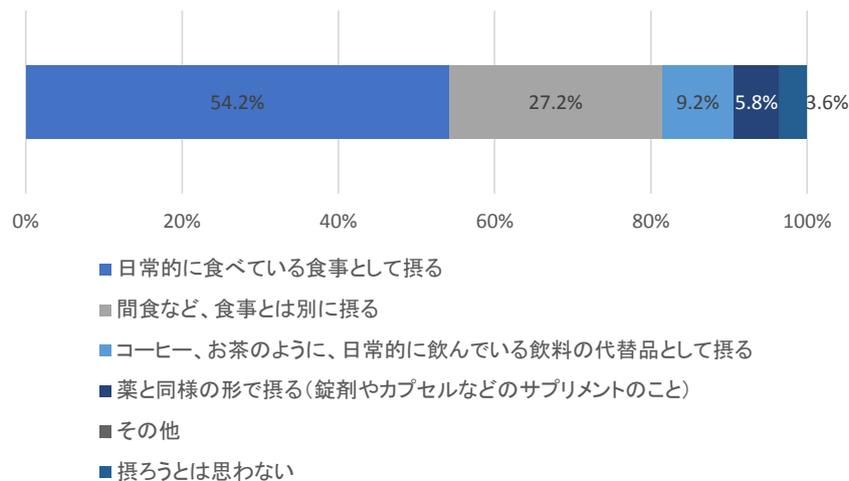


※年収 30 万リヤル以上のサンプルは 17 名のため、参考情報として掲載

【健康食品の摂り方】

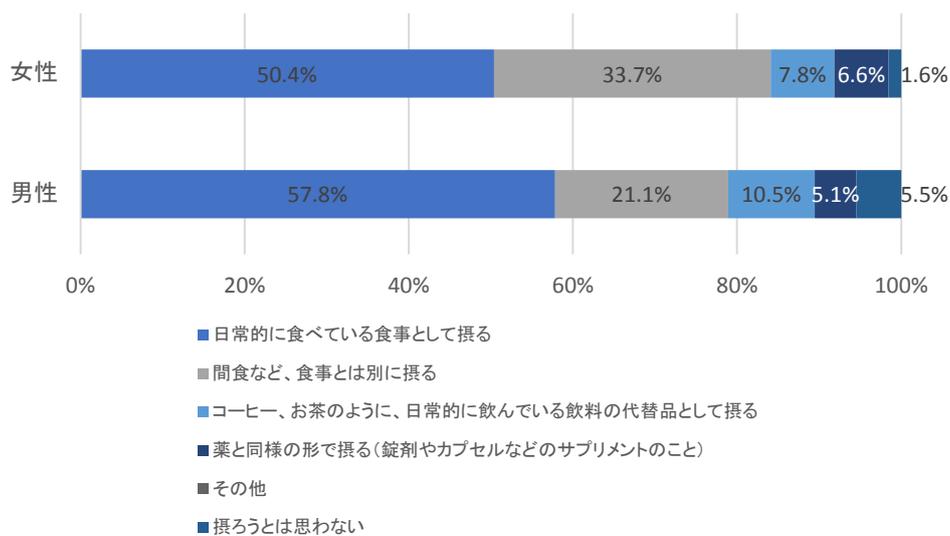
「日常的に食べている食事として摂る」との回答が 50%を超えており、「感触など、食事とは別に摂る」という回答は 27.2%にとどまった。「摂ろうとは思わない」という回答は 3.6%であり、何らかの形で健康食品を利用することに関心は持たれている。

(Q8) あなたは、どのように健康食品を摂ることが望ましいと考えていますか。[回答は 1 つのみ]



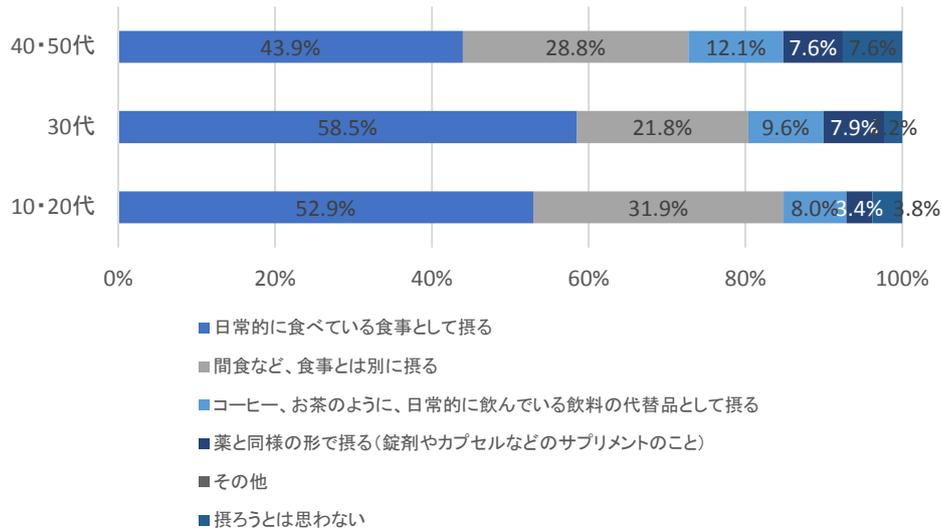
性別に見ると、男性は女性より「日常的に食べている食事として摂る」ことを望む一方で、女性は「間食など、食事とは別に摂る」ことを求める割合が男性よりも高かった。

(Q8) (性別)



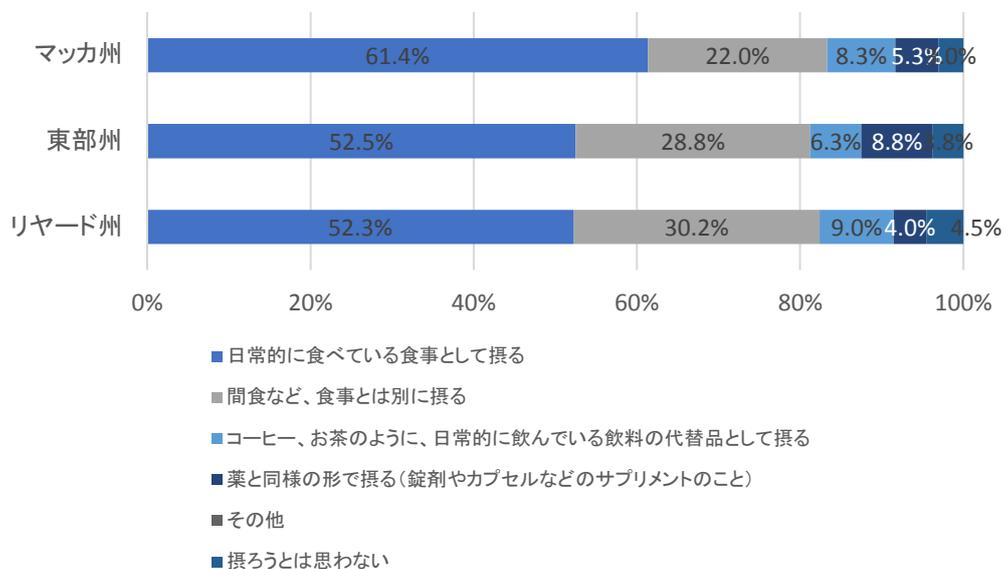
年代別に見ると、10・20代、30代は50%以上が「日常的に食べている食事として摂る」ことを望ましいとしている。40・50代は食事として摂るとの回答は43.9%にとどまり、他の年代よりも「コーヒー、お茶のように、日常的に飲んでいる飲料の代替品として摂る」がやや多くなっている。

(Q8) (年代別)



居住地別に見ると、マッカ州では「日常的に食べている食事として摂る」との回答の割合が高い。東部州とリヤード州については大きな差は見られない。

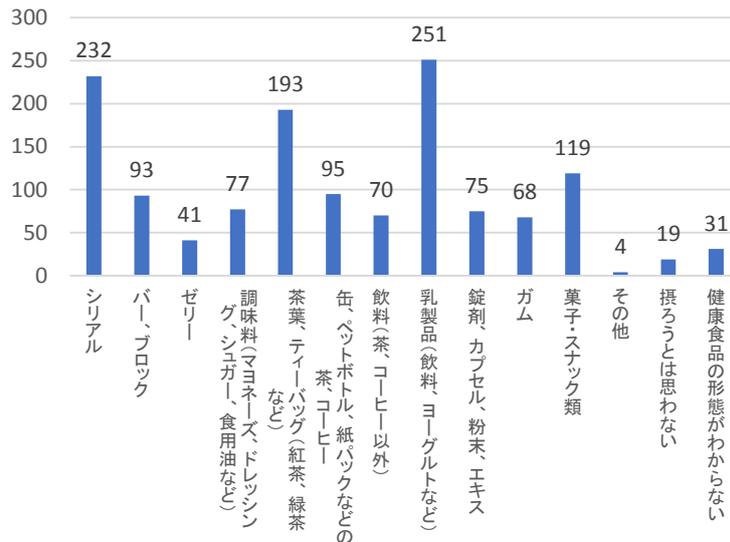
(Q8) (居住地別)



【健康食品の形態】

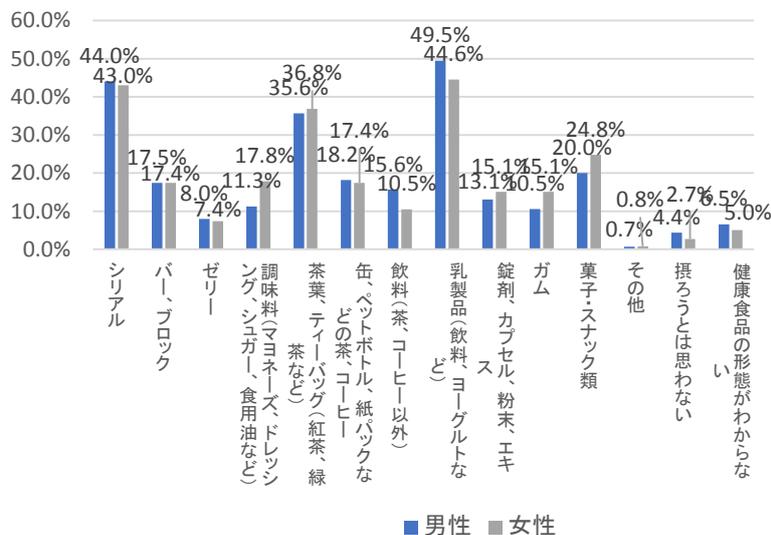
Q8の食事として摂るという考え方が多い結果と関連し、「シリアル」「乳製品（飲料、ヨーグルトなど）」との回答が多く、間食と判断される「バー、ブロック」や「ゼリー」の回答は少なかった。

(Q9) あなたは、どのような形態の健康食品を摂ることに興味がありますか。[複数回答]



性別に見ると、男性は女性よりも「飲料（茶、コーヒー以外）」「乳製品（飲料、ヨーグルトなど）」の健康食品を摂ることに興味がある。一方、女性は男性よりも「調味料（マヨネーズ、ドレッシング、シュガー、食用油など）」「ガム」「菓子・スナック類」の健康食品を摂ることに興味がある。

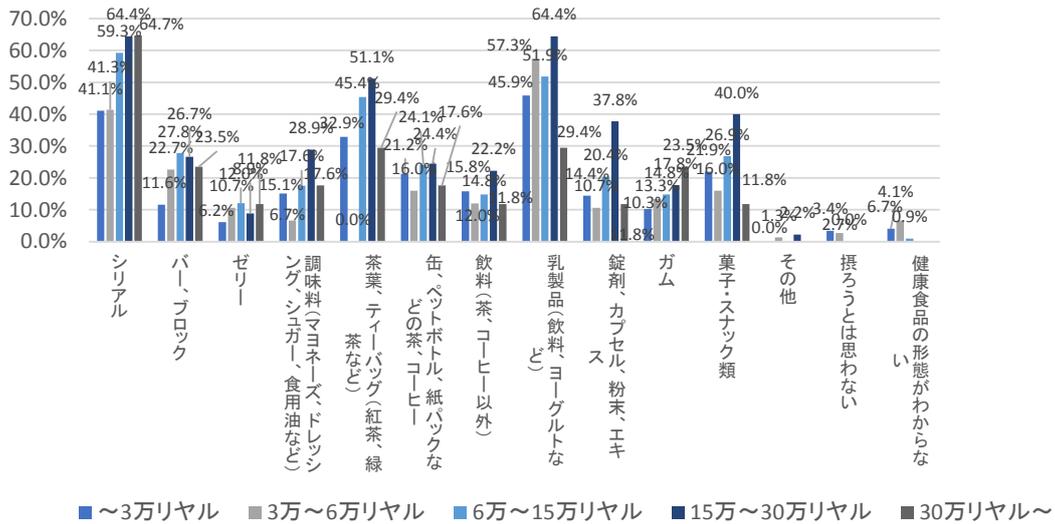
(Q9) (性別)



参考資料

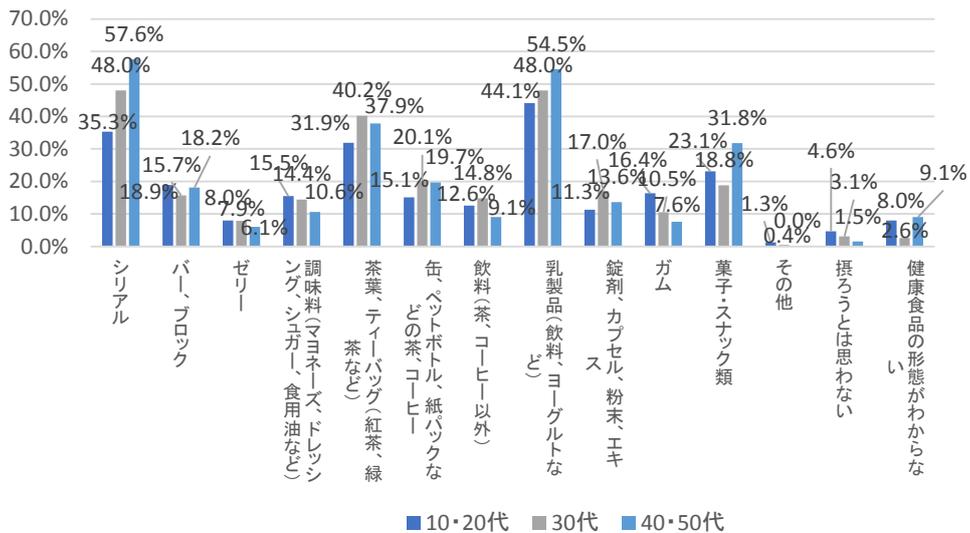
収入別に見ると、多くの項目で、年収が高いほどその形態の健康食品を摂ることに興味があるという回答が多い。これは、年収が高くなるほど、健康食品の具体的なイメージを持つことができる結果とも考えられる。

(Q9) (収入別)



年代別に見ると、「シリアル」「乳製品（飲料、ヨーグルトなど）」は年齢に比例して高くなっていく。「調味料（マヨネーズ、ドレッシング、シュガー、食用油など）」は40・50代で低く、「菓子・スナック類」は30代で低い。

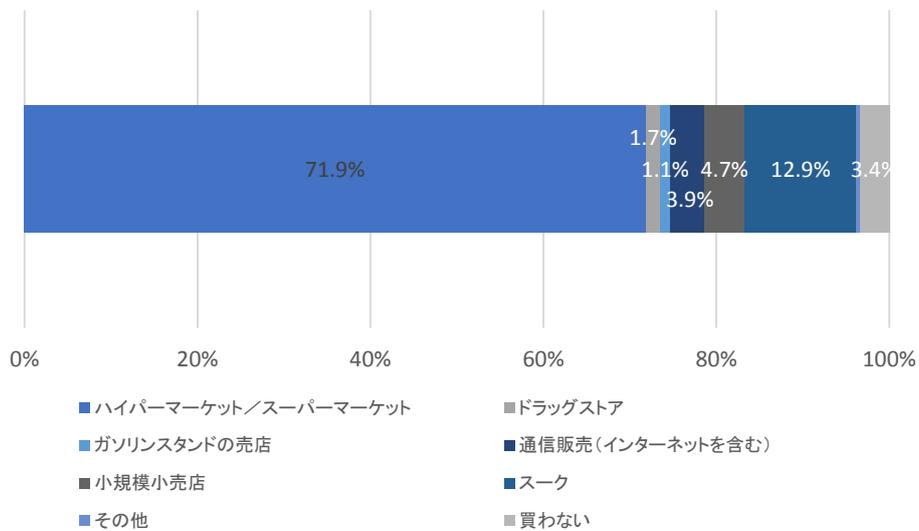
(Q9) (年代別)



【健康食品の購入場所】

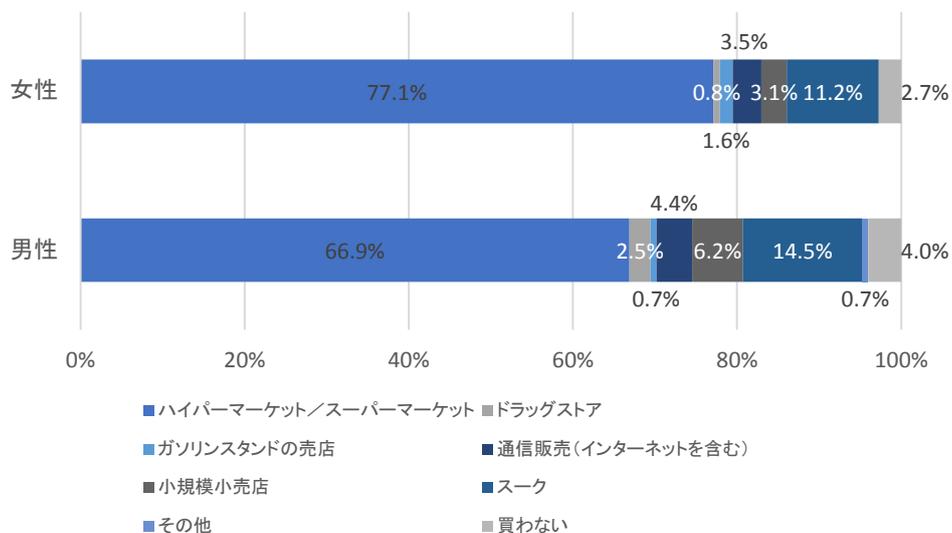
71.9%が「ハイパーマーケット/スーパーマーケット」で購入すると回答しており、現在の健康食品の商品展開も近代的な商業施設を中心になされていると考えられる。なお、「スーク」での購入も 12.9%と「ハイパーマーケット/スーパーマーケット」の次に多い回答となっている。

(Q10) あなたは、どのような場所で健康食品を買いますか。[回答は1つのみ]



性別に見ると、男性は女性よりも「小規模小売店」「スーク」で買うという回答の割合がやや高く、女性は「ハイパーマーケット/スーパーマーケット」で買うという回答がやや高い。

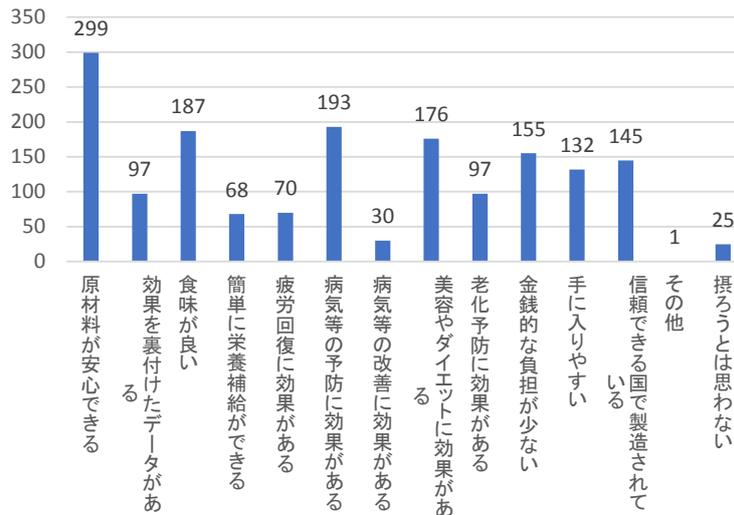
(Q10) (性別)



【健康食品を選ぶキーワード】

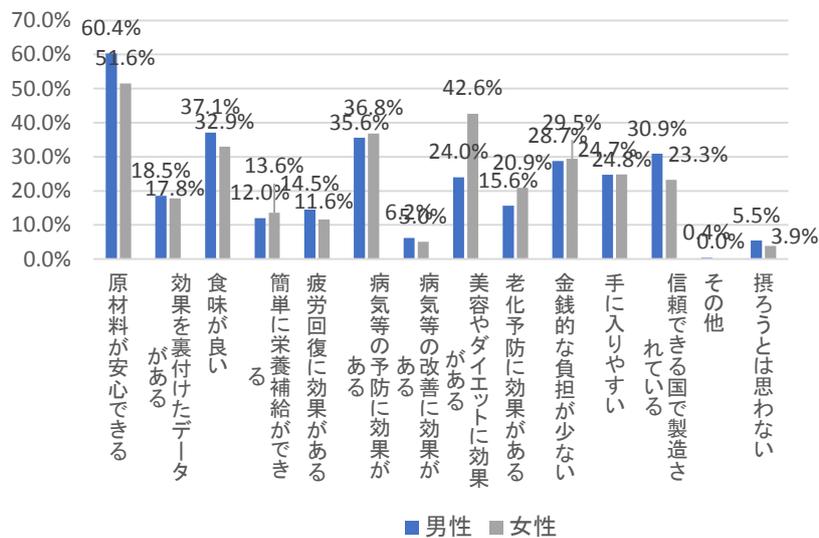
様々な効果をキーワードとして考えていることに加えて、「原材料が安心できる」ことが重視される結果となった。また、「食味が良い」ことも重視されている。

(Q11) あなたが健康食品を選ぶ理由として、どういったキーワードを重視しますか。[複数回答]



性別に見ると、男性は「原材料が安心できる」「食味が良い」「信頼できる国で製造されている」をキーワードとして重視する割合が女性よりもやや高い。一方で女性は「美容やダイエットに効果がある」「老化予防に効果がある」ことをキーワードとして重視する割合が高い。

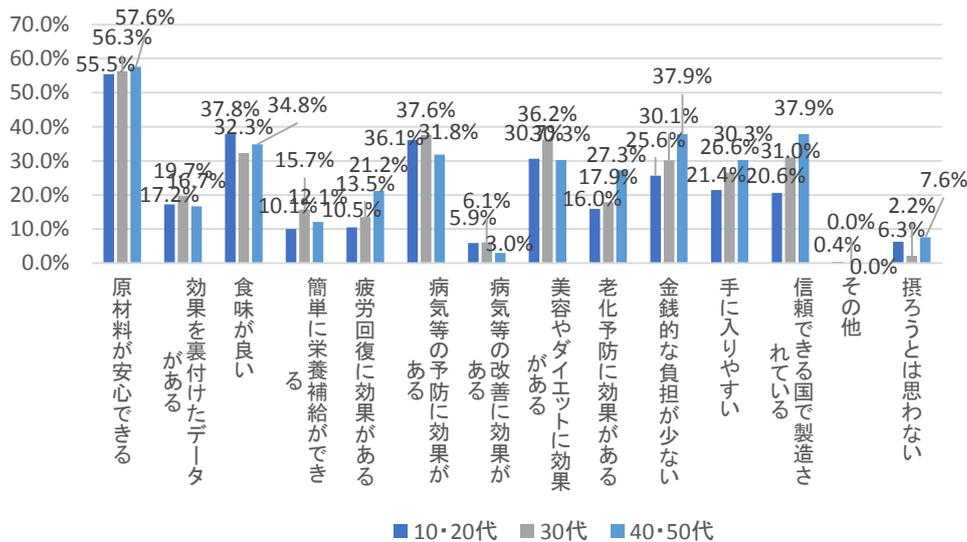
(Q11) (性別)



参考資料

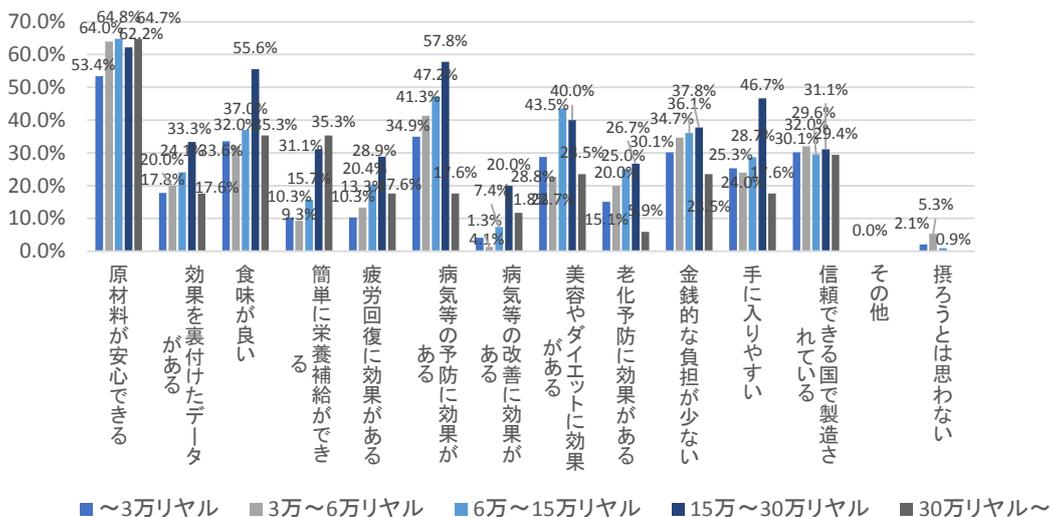
年代別に見ると、「老化予防に効果がある」「金銭的な負担が少ない」「手に入りやすい」「信頼できる国で製造されている」といった項目は年齢に比例して高くなっている。「簡単に栄養補給ができる」「美容やダイエットに効果がある」といった項目は30代が他の年代よりも高い。

(Q11) (年代別)



収入別に見ると、年収が高い層は「食味が良い」「病気等の予防に効果がある」収入別に見ると、「病気等の改善に効果がある」「手に入りやすい」といった項目において、他の層よりも重視するという回答が多い。

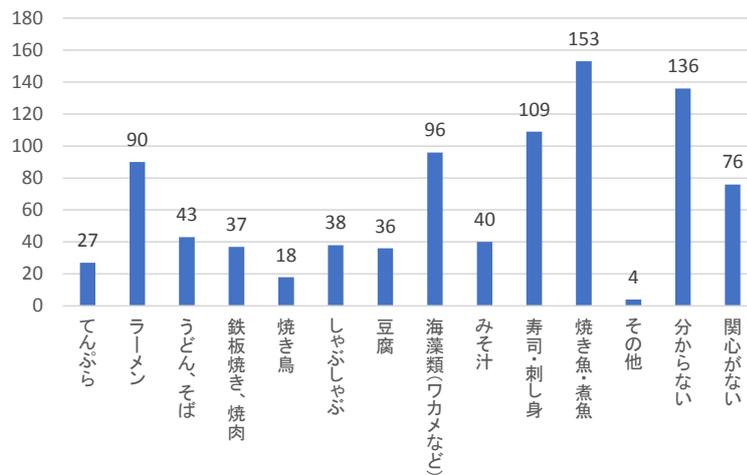
(Q11) (収入別)



【日本食への関心】

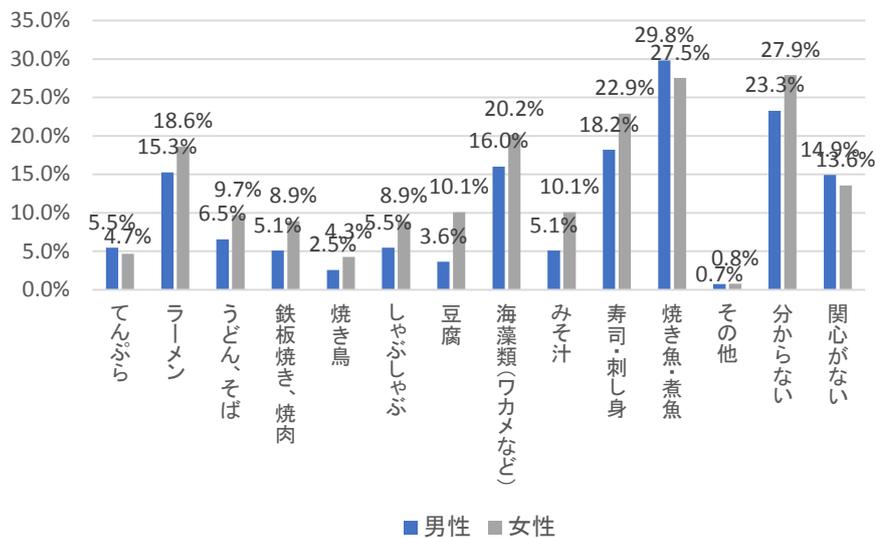
日本食への関心で最も高いのは「焼き魚・煮魚」であり、続いて「寿司・刺し身」が高い結果となった。このことは、健康食品の調査を行う中であったため、「健康によい日本食」を選択したことが影響している可能性が考えられる。

(Q12) 日本食は健康に良い食事とされていますが、あなたは、どのような日本食に関心がありますか。[複数回答]



性別に見ると、男性は「焼き魚・煮魚」への関心が女性よりもやや高い。一方で、女性は男性よりも「ラーメン」「鉄板焼き・焼肉」「しゃぶしゃぶ」「豆腐」「寿司・刺し身」への関心が高い。ただし、「分らない」とする回答も女性の方が高く、一般的に女性が日本食への関心が高いとは言い難い。

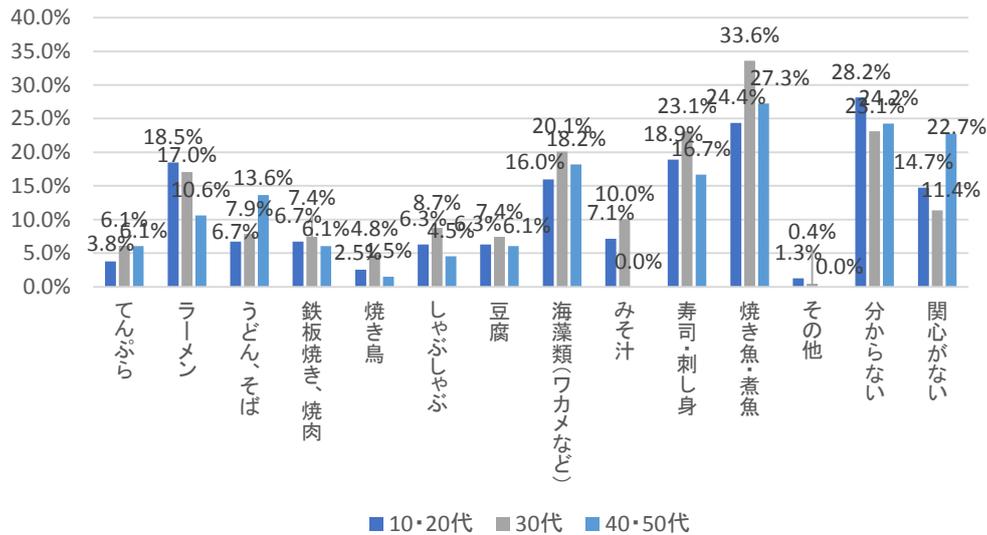
(Q12) (性別)



参考資料

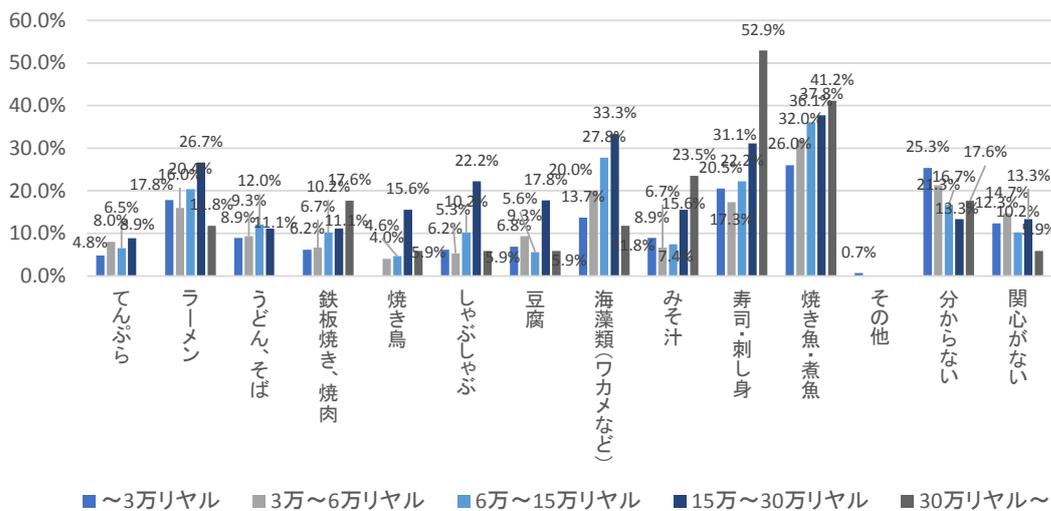
年代別に見ると、「ラーメン」は10・20代で高く、「うどん、そば」は40・50代で高い。また、30代は他の年代と比較して「焼き鳥」「しゃぶしゃぶ」「海藻類（ワカメなど）」「寿司・刺し身」「焼き魚・煮魚」で高く、「分からない」「関心がない」が低いため、30代は日本食への関心が高いと考えられる。

(Q12) (年代別)



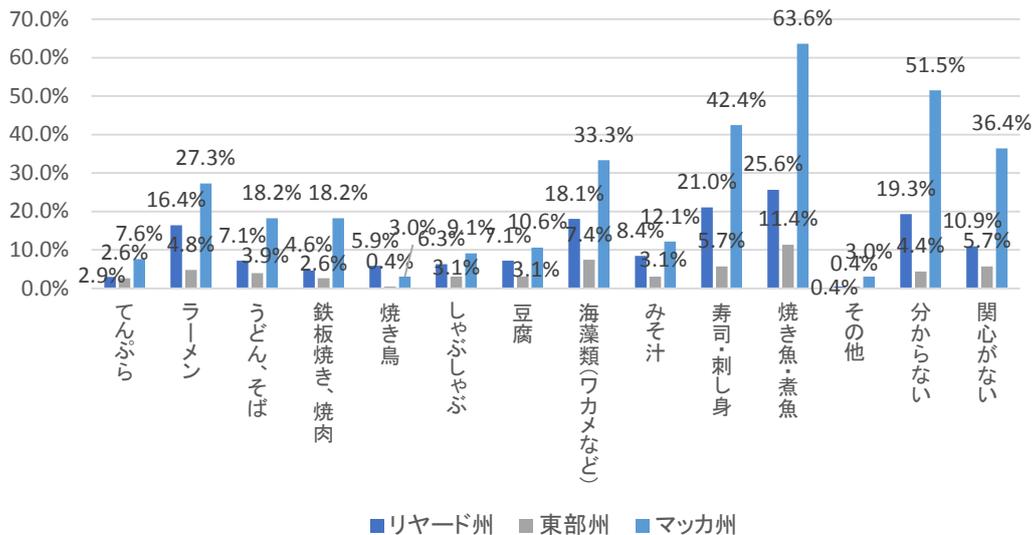
収入別に見ると、全体的に年収が高い層ほどそれぞれの日本食への関心が高い一方で、「分からない」と回答した割合は年収が低い層ほど高い。年収が高い層ほど日本食についての知識が豊富であると考えられる。

(Q12) (収入別)



居住地別に見ると、マッカ州では日本食についての関心が高く、多くの項目で他州よりも高い結果となり、リヤード州はあまり日本食のそれぞれの詳細については回答が少なかった。ただし、「分からない」「関心がない」についてもマッカ州で高く、リヤード州で低い結果となっているため、マッカ州の回答者のうち、日本食に関心がある回答者は複数の日本食に知識及び関心があるということが考えられる。

(Q12) (居住地別)



【自由記述】 510 件の回答があった (全回答数 533 件)。

(Q13) あなたが健康食品について思うことを、自由に記載してください。[任意]

- ・ 水産物が健康に良いという認識が多く、回答者があり、「魚・海産物・シーフード (31名)」といったキーワードが多く見られた。加えて、「エビ (10名)」「ツナ (2名)」「サバ (1名)」と固有名詞を挙げている回答も見られた。
- ・ 味については評価が分かれた。20名がおいしくない・味がしない等のネガティブな回答をする一方で、8名はおいしいと回答した。
- ・ 価格については高いとする回答が4名からあった。安い・リーズナブルだという回答は見られなかった。
- ・ オーガニックであることを重視する回答も2名からあったが、オーガニックが多くの人に知られている状況にはないと考えられる。
- ・ ほぼ多くの回答が「良いもの」「たくさん取るべきもの」「好きなもの」と回答しており、「よくわからない」「知らない」という回答は2名と少なかった。一般的には好意的に評価されていると考えられる。「大嘘」「幻想」(それぞれ1名)といった回答は少なかった。

参考2 周辺国の農業政策

本章では、サウジアラビアを含む GCC 諸国並びにイラン・イラクについて、関連するマクロ指標の比較ならびに農業関連政策の比較を行う。

2-1 農業・水産関連データの周辺国との比較

サウジアラビアは農業（農地面積）や水産養殖業（海岸線）において最大規模の資源を有する。

図表 120 国内資源量に関する指標の比較

国名	海岸線の長さ (km)	農地面積 (100万ha)	灌漑面積率 (%)	エネルギー生産量 (Mtoe; 2015年)	労働人口 (100万人; 2015年)
サウジアラビア 	2,640	173,700	69	648.6	12.6
UAE 	1,318	384.6	N/A	229.6	6.3
カタール 	563	66.0	47	221.3	1.8
クウェート 	499	149.7	100	167.8	2.2
オマーン 	2,092	1.8	N/A	77.8	2.4
バーレーン 	161	0.2	100	22.8	0.8
イラン 	2,440	46,500	50	298.9	18.4
イラク 	58	9,300	N/A	157.6	8.9

出所) World Bank, World Resources Institute, Arab Agricultural Statistics (2016), FAO 等より
NRI 作成

食料・農産物の GDP や生産高、輸出量は、イランが最大である。

図表 121 生産・輸出に関連する指標の比較

国名	名目GDP (10億USD; 2016年)	農業GDP (10億USD; 2016)	農業輸出 (USD bn; 2015)	食品輸出 (USD bn; 2015)
サウジアラビア 	646.4	17.3	1.9	1.5
UAE 	348.7	2.8	3.5	2.7
カタール 	152.5	0.3	1.8	0.1
クウェート 	110.9	0.6	0.2	0.1
オマーン 	66.3	1.3	1.0	0.6
バーレーン 	32.2	0.1	0.4	0.1
イラン 	419.0	40.4	6.8*	N/A
イラク 	171.5	8.7	4.2*	N/A

出所) World Bank, World Resources Institute, FAO より NRI 作成

人口ではイラン、購買力 (GNI) ではカタール、海外観光者受け入れ並びに食料輸入額はサウジアラビアがそれぞれ最大である。サウジアラビアへの観光客は国内に 2 箇所あるイスラムの聖地 (メッカ、メディナ) への巡礼客が中心である。

図表 122 市場規模に関連する指標の比較

国名	人口 (100万人; 2015年)	過去5年間の 人口増加率(%)	一人当たりGNI (1,000ドル; 2016年)	国際観光者数 (100万人; 2015年)	純食料輸入額 (10億USD; 2015年)
サウジアラビア 	31.6	2.3	21.7	18	45.4
UAE 	9.2	1.3	40.5	15	15.3
カタール 	2.5	3.5	75.7	2.9	6.4
クウェート 	3.9	2.9	34.9	0.3	3.0
オマーン 	4.2	5.2	18.1	1.9	2.9
バーレーン 	1.4	3.8	22.7	11.6	1.0
イラン 	79.4	1.3	5.4	5.24	12.2
イラク 	36.1	3.2	5.4	N/A	~7.0

注) GNI=国民総所得 (Gross National Income)

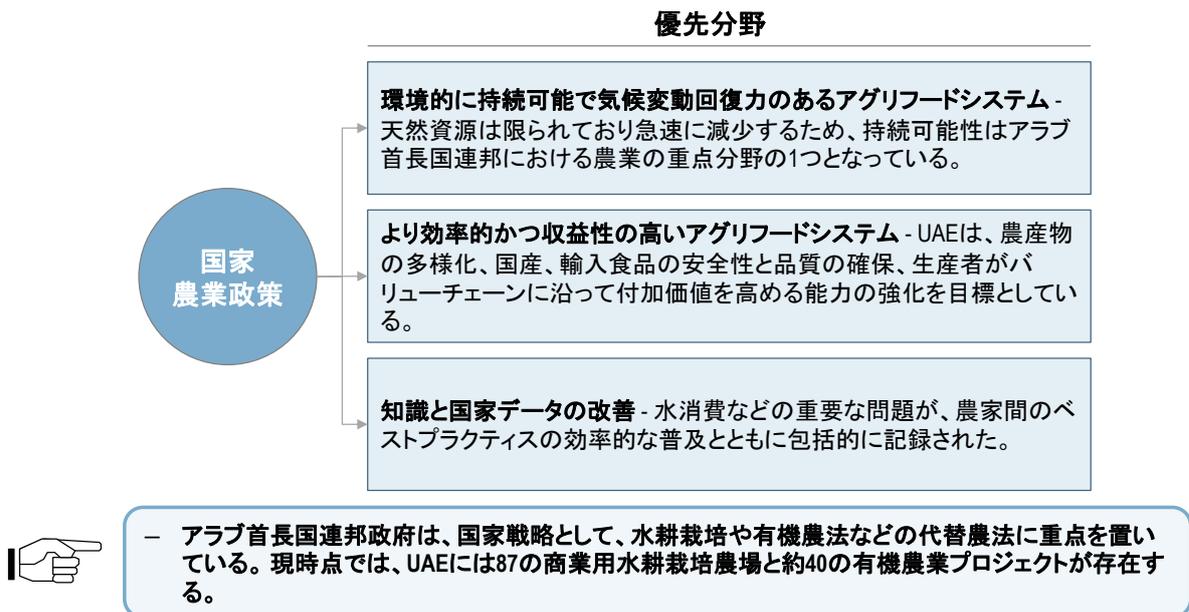
出所) World Bank, World Resources Institute, Arab Agricultural Statistics (2016), FAO 等から NRI 作成

2-2 周辺国の農業政策

2-2-1 アラブ首長国連邦

アラブ首長国連邦は国連食糧農業機関と協議した結果として、2016年に初めて農業政策を導入した。持続可能性、効率・収益性、知識の共有等に力点が置かれており、水耕栽培や有機農法等の農法に注目している。

図表 123 アラブ首長国連邦 – 農業政策



出所) 政府文書、FAO より NRI 作成

2-2-2 カタール

カタールの国家食料安全保障プログラム (QNFSP) は、国内の食料自給率 70%を実現するための国家戦略である。農業、食品加工、水の管理並びに再生可能エネルギーの活用が重点項目である。

図表 124 カタール – 国家食料保障プログラム

	重点分野	説明
	農業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済効率の向上、希少資源の最適利用、環境への最小限の影響と収益性の高い農業を実現するためのグローバルベストプラクティスの導入。 ・ 温室栽培、水耕栽培、先進的灌漑システムの推進。 ・ 補助金と価格支持制度の導入。
	食品製造	<ul style="list-style-type: none"> ・ さまざまな生食品の処理レベルを上げる。 ・ 適切な貯蔵施設と輸送インフラを備えた農業工業団地を建設して輸出を促進する。
	水	<ul style="list-style-type: none"> ・ QNFSPは、灌漑や農業の運営を最適化し国家の水管理を促進するために必要な措置を講じている。 ・ カタールは淡水化プロジェクトに多額の投資を行っている。
	再生可能エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・ カタール政府は、太陽エネルギーと風力エネルギーを使って電力生産を大きく進めている。 ・ すべての電力源の統合を促進するスマートグリッドの採用も重点分野である。

出所) www.hukoomi.qa、Reuters、政府文書、FAO より NRI 作成

2-2-3 クウェート

クウェートにおいて、食料安全保障は効率的な水資源管理と同様に施設農業など革新的な農業を通じて達成されるべき重点分野である。

「食料および水の安全保障の見通し 2025」において、クウェート政府が農業発展させるための重点分野は以下の通りである。

- ✓ 水不足を緩和するための施設農業 - クウェートは、国の天然資源不足を解決しうる代替食品生産技術を検討
- ✓ 漁業と養殖業の発展
- ✓ 食料安全保障への種子技術の発展
- ✓ 特に牛における、動物疾病の発生を抑える

2015年5月、クウェートは2040年までの食料自給計画を発表した。クウェートの食料と水の安全保障を2025年までに確保するため、以下のアクションが特定された。²²

- ✓ 農業技術への投資 - クウェートは、急激な水不足や気候の悪影響を被っているため、干ばつを防ぎ、効率的に水を使用しながら食料生産を増加させようとしている。

²² FAO Country Report 並びに <http://www.futuredirections.org.au/publication/kuwait-food-and-water-security/>

- ✓ 食料貯蔵量の増加 - 食料輸入に伴う脆弱性を軽減するため、クウェートはより多くの食料品を保管するためのインフラを構築している。
- ✓ 水資源管理 - クウェート政府は、地下水資源の不足と給水需要の増加により、1人当たりの水消費を削減し、排水管理と淡水化プロジェクトに投資する宣言をした。
- ✓ デマンドサイドマネジメント - クウェートは豊かな社会と低い食品価格を背景に、栄養過多と多大な食品廃棄をもたらしている。これらの課題に取り組むために、行動様式の変化を促すキャンペーンなどが導入された。

2-2-4 オマーン

オマーンは農業のサブセクターとして漁業を位置づけ、重点を置いている。塩害等を背景とする水資源の管理・効率的利用が最優先事項となっている。

図表 125 オマーン - 農業重点分野

重点分野	説明
オマーンの農業における持続可能な発展	<ul style="list-style-type: none"> • オマーン政府は、農業セクターの競争力と付加価値を高め、持続可能な天然資源管理を促進し、地方の生計機会を支援するために、持続可能な農業と地方開発戦略を推進している。 • 更なる災害リスク管理と気候変動適応、気候変動軽減戦略は、もう一つの重点分野。 • 政府は、従来の農業に加えて家畜や漁業分野をカバーする農業保険の浸透を推進している。
オマーンの漁業復興	<ul style="list-style-type: none"> • 魚粉および魚油分野は、オマーンの漁業および水産養殖分野における優先サブセクターである。 • FAOは、漁業活動のより効果的な監視を可能にする船舶監視システム(VMS)においてオマーンを支援している。
水資源管理における地域協力	<ul style="list-style-type: none"> • 塩害地域やオマーンの天然資源の枯渇を考慮すると、希少な水資源の管理と効率的な利用が最優先事項である。 • オマーンでは塩水を用いた食料生産技術の導入が大きな可能性を秘めている。

出所) 政府文書、FAO より NRI 作成

2-2-5 バーレーン

国土が小さいバーレーンでは、水産養殖業が重点産業の 1 つであり、技術と資本の両面で投資を求めるテーマである。

図表 126 バーレーン – 水産業重点分野

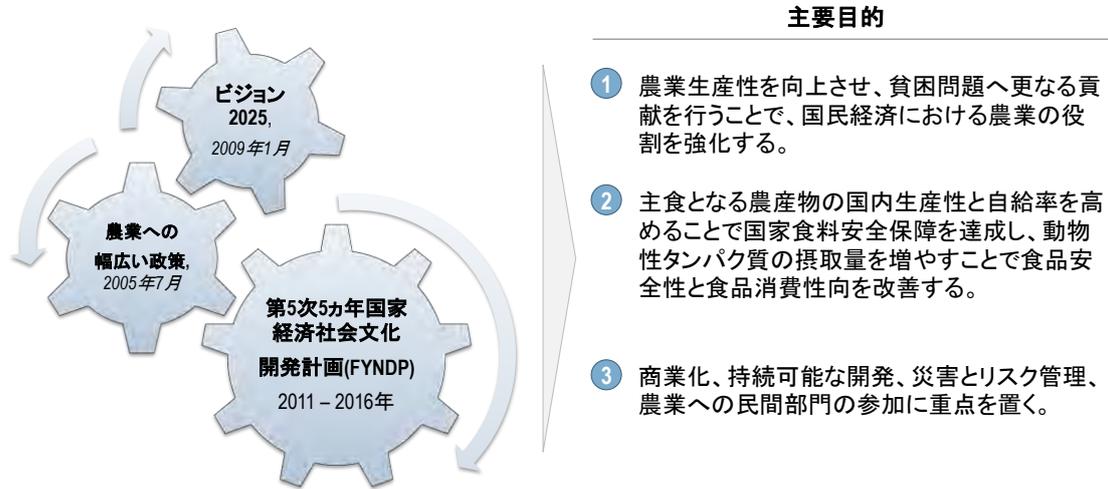
重点分野	説明
養殖生産の促進	<ul style="list-style-type: none"> • 気候、地理、沿岸地域、市場ネットワークなど、バーレーンは養殖業発展の強い可能性を秘めている。 • バーレーンは2008年に稚魚(2グラム/匹)を400万匹生産できる、養殖産業を開発した。 • バーレーン政府は、水産養殖業をさらに発展させる技術を積極的に模索している。
畜産業への支援	<ul style="list-style-type: none"> • バーレーンでは動物性食品の消費が多く、最も急速に成長する食品分野の1つになると期待されている。 • 家畜開発戦略には、品種改良、人工授精(AI)分野の意識啓発、遺伝的特性とその保存が含まれる。
緊急時対応のための能力形成	<ul style="list-style-type: none"> • バーレーンは、国境を越えた動物疾病の緊急事態に対処し、地域保全を確保する能力の強化を検討している。 • 食料安全保障措置の発展は、バーレーン政府にとってもう一つの優先事項である。

出所) 政府文書、FAO より NRI 作成

2-2-6 イラン

既存の地政学的懸念とイランに対する複数の経済制裁を背景とし、農業自給率の向上はイラン政府の最優先事項の 1 つとなっている。

図表 127 イラン – 農業政策の目的



出所) FAO Country Report より NRI 作成

イランは国内農業の保護に力を入れており、生産者への融資、消費者への食料補助金、輸入規制を行っている。

図表 128 イラン – 近年の政策段階

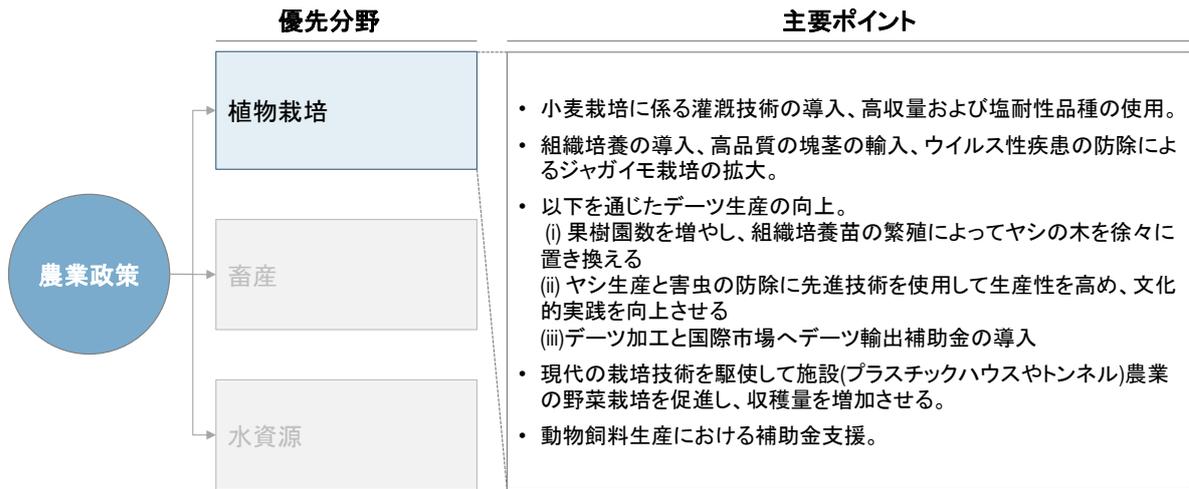
<p>生産者向け政策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 農業開発のための融資支援 - 農家への支援の主な形態は、イランの専門銀行である Keshavarzi 銀行による農業ソフトローンの提供。近年、ローン金利は低下している。 ✓ 購入保証価格の継続的な上昇 - 政府は、小麦、米およびその他18の作物の最低価格を策定し、その結果頻繁に世界価格をはるかに上回る国内価格が生産者に支払われることとなった。 ✓ 農業保険および災害リスク管理の支援 - 農産物保険基金(APIF)は、復興および補償基金を増やし、保険適用範囲を拡大すること(耕作農地の三分の一はAPIFの対象になっている)によって支援を提供している。
<p>消費者向け政策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新しい現金ベースの保護策が従来の食料補助金に取って代わった - 2010年10月、政府は補助金改革による価格上昇の緩衝材として、2カ月ごとに8ドルを個人に移転し始めた。さらに各個人に45.5ドルの一時金が与えられた。 ✓ 間接的な食料補助金の継続 - 食糧向け付加価値税は3%と、通常9%より低く抑えられている。
<p>貿易政策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 新規の二国間協定 - イランはケニア(2010年)、インドネシア(2013年)との二国間貿易協定を締結し、中国、UAE、トルコ、EU(27)、インドなど新規のパートナー国を探している。 ✓ 保護貿易措置の強化 - イラン政府は、国内生産者を保護するために、定期的に米、果物、野菜などの主要作物に輸入制限を課している。2012年には小麦、小麦粉、砂糖、赤肉など50品目に対する輸出禁止令が発令された。

出所) FAO Country Report より NRI 作成

2-2-7 イラク

イラク政府の農業政策における優先分野の一つは、質と量の両面で国の作物生産を向上させることである。

図表 129 イラク – 政府の優先分野（植物栽培）

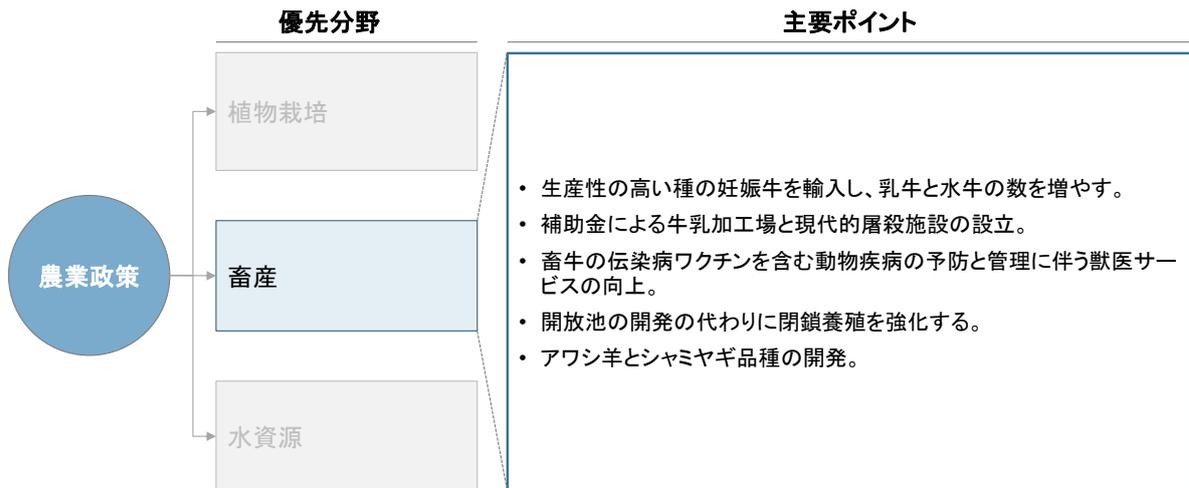


– 植物栽培におけるイラク政府の目的は、既存作物の収穫量を向上させる技術の推進。

出所) 政府文書、FAO より NRI 作成

イラク政府は畜産業への補助金その他、閉鎖養殖に基づく養殖部門の導入を検討中である。

図表 130 イラク – 政府の優先分野（畜産）

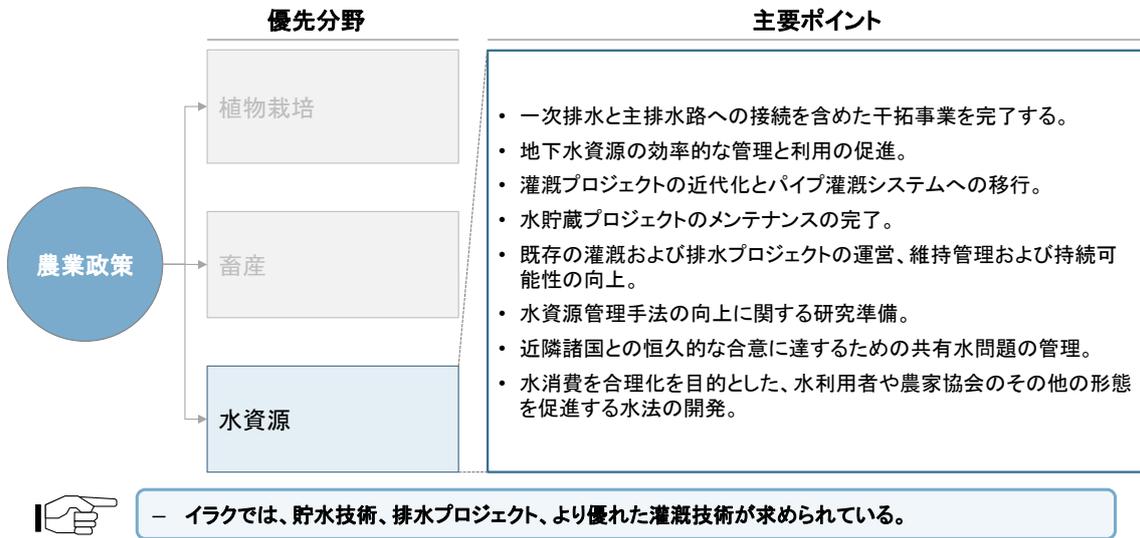


– 肉および酪農産業は、より優れた加工技術が必要なイラクの重要な分野。

出所) 政府文書、FAO より NRI 作成

イラク政府は、農作物生産計画への灌漑需要を支援するため効率的な水資源管理に焦点を当てている。

図表 131 イラク – 政府の優先分野（水資源）



出所) 政府文書、FAO より NRI 作成